

数字

イエスが2030年に再臨することを確認する方法

C. ルーク・ハンフリーズ

『歴史が起こる前にその歴史を教える』の姉妹編

2026

目次

本書の読み方.....	3
答えは1ページに.....	4ページあります
第1部 ― 基本ルール.....	5
第1章 ― 数え方のルール.....	5
第2章 ― どのカレンダーを使うべきか、そしてその理由.....	8
第3章 ― 証拠として認められるもの.....	11
パートII ― 2つの文.....	15
第4章 ― エゼキエル書4章：二つの牢獄、二つの判決.....	15
第5章 ― レビ記26章：7倍.....	18
第6章 ― イスラエルの時計.....	26
第7章 ― ユダの時計.....	29
パートIII ― 70週.....	35
第8章 ― ダニエルの70週.....	35
第4部 ― 収束.....	47
第9章 ― 4つの時計、1年間.....	47
第10章 ― 2030年の過越祭：期限切れ.....	52
第5部 ― 年月日.....	55
第11章 ― 5ヶ月.....	55
第12章 ― 1290・1260・1250・1335	59
第13章 ― 宴の場面.....	63
第14章 ― 2つの暦が一致する場所.....	66
第VI部 ― 対立的.....	69

第 15 章 — 最も強力な反論.....	69
付録.....	75
付録 A — マスタータイムライン.....	75
付録 B — すべての計算、再現可能.....	78
付録 C — 一日一日が大切.....	79
付録 D — 祝祭カレンダー 2025 年～2030 年、両暦.....	80 年
付録 E — 年表注記.....	81

本書の読み方

私の言うことを信じなくてもいいよ。

それは謙遜ではなく、方法論の問題です。本書は特定の年について具体的な主張をしていますが、そのような主張をする上で唯一誠実な方法は、それを検証するための手段を提供し、あとは読者の邪魔をしないことです。

そこで、私が何をしたかという、この本に掲載されている数字はすべて、ゼロから再計算したものです。以前の著書からコピーしたものでも、教わった先生方を鵜呑みにしたものでもありません。

生データから再計算された値は、自動的に再計算され、計算が合わなくなったときに通知してくれるスプレッドシートで計算し直されます。このスプレッドシートは作成中に私の間違いを2つ検出しました。著者が自分の計算ミスに素直に認める姿勢を示すと、どのような本になるのかを知っていただきたいので、その2つの間違いは第3章にそのまま残してあります。

その代わりに、あなたにお願いしたいことがあります。他の部分を読む前に、まず最初の3章を読んでください。

予言書をそんな風を読む人はいないことは分かっています。皆さんが知りたいのは日付ですよね。日付は第6章に書いてありますし、皆さんが先にページをめくろうとしていることも承知しています。しかし、最初の3章では、私がどのように数えているのか、どの暦を使っているのか、そしてその理由、この本の中で何が証拠として認められ、何が認められないのかを詳しく説明しています。もし私が結論を先に述べて、その後で方法を説明したら、結論に合うように方法を選んだのではないかと疑われるでしょう。ですから、行き着く先を知る前に、まず方法を説明するのです。

それが算術と数秘術の違いです。算術は計算を行う前に規則を定めます。数秘術は、求める数字を生み出す規則を見つけ出すのです。

予言書には評判があるので、口調について一言。もしできるなら、あなたに怒鳴りつきたいくらいです。今すぐ行動しなければならないと伝えます。私は販売テクニックとし

て緊急性を強調するのではなく、主の暦をお伝えし、それに従って行動するよう警告しているのです。私が発見したことを、情報分析の訓練を受けた方法、つまり情報源と信頼度に基づいて説明します。それをどうするかは、あなたと神との間の問題です。常にそうでした。あなたの永遠の行き先は、私の責任ではなく、あなた自身の責任です。私たちが天国で共にいられるよう祈りますが、もしそうでなかったとしても、あなたは永遠に 1000 年ごとに私のことを思い出し、私の言うことを聞かなかったことを嘆くでしょう。

もう一つだけ。それが終わったら始めます。

本書の随所に、私の主張が弱いと思われる箇所が散見されるでしょう。それらは脚注に埋もれているのではなく、本文中の重要な箇所にあります。この論理の連鎖に弱点など存在しませんが、あなたはそう思える箇所を見つけるでしょう。あなたは愚かではありません。ただ、まだ理解できていないだけです。

C. ルーク・ハンフリーズ info@purelife2030.com

答えは1ページにまとめられています

作業の前に、目的地を思い描く。だから、これがどこに向かっているのかが分かり、私がそこにたどり着く様子を見守ることができる。

エゼキエル書4章には、2つの刑罰が記されている。神は預言者に、イスラエルの家とユダの家の罪を負うため、390日間は左側を下にして、40日間は右側を下にして横になるように命じる。これは、それぞれの年を表す日数である。2つの国、2つの別々の刑罰、2つの異なる時間軸。

レビ記26章には、罰の段階的増加の法則が記されている。この章の中で、神は4回も、罰によって悔い改めが生じない場合、「7倍の罰を与える」と述べている。4回の警告、4回の罰の倍加である。

どちらの家も悔い改めなかった。そのため、両方の時計は倍増された。

イスラエルの時計。紀元前701年のアッシリアによるエルサレム包囲戦の失敗から始まり、紀元前311年に満了する390年。悔い改めはない。これを7倍すると、 $390 \times 7 = 2730$ 年となり、最初の開始時点から再び時計が動き出す。

紀元前701年 + 2730年 = **西暦2030年**

ユダの時計。40年は西暦30年の十字架刑から西暦70年のエルサレム包囲まで。悔い改めなし。7倍すると280年、西暦350年に満了。それでも悔い改めなし。さらに7倍すると、 $40 \times 7^2 = 1960$ 年。

西暦70年 + 1960年 = **西暦2030年**

さらに2つの時計が同じ年を指す。西暦30年のキリスト磔刑から2000年（40のヨベルの年）が2030年を指す。そして、1950年1月23日のクネセトによるエルサレム首都宣言から数えて、詩篇90篇で強い男の寿命とされる80年の世代も2030年を指す。第9章では、これら4つがどれほど互いに独立しているかを検証するが、その答えは私がかつて主張したほど独立していない。

刑期は過越祭で満了する。ユダの時計は西暦70年の過越祭、ティトゥスがエルサレムの城

壁を封鎖した時に始まった。過越祭から次の過越祭までの 1960 年は、2030 年の過越祭の季節へと繋がる。時計は年を定め、その季節内の日を定めるにはさらに一步踏み込む必要があり、それは第 10 章で示され、2030 年 4 月 24 日、種なしパンの祭りの最終日であるニサン 21 日に当たる。

そして 5 か月。ヨハネの黙示録 9 章 5 節には、人々が苦しみを受けながらも死ぬことができない 5 か月間が記されている。これは、滅ぼされるのではなく、悔い改めへと導かれる期間である。2030 年 4 月 24 日から **2030 年 9 月 27 日までは**、合計 157 日間、つまり 5 か月と 3 日である。第 11 章では、この 3 日間を切り捨てるのではなく、その 3 日間を扱っている。

それはヨム・テルア、つまりラッパの祭りです。イエスがまだ成就していない次の祭りです。イエスは初臨の際に春の四つの祭りを予定通りに成就しましたが、秋の三つの祭りが残っています。

本書のその他の部分はすべて、その 7 つの段落が真実であることを示すための作業である。

第 1 部 — 基本ルール

行き先が分からないうちに方法を確立してしまう。

第 1 章 — 数えるルール

この章を省略したバージョンの本もあるが、そちらは出来が悪い。

私がこれまで見てきた預言の日付に関する議論は、ほぼ全てここで崩壊しました。神学的な問題でも、歴史的な問題でもなく、誰かが途中でこっそりと計算方法を変えたことが原因です。ですから、計算を始める前に、私が用いる 4 つのルールをお伝えします。これらのルールは、本書における全ての計算に例外なく適用されます。もし私がこれらのルールを破っていることに気づいたら、それは私の間違いなので、指摘してください。

ルール 1 — カウントには両端の要素が含まれます

聖書に 1260 日とある期間が記されている場合、私は 1 日目を開始日とし、1260 日目を最終日と解釈します。両端の日も数えます。

これは便宜上のことではない。ヘブライ語における時間の数え方であり、その最も分かりやすい例が割礼である。

レビ記 12 章 3 節では、男の子は生後 8 日目に割礼を受けるべきと定められています。日曜日に生まれた子供は、翌週の日曜日に割礼を受けます。経過日数を数えると 7 日ですが、聖書ではそれを 8 日目と呼んでいます。生まれた日を 1 日目とし、そこから数え始めます。

エステルも同じことをして、それを明白に示しています。彼女はモルデカイに 3 日間昼夜を問わず断食するように命じ（エステル記 4:16）、その後、彼女は「3 日目に」王のもとへ行ったと記されています（エステル記 5:1）。これは 3 日間の断食の 3 日目であって、その翌日ではありません。また、七週祭は初穂祭から 50 日後に数えられ、初穂祭自体も数えられるため、ペンテコステがその日に当たるのです。

つまり、常に両方の側面を網羅するということです。

timeanddate.com で私の日数を確認する際は（ぜひ確認していただきたいのですが、それがこのサイトの目的ですから）、**「計算に終了日を含める」というチェックボックスにチェックを入れてください。**毎回必ずです。チェックを入れないと、私の計算結果より 1 日少ない日数が表示され、私が計算ミスをしたと思ってしまうでしょう。

このルールは、私が序文で述べた 2 つの間違いのうちの 1 つを犯した箇所でもあります。自分で発見した間違いであり、本書の基準はまず私自身に適用されるため、ここに記載します。

私の最初の著書『*歴史を未来に教える*』の中で、私はそのウェブサイトから証拠として 2 枚のスクリーンショットを掲載しました。1 枚は 1290 日という日数を示しており、チェックボックスは**オフ**になっています。もう 1 枚は 1260 日という日数を示しており、チェックボックスは**オン**になっています。正確さを主張する本の中で、わずか 4 ページ

しか離れていないのに、2つの異なるルールが使われているのです。

どちらのスクリーンショットも、それぞれが基準としている日付に対して正しい答えを導き出している。結論自体に問題はなかった。問題だったのは方法論だ。二通りの数え方をする本には、そもそも数え方のルールが存在しないのだから。

この本は、ある一つの方法で数える。

ルール2 — 1日は日没から始まり、日中の日付を使用する。

これは1日かかったので、注意してください。

ヘブライ暦では、1日は日没から日没までです。創世記の第1章には、「*夕があり、朝があった。1日目である*」と記されています。夕が先です。そのため、ユダヤ教の祝祭日は、どの暦でも「3月27日の夕から3月28日の夕まで」のように、私たちの暦の2つの日付にまたがって記されているのです。

これは、特定の日付まで数える際に非常に重要な曖昧さを生み出すが、ほとんど誰もそれについて言及していない。例えば、27日の夕方から28日の夕方まで続く祝祭日が期間の始まりである場合、どちらが1日目になるのだろうか？

私は夏時間で日付を設定します。28日です。

日中とは、人間が目覚めて行動し、「その出来事が起こった日」と表現する時間帯のことです。聖書が出来事の日付を記す場合、それは出来事が目に見える形で存在していた日を基準としています。そして、聖書の記述は、聖書体系における他のすべての年代記と矛盾しません。これとは異なる考え方では、矛盾が生じる可能性があります。

そのため、本書全体を通して、荒廃をもたらす忌まわしいもの、すなわちレオ教皇によるオスマン帝国の復活の承認は、2027年3月27日の日没から2027年3月28日の日没までの期間に起こると説明されているが、1290日間のカウントは**2027年3月28日から始まる**。

そのたった1日の違いが、予定通りに完了するタイムラインと、あらゆる場所で1日ずれてしまうタイムラインとの違いを生むのだ。

ルール 3 — ゼロ年は存在しない

紀元前 1 年の直後に西暦 1 年が続く。間に年は存在しない。この慣習は 6 世紀にローマ数字を使っていた修道士によって考案されたもので、ローマ数字にはゼロがない。

実際的な結果として、紀元前と紀元後の境界を単純に引き算すると、必ず 1 年ずれてしまい、しかもそのずれの方向が、年代設定者の数字を実際よりも良く見せるように仕向けられている。

私はこれを手作業で正確に計算することに頼るつもりはありません。本書におけるすべての年数計算は、天文学者が天文年数と呼ぶ方法で行われます。紀元前 1 年を 0 年、紀元前 2 年を -1 年、といった具合です。このシステムでは、紀元前 701 年は -700 年となります。加算は、通常の算術演算で行えます。

$$-700 + 2730 = \mathbf{2030}$$

天文学的な年数表記では 2030 年は西暦 2030 年となります。なぜなら、正の年については両方の年数が一致するからです。この変換は機械的で、本書に付属するウェブページに記載されている数式によって行われ、わずかなずれは単に監視されるのではなく、構造的に発生し得ないものとなります。

よろしければ、もっと長い方法で確認してみてください。紀元前 701 年から紀元前 1 年までは 700 年です。紀元前 1 年から西暦 1 年まではさらに 1 年増えて 701 年になります。つまり、西暦 1 年から $2730 - 701 = 2029$ 年が経過し、西暦 2030 年に到達します。答えは同じです。ただ、時間がかかる上に、間違えやすいだけです。

規則 4 — テキストに別段の定めがない限り、1 年は 1 年、1 日は 1 日とする。

予言的算術は評判が悪いが、それは当然のことだ。その評判は、単位変換が都合の良い時にいつでも単位を自由に変換する教師たちから来ている。ある時は 1 日を 1 年とし、別の時は 1 年を 360 日とし、「時間」を必要に応じて何でも変え、どんな数でも他のどんな数にも変換できるようにしてしまうのだ。

私は変換を 1 つだけ使用します。なぜなら、読んでいるテキストが明示的にその変換を

行い、その旨を伝えているからです。

エゼキエル書 4 章 6 節で、神は 40 日間について「わたしはそれをあなた方に 40 日間、すなわち 1 年につき 1 日として定めた」と述べています。これは私の解釈ではありません。これは、その箇所をどのように読むべきかについて、その箇所に示されている指示なのです。したがって、390 日は 390 年となり、40 日は 40 年となるのは、その聖句自体の権威によるものです。

他の箇所では、1 日は 1 日です。ヨハネの黙示録 11 章 3 節の 1260 日は文字通りの 1260 日です。ダニエル書 12 章の 1290 日と 1335 日も文字通りの日数です。私はそれらを年に換算しません。そのため、1260 日を 1260 年と解釈し、大艱難時代全体を中世の過去に位置づける歴史主義者という解釈学派全体と対立することになります。彼らは間違っています。私が彼らの解釈を知らないまま自分の解釈に至ったわけではないことを皆さんに知っていただくために、ここで彼らの名前を挙げておきます。

私も 360 日の「預言の年」は使いません。この考え方はよく見かけますが、これは 1260 日を 42 ヶ月で割ると 1 ヶ月が 30 日になるという事実から来ており、そこから人々は 360 日を 1 年として計算し、長い期間をそれを使って換算し始めるのです。その根底にある観察は正しいです。30 日の月が 42 ヶ月で 1260 日になるというのは、本文中で意図的に示されていることです。問題は、そこから外挿していく部分です。

しかし、それを延長するとどうなるか見てみましょう。360 日の「預言の年」2730 年を太陽年に変換すると、その期間で約 39 年が失われます。360 日の 2730 年は 982800 日ですが、これはわずか 2691 太陽年です。これを紀元前 701 年から計算すると、2030 年ではなく 1991 年に着地します。もし私が適切な数字を求めているなら、360 日年は私が最初に手に取るツールですが、それでは私が目指す場所には到底届きません。ですから、私はそれを使いません。390 と 40 は通常の年であり、1260 と 1290 は通常の日であり、この本で唯一の単位変換はエゼキエル書 4 章 6 節で示されているものです。

4つのルールを合わせて

1. **包括的**— 初日は開始日であり、両端もカウントされる。
2. **日照時間による日付**— ヘブライ暦では 1 日は日没から始まります。私は日照時

間から数えます。

3. **ゼロ年は存在しない。**年数は天文学的な数字で計算され、最後に元の年数に変換される。
4. **変換は一度のみで、**日が年になるのはエゼキエル書 4 章 6 節に指示されている場合に限られる。360 日の年は存在しない。

本書に掲載されているすべての計算は、これら 4 つの法則すべてを満たしています。付属のウェブページでは、これらの法則を実際の数式で検証し、いずれかの法則が成り立たなくなった場合は通知します。

さて、何かを数える前に、もっと難しい問題があります。どのカレンダーを使うべきでしょうか？

第 2 章 — どのカレンダーを使うべきか、そしてその理由

これは本書の中で最も弱い部分なので、付録ではなく第 2 章に置くことにしました。

答えを言う前に、まず問題点を説明させてください。

本書に記載されているヘブライの祭りに当たる日付はすべて、その祭りが何曜日に当たるかを知ることが前提となります。2030 年の秋の祭り（本書全体の議論の焦点）に関しては、それが問題にならないことが判明しました。その理由は、この章の最後に説明します。これは本書の中で最も朗報なことです。しかし、ある一つの日付に関しては、それが非常に重要な意味を持ちます。

その日付は 2027 年 3 月 27 日～28 日です。

ヘブライ暦を作成する 2 つの方法

ヘブライ暦は太陰太陽暦です。月は月の満ち欠けに連動し、年は太陽の満ち欠けに連動しなければなりません。そうしないと、収穫祭が本来の時期からずれてしまいます。太

陰暦の12ヶ月は約354日で、太陽暦の1年より11日短いため、約3年に1度閏月を挿入しなければ、過越祭が冬にずれ込んでしまうのです。

問題は、それをどのような権限に基づいて挿入するのか、ということだ。

観察に基づく答え——聖書時代全体とその後数世紀にわたって用いられてきた答え——は、新月が春分に最も近い月であり、イスラエルの大麥の生育状況によって確認されるというものである。申命記16章1節はイスラエルに「アビブの月を守る」よう命じているが、アビブは月の名前ではなく、大麥の状態を表す言葉である。それは穂の中の粒、つまり緑色で熟しつつある状態を意味する。月は畑を見て判断される。大麥がまだ熟していない場合は、サンヘドリンが月を追加し、それを公布し、狼煙と使者によって皆に知らされた。

計算によって得られた答えは、ユダヤ世界が紀元4世紀頃から使用してきたものである。ローマ帝国の迫害の圧力の下、サンヘドリンが解体され、もはや信頼できる情報伝達手段を失っていた状況下で、ヒレル2世は暦を数学的に修正したとされている。19年周期で、あらかじめ定められた7年間に13番目の月が挿入される。観測は不要である。エルサレムに機能する裁判所がなくても、世界のどこでも通用する。

この法律には、ロシュ・ハシャナーが都合の悪い日に重なる場合に、ロシュ・ハシャナーを1日か2日ずらす4つの延期規則（デヒヨット）も含まれている。主な目的は、ヨム・キプールが安息日と重なるのを防ぐことであり、そうなると2日間連続で料理や埋葬ができなくなる。

固定暦は、私の仲間たちが通常受けるような軽視よりも、もっと高く評価されるべきです。それは、国家の制度が破壊されていく中で、国民の信仰を守ろうとした人々による、必要不可欠な保存行為でした。それは驚くべき数学的成果であり、16世紀にわたって祝祭を存続させてきました。敬意を払うに値するものです。

しかし、延期に関する規則は行政上の規定であり、遵守を容易にするためのものです。レビ記23章にはそのような規定はありません。

私が観測カレンダーを使う理由

理由を3つ挙げ、重要度の高い順に並べました。

まず、それは聖書本文に書かれている通りです。レビ記23章は、祭りを月の日にちで定めています。申命記16章1節は、大麦の収穫によって第一月を定めています。どちらの箇所にも、19年周期やヨム・キプールが安息日に重ならないようにする規則については何も書かれていません。祭りの時期を知るためにレビ記23章を読むのであれば、レビ記23章が前提としている方法を用いるべきです。

第二に、それは預言が与えられた時、そして最初の4つの祭りが成就した時に有効だった暦です。エゼキエル、ダニエル、ヨハネは皆、観察に基づく暦に基づいて記述しました。福音書記者も同様です。イエスは、300年後に存在したヒレル暦ではなく、観察に基づく過越祭に十字架につけられました。最初の4つの祭りが観察に基づく暦に基づいて成就したのなら、残りの3つの祭りもその暦に基づいて成就すると私は考えています。

第三に——そしてこれはあまり好ましくない理由だが——計算された暦にはずれが生じる。19年周期は非常に優れているが完璧ではなく、約216年ごとに1日ほどずれる。16世紀にわたって蓄積されたこの誤差は現実のものであり、現代のラビによる過越祭が春分から丸1ヶ月後に行われることがある理由の一つとなっている。このずれは計算上の事実であり、ユダヤ教当局も認めている。そして、正確な時期を定める際には天文学的な方法を好む正当な理由でもある。

本書で使用されている暦は、メシア2030プロジェクトの研究に基づき、エルサレム時間における春分に最も近い月の合を最初の月として天文学的に計算して定めている。

費用は

その選択によって私が被った代償を、できる限り分かりやすく述べます。

2025年から2030年までのすべての年について、両方の暦、すべての祝祭日を並べて比較してみました。その差は日数で表すと以下ようになります。

年	2つのカレンダー間のギャップ
2025	0～1 日
2026	1 日
2027	30～31 日
2028	1～2 日
2029	1～2 日
2030	春には 1 日、 秋の宴会には毎回 0 日

2027 年を見てみよう。

この 6 年間のうち 5 年間は、2 つの暦は 1～2 日以内の誤差で一致している。これらは大きく異なる結果を生み出す対立するシステムではない。これらは同じ月の現実を近似的に捉える 2 つの方法であり、ほとんどの場合、同じ結果を示す。

しかし、2027 年は異なる。2027 年には、固定暦に 13 番目の月であるアダール 2 月が挿入されるが、春分・秋分規則は挿入されない。

2027 年の春分点に最も近い合は 3 月 8 日なので、規則 2 により、観測上の最初の月はその日の日没（日照日 3 月 9 日）から始まります。これにより、過越祭であるニサン 14 日は 3 月 21 日の日没から 3 月 22 日の日没までとなり、日照日は **2027 年 3 月 22 日となります**。

固定暦では、**2027 年の 4 月 8 日がニサン 1 日、4 月 21 日がニサン 14 日**となる。6 年のうち最も重要な年である 4 月 8 日に、わずか 30 日しか離れていない。

実に 1 ヶ月の差がある。そして、2027 年は全範囲の中で唯一の例外的な年だ。

つまり、ここに脆弱性がある。2027 年 3 月 27 日～28 日は、観測暦においてのみ存在する。もし固定暦が正しいとすれば、その日は祝祭日ではなく、初穂祭の根拠は消滅し、1290 年の始まりは別の場所にあることになる。

観測暦は、上記の3つの理由から正しい。これは些細な問題ではなく、異論を唱える人々も愚か者ではない。これは、私が提示した2つの日付のうち近い方の日付の根拠となる重要な前提であり、しかもその日付は、選択によって1ヶ月の差が生じる6年間のうちの1年に該当する。もしそれが気になるなら、気になるべきだ。私自身も、この章に長い時間を費やすほど気になったのだから。

そして、良いニュースです。

その表の最後の行をもう一度見てください。

2030年には、2つの暦は完全に一致する。 おおよそではなく、秋の祝祭日ごとに、日付まで正確に一致する。

宴会	観測カレンダー	固定されたラビ暦
ヨム・テルア（ティシュリ月2030年9月28日 1日）		2030年9月28日
ヨム・キプール（ティシュリ2030年10月7日 月10日）		2030年10月7日
スコット祭が始まる（ティ2030年10月12日 シュリ月15日）		2030年10月12日
1335日目	2030年12月21日	2030年12月21日

その点をじっくり考えてみてください。なぜなら、この本の残りの部分を真剣に受け止めるためには、あなたが受け入れなければならないことが変わってくるからです。

目的地は私のスケジュールに左右されません。

この章の内容をすべて否定し、観測暦は奇異なものであり、固定暦こそが唯一正当なヘブライ暦であると考えた読者であっても、2030年9月28日のヨム・テルアと2030年10月7日のヨム・キプールにたどり着く。

その2つの日付は、私の方法論によるものではありません。どちらの方法論でも、最終

的にその日付に落ち着くのです。私のカレンダーを完全に無視しても、終点は変わりません。

スタートの号砲は暦に左右される。目的地は暦に左右されない。

まさにここで、予言者が「**奇跡的**」といった言葉を探し始めるのです。しかし、この**一致は奇跡ではありません**。これは、2つの太陰太陽系が偶然にも同じ位相になったときに起こる現象であり、実際に定期的に起こります。同じ表を見れば、2025年、2026年、2028年、2029年にも一致していることがわかります。2030年の一致の価値は、証拠となるものではなく、防御的なものです。日付を証明するものではありません。ただ、その日付に対する反論を一つ取り除くだけです。2030年9月と10月の日付は、標準的な暦でも示されているため、誰もそれを自作の暦の産物だと否定することはできません。それだけのことだ。それで十分だ。

第3章 — 証拠として認められるもの

私は牧師になる前は、社会人生活の初期を情報分析官として過ごしました。最初は韓国語の専門家で、後にダリ語の専門家になりました。仕事は、断片的な情報を分析し、それが何を意味するのかについて有益な見解を示すとともに、証拠が実際にどの程度の信頼性を持っているのかを明確にすることでした。

その仕事を通して学んだ教訓、そして私がこの本に込めたい教訓は、**すべての主張が同じように強いわけではないということ、そしてそうでないふりをすれば、人命を落とすことになるということです**。すべてを同じ自信に満ちた口調で提示する評価は、読者がどの部分に基づいて行動すべきか判断できないため、無意味です。

ほとんどの預言書にはまさにその問題があります。計算、歴史、解釈、推測が、一つの声で一つのボリュームで提示され、読者はそれらを整理しなければなりません。そこで、私が代わりに整理してあげましょう。

4つの階層

本書で述べられている主張はすべて、4つのカテゴリーのいずれかに分類されます。どのカテゴリーに属するかは、これから説明していきます。

ティア1 — 算術。入力値から必然的に導き出される。入力値が間違っていない限り、結果は間違いない。 $390 \times 7 = 2730$ はティア1である。 $70 + 1960 = 2030$ も同様である。ティア1の主張については、私を信用する必要はない。電卓が必要だ。

ティア2 — 歴史的事実。歴史記録にしっかりと裏付けられています。紀元前701年のセンナケリブによるエルサレム包囲はティア2です。アッシリアのエポニム・カノン、センナケリブ自身のプリズム碑文、そして列王記下18章と19章によってそれぞれ独立して確定されています。1950年1月23日のクネセトでの投票もティア2です。これらは信頼できる参考資料で確認できます。出典も明記します。

レベル3 — 解釈的。テキストを論理的に読み解く。理性的で真剣な、神を畏れる人々の間でも意見が分かれる。エゼキエルの390年が紀元前701年の包囲戦から始まるという解釈はレベル3である。レビ記26章の「7倍」が期間を倍増させるという解釈もレベル3である。**本書の二つの主要な論点はどちらもレベル3であるため、それぞれ一章を割いて解説している。**

ティア4 — 予言的。ティア1から3までの主張から導き出された未来予測。まだ検証されていません。2027年と2030年に関するすべてはティア4です。私はこれらを確信しています。実際、これらは証明済みだと考えています。

鎖の強さは最も弱い部分によって決まる。そしてこの鎖の中で最も弱い部分はティア3だ。皮肉なことに、少なくとも私の考えでは、ティア4のリンクはティア3よりも信頼できる。なぜなら神が私にそう確信させてくれたからだ。

収束と適合の違い

本書の核心的な主張は収束である。4つの時計、それぞれ異なる開始日、異なる期間、異なる乗数を持つが、すべて2030年に終結する。

それに対して2つの反論が出てくるが、それらは異なる反論である。

まず、私が年を特定し、そこに至る4つの経路を逆算したという主張があります。これは曲線近似と呼ばれるもので、預言的な日付設定における典型的な失敗例です。パラメータに十分な自由度があれば、聖書のどの箇所からでも、好きな年に到達できます。そのような非難をする者は、偏見に満ち、思慮に欠け、データに値しない人物です。

2つ目はより微妙な点であり、他人の本であればもっと気になる点です。それは、**実際には独立していない情報源間の一致は、見た目ほど価値がないということです。4人の証言が一致すれば強力ですが、すべてが1つの情報源に遡る4つの記述は、1人の証言の繰り返しに過ぎません。**私はこの反論を真剣に受け止め、専用のセクションを設けました。第9章では、すべての時計について、共通の情報源、共通の基準点、共通の解釈上の動きを検証し、それらが4つの独立した証言**ではないという結論**に至りました。私は、他の誰かが指摘する前に、表でそのことを明記しました。

まず、曲線近似という反論から見ていきましょう。

では、収束と適合を分けるものは何でしょうか？それは3つの要素であり、私はこれら3つすべてを他のシステムにも当てはめます。

パラメータは目的地とは独立して選択されたのでしょうか？ 390と40という数字はエゼキエル書4章に、乗数7はレビ記26章に、80年の世代は詩篇90篇10節に記されています。これらのどれも私が選んだものではありません。私が選択するのは**開始日**だけであり、議論の核心はまさにそこにあります。だからこそ、第6章と第7章は計算ではなく、開始日を擁護することに多くのページを費やしているのです。

自由度はいくつあるのでしょうか？ 各クロックには、開始位置と乗数を適用する回数という2つの自由選択があります。4つのクロックで合計8つのパラメータがあり、2つ目のパラメータは正真正銘の自由選択であることを明確にしておきたいと思います。レビ記26章には、乗算の回数は明記されていません。

しかし、2番目のつまみがどれほど粗いかを見てください。乗数は7なので、追加で適用するたびに文全体が7倍になります。紀元前701年から390年のイスラエルの場合、

乗数が 0 の場合は紀元前 311 年、1 の場合は西暦 2030 年、2 の場合は西暦 18410 年になります。西暦 70 年から 40 年のユダの場合、0 の場合は西暦 110 年、1 の場合は西暦 350 年、2 の場合は西暦 2030 年、3 の場合は西暦 13790 年になります。

記録された歴史上のどこかに位置する時計の値は、必ず一つしか存在しない。それは調整可能なつまみではなく、妥当な位置が一つしかないスイッチのようなものだ。真の自由は開始日にこそ宿る。だからこそ、第 6 章と第 7 章では、計算を行うよりも開始日を擁護することに多くのページを割いているのだ。

システムは、本来通過する必要のないチェックを生成していませんか？ これは最も厳しいテストであり、もし私があなたなら、自分自身にこのテストを適用するでしょう。適切に設計されたシステムは、まさにその目的どおりの結果を生成し、それ以上のことは何も生成しません。現実の事象を記述するシステムは、意図せずして予期せぬ結果を生み出す傾向があります。

この本にはそのような例が 3 つあり、後ほど詳しく見ていきます。ダニエル書の 1290 年とヨハネ書の 1260 年の間隔はちょうど 30 日で、これはまさに背教期間の長さです。私が意図的にそうしたわけではなく、600 年の時を経て 2 人の著者が書いた 2 つの数字の差なのです。1260 年と 1250 年の間隔はちょうど 10 日で、ヘブライ暦全体で 10 日間隔の祝祭日が 1 組だけあり、この 2 つの数字はその両端に当たります。そして、ダニエル書の 1335 年は神殿再奉献記念日に当たりますが、これはスプレッドシートを見るまで気づきませんでした。

これら 3 つはどれも必ずしも機能する必要はありませんでした。それらはシステムが構築された目的ではありません。モデルが、あなたが尋ねていない質問に対しても正しい答えを出し続ける場合、それはモデルが現実の何かを追跡している証拠です。

私が間違っていた点

序文で、検証用ウェブページを作成したことで、私自身の誤りを 2 つ発見したと述べました。検証可能であると謳う書籍は、検証によって得られた結果を示すべきなので、ここにその誤りを列挙します。

数え方のルール。第1章で説明されているように、私の最初の著書では、わずか4ページしか離れていないのに、包含／排他という2つの異なる慣習が使われていました。これを1つのルールに統一し、それをあらゆる場面で適用することで解決しました。

神殿の破壊。『歴史を未来に教える』の中で、私は神殿が「西暦70年の過越祭の期間中」に破壊されたと書きました。

それは間違いです。ヨセフスもミシュナーも明確に述べています。ティトゥスは西暦70年4月中旬頃、過越祭のニサン14日にエルサレムの城壁を封鎖しました。当時、エルサレムは巡礼者で溢れかえっており、まさにそれが包囲戦が壊滅的な被害をもたらした理由です。しかし、神殿自体が燃えたのは、それから約3か月半後の8月上旬、アブ9日か10日でした。

私は攻城戦を一つのイベントにまとめてしまっていた。よくある間違いではあるが、それでも私のミスだった。

興味深いのは、私がそれを修正したときに何が起こったかです。ユダの時計は、2030年の過越祭に当たるためには、過越祭から次の過越祭までの期間が必要です。包囲は過越祭に始まりました。神殿は8月に焼失しました。つまり、修正された事実——焼失ではなく包囲——こそが、実際に数を正しく数えるための基準となるのです。

そのミスによって、私の主張は弱くなってしまっていた。これは人々が想像するよりも頻繁に起こることであり、たとえ自分の結論に満足していても、必ず確認すべきだということを示す好例だ。

この本が主張することと主張しないこと

始める前に、4つの点を明確にしておきましょう。

私は神から啓示を受けたと主張しています。「その日も時間も誰も知らない」という反論については最終章できちんと論じますが、80ページも放置しておくつもりはないので、ここでは簡単に説明します。本書は日付を特定しています。その日付は、文献や歴史からの推論、無数の事実の収集、そしてそれらがどのように整合するかを検証する

ことによって導き出されたものです。

この議論のどの部分も証明になるとは主張しません。4つの時計のどれ一つとして、私を納得させることはできないでしょう。どれも偶然の一致である可能性があります。聖書は分厚い本であり、多くの数字が出てきます。議論の要点は、収束性です。この本がたった一つの計算に依拠していると誤解されないように、私はそのことを明確かつ繰り返し述べています。

私の開始日は議論の余地がないと断言します。ティア3に該当します。私はその正当性を主張します。反論する人がいるかもしれませんが、それは間違いです。

私は自分が特別な人間だと主張するつもりはありません。神は悔い改めた人々を用いられるのです。私は聖なる生活の中で主に仕えることに身を捧げた者です。私が特別なのは、そのような人間が稀であるという点だけです。

以上が基本ルールです。それでは、本題に入りましょう。

パートII — 二つの文

二つの主要な章、そしてそれらが動かし始める二つの時計。

第4章 — エゼキエル書4章：二つの牢獄、二つの判決

エゼキエルは奇妙なことをするように頼まれる。

「あなたは左側に横になり、イスラエルの家の罪をその上に負いなさい。あなたがその上に横たわっている日数だけ、あなたは彼らの罪を負わなければならない。わたしは彼らの罪の年数に相当する日数をあなたに定めた。三百九十日である。このようにして、あなたはイスラエルの家の罪を負わなければならない。」

これらを終えたら、今度は右側を下にして横になり、ユダの家の罪を負わなければならない。わたしはそれをあなたに四十日間、すなわち一年につき一日ずつと定めた。」

— エゼキエル書 4:4-6

その前の1節から3節では、彼はもっと奇妙なことをするように言われている。

「さあ、人の子よ、煉瓦を一つ取り、それを自分の前に置き、その上にエルサレムという町名を刻みなさい。そして、それを包囲しなさい。…それから、鉄板を取り、それを鉄の壁として、自分と町の間を立て、顔を町に向けて包囲しなさい。**これはイスラエルの家へのしるしである。**」

都市の絵が描かれたレンガ。その周りに築かれた包囲網。預言者と都市の間には、鉄製の鉄板（ヘブライ語で平らな調理用プレートを意味する一般的な言葉）が垂直に立っている。そして、片側に390日、もう片側に40日と記され、それぞれの日が1年を表している。

それらがどれほど議論の的になっているかを示すために、それらを取り上げたい。

議論の余地なし：1日は1年に相当する

「1年につき1日」と明記されています。これは本書における唯一の単位換算であり、本文自体が単位換算を行っているため、ここでもこの単位換算を用います。これについて異論を唱える人はいません。

異論の余地なし：2つの別々の文がある

イスラエルには390、ユダには40が与えられる。これらは別々に与えられ、別々に扱われ、合計して430になることはない。

ギリシャ語七十人訳聖書の中には、最初の数字を390ではなく190と訳しているものもあり、また、これらの数字を組み合わせて430とし、エジプトの430年を意図的に反映させていると考える解釈者もいます。私はヘブライ語マソラ本文の390を使用し、文を分けて扱います。なぜなら、この箇所自体が、異なる側、異なる民族、異なる期間、そして2番目の文を始める前に最初の文を完了するようにという明確な指示など、文を分けて扱っているからです。

二つの国家という解釈は、歴史が要求するところでもある。エゼキエルの時代には、これらは二つの異なる政治主体であり、それぞれ異なる歴史を持っていた。北王国、すなわちイスラエルの家——レハブアムの傲慢さによって王国が分裂した後、ヤロブアムのもとで分離した十部族——は、偶像崇拜に深く陥り、神は自らイスラエルと離婚したと述べている。イスラエルはアッシリアによって滅ぼされ、追放され、二度と戻ってこなかった。南王国、すなわちユダの家もまた不誠実であったが、幾度となく部分的に悔い改め、離婚されることはなく、存続した。

二つの国、二つの記録、二つの文章。それが本文だ。

鉄板の意味

さて、解釈の問題に移りますが、それではティアが下がります。

鉄板は、包囲軍の役を演じる預言者と都市の間に立ちはだかる障壁である。3節で神自身が述べているように、これは「イスラエルの家へのしるし」である。ユダ側に移る時、鉄板はそこにはない。

私はその障壁を、**それが描く包囲戦が成功しないことを意味している**と解釈した。軍隊は突破できない。包囲軍と都市の間には何かが立ちはだかっているのだ。

その解釈には、明らかに歴史的根拠がある。エルサレムは一度ならず包囲され、その包囲は大きく二種類に分けられる。紀元前 586 年のネブカドネザルの包囲は成功し、城壁は崩れ、神殿は焼失し、人々はバビロンへ避難した。紀元 70 年のティトゥスの包囲も成功し、同じことが再び起こった。しかし、紀元前 701 年、アッシリアのセンナケリブはエルサレムを包囲したが、**失敗に終わった**。

その失敗は古代近東における最も確かな証拠に裏付けられた出来事の一つであり、双方の証言によって裏付けられている。列王記下 19 章には、主の天使がアッシリア軍の陣営を攻撃し、センナケリブがニネベに撤退したことが記されている。また、センナケリブ自身の『プリズム』——自慢する動機が十分にある書記官によって書かれた公式記録——は、ヒゼキヤをエルサレムに「**檻の中の鳥のように**」閉じ込めたと述べているが、驚くべきことに、都市を占領したとは決して主張していない。首都を征服したアッシリ

ア王は、そのことを長々と述べている。この王はそうしなかったのだ。

エルサレム包囲戦の失敗を、包囲軍が突破できない障壁で表現した絵。これは実に自然な表現だと私は思いますし、まさにその通りだと断言します。

両者の意味するところ

これが本書全体の論拠となっているので、少しペースを落として説明しようと思います。

エゼキエルはイスラエルのために左側に横たわり、次にユダのために右側に横たわり、終始都市の方を向いています。なぜ本文ではどちらの側を向いているかを指定しているのでしょうか？

最も単純な答えは地理的なものです。東を向いていると、北は左、南は右になります。イスラエルは北の王国、ユダは南の王国でした。左は北、つまりイスラエル、右は南、つまりユダです。これは一つの解釈であり、多数派の解釈であり、詳細を説明するには十分ですが、これが間違っていることをこれから示します。**ここで読むのをやめても、二つの国のアイデンティティについて何も失うことはなく、時計も得られません。**

解釈は、私が最初にこの概念に出会ったメサイア 2030 プロジェクトの研究に基づくと、側面には**時間における方向も符号化されているというものです**。

論拠はこうだ。ヘブライ語は右から左に書かれる。ヘブライ語を読む人の目は右端から左へと進む。もしヘブライ語の書記が文字を配置したのと同じように出来事の順序を並べるとしたら——そしてヘブライ語の書記は実際にこのように順序を描いていた——早い出来事は右側に、遅い出来事は左側に配置されることになる。

預言者は、包囲されたエルサレムを描いた図の傍らに横たわっている。包囲は図の中央にある固定点であり、彼はその片側に横たわり、次に反対側に横たわる。

- ・ **左側、イスラエル、390 年。** 右から左へのタイムラインで包囲の左側とは、*包囲後*を意味します。
イスラエルの 390 年の歴史は、包囲戦から始まった。
- ・ **右側、ユダ、40 年。** 包囲の右側とは、*包囲の前*のことを意味する。ユダの 40 年は、包囲で終わるように設定されている。

それが正しいとすれば、エゼキエルには二つの期間だけでなく二つの方向性も与えられており、レンガに描かれた包囲戦は、両方の文章が回転する要となっている。

それでは、反論を徹底的に検証させてください。皆さんは、反論の説得力を十分に理解する権利があるからです。

反論。 位置に関する些細な事柄に、これほど大きな意味を持たせるのは無理がある。エゼキエルは土の上に横たわる預言者であって、縮尺図を作成する製図家ではない。もし神が「これらの年は包囲の後に過ぎ、これらの年は包囲の前に過ぎ」という意味で言ったのなら、そう言うための語彙はあったはずだ。ヘブライ語には「前」と「後」を表すごく普通の言葉があるし、エゼキエル書の別の箇所でも、神はそれをはっきりと述べている。人が体のどちら側に横たわっているかから年代順を読み取るのは、舞台指示からの推論に過ぎない。確かに巧妙ではあるが、巧妙であることと真実であることは同じではない。

私はその力強さを感じる。

私が言い返すとしたら、 3つあります。

まず、その詳細は二度も *明記*されており、地理的な意味合いだけで解釈すれば、その明記は何の意味も持ちません。左右が単に南北を表しているだけなら、側面は装飾的なものであり、本文では既に両方の家が明確に同じ文脈で言及されています。神はエゼキエルに数多くの象徴的な行為を与えており、細部には概して意味があります。

第二に、鉄板は同じ方向を指し示している。純粹に地理的な解釈では、鉄板は説明を必要としない障壁であり、包囲戦を特定する必要がない。しかし、私の解釈では、鉄板はどの包囲戦（失敗に終わった包囲戦）かを示しており、側面はそこからどちらの方向に数えるべきかを教えている。この二つの要素は互いに補完し合っており、両者が関連していることを示す証拠となる。

第三に、**この解釈は上流ではなく下流で確認される**。エゼキエル書 4 章だけを冷静に読んだだけでは、誰もこの結論には至らないだろう。私がこの解釈を支持する理由は、それを辿っていくと、2つの文が全く異なる経路で同じ年に終わり、さらに2つの時計が止まるのも同じ年だからである。この解釈は、それ自体の自明性によってではなく、それが生み出す結果によって正当化されるのだ。

それは正当な議論の形式であり、あらゆる学問分野において仮説がその存在意義を示す方法であるが、最も強力な形式ではないし、私もそう装うつもりはない。第 6 章と第 7 章で示されるような結論に至らなければ、本書を読むのをやめるべきだろう。本書の価値は、そこから得られる成果によって決まるのだ。

レベル 3。議論は行われたが、証明はされていない。最も強い反論を全文記載した。現状は以上であり、あとはご自身で判断してください。

エゼキエル書 4 章が私たちに教えてくれること

- ・ 二つの国、二つの文章：390 年と 40 年。（レベル 2 — 本文にそう書いてあります。）
- ・ 一日が一年に相当する。（第 2 段階 — 第 6 節にそう書いてある。）
- ・ 鉄の障壁によって示される、失敗に終わった包囲戦。（ティア 3 — 議論あり。）
- ・ イスラエルの歴史はあの包囲戦から始まり、ユダの歴史は包囲戦へと向かう。（第 3 段階 — 議論の余地があるが、これが弱点である。）

エゼキエル書 4 章には、これらの数字がさらに増える可能性を示唆する記述は一切ありません。それを知るには、900 年も遡り、ほとんど誰も読まないレビ記のある章に目を向けなければなりません。

第 5 章 — レビ記 26 章：7 倍

レビ記 26 章は、イスラエル人が約束の地に入る前に、もし彼らがその地で神を見捨てたらどうなるかを、神が正確に告げている章である。

これは決して心地よい章ではない。しかし同時に、トーラーの中で最も構造的に興味深い章でもある。なぜなら、一つの罰を脅かすのではなく、段階的にエスカレートしていく一連の罰を脅かし、そのエスカレートに関する明確な規則を定めているからだ。しか

も、その規則を4回も繰り返し述べている。

18節—「それでもなお、あなたがたがわたしに従わないならば、わたしはあなたがたの罪のために七倍の罰を与える。」 **21節**—「それでもなお、あなたがたがわたしに敵対し、わたしに従おうとしないならば、わたしはあなたがたの罪に応じて七倍の災いをあなたがたに及ぼす。」 **24節**—「そのとき、わたしはあなたがたに敵対し、わたし自身が、あなたがたの罪のために七倍の罰を与える。」 **28節**—「そのとき、わたしはあなたがたに激しい敵意をもって行動し、わたし自身が、あなたがたの罪のために七倍の罰を与える。」

4つの警告。それぞれが継続的な拒否を条件とする。それぞれが**7回指定する**。

その構造は明白であり、意図的なものである。これは、明確な乗数を持つ段階的な罰則制度である。「七回」が何を意味するにせよ、神はそれを一章の中で四度も繰り返しており、そのたびに同じ条件、つまりあなたがまだ悔い改めなかったことが罰の引き金となる。

この章の核心となる疑問は

すべては2つのヘブライ語に依存します: **שבע** (シェバ)、7、そしてそれに基づいて構築されたフレーズ。

解釈は2つあり、それらは全く異なる。

解釈 A — 激しさ。「七倍」とは、厳しさが七倍になるという意味です。より悪く、より厳しく、より徹底的。「七」は聖書でよく使われるように、完全性を表す数、つまり懲罰の完全かつ最終的な尺度として用いられています。この解釈では、この句は何かがどれくらい続くかについては全く言及していません。

読解 B — 期間。「7 回」は文を掛け合わせる。もし期間が 390 年で、悔い改めが生じなかった場合、期間は 390×7 となる。

解釈 A が多数派の見解です。これは私自身の言葉で明言しておきます。ほとんどの注釈者、ほとんどの翻訳、ほとんどの聖書研究書は、この句を期間の延長ではなく、厳しさの増大と解釈しています。最も一般的な英語訳である「七重」は、当然ながら長さではなく程度を示唆しています。ヘブライ語学者にアンケートを取れば、解釈 A が圧倒的に勝利するでしょう。しかし、彼らは皆間違っています。

そして、この本を読むにはリーディング B が必要です。リーディング B がなければ、重複した文も、2730 年も、1960 年も、2030 年も存在しません。これが要点です。リーディング A が正しいければ、本を閉じてください。

それでは、B の主張を展開したいと思います。まずは、A の主張のうち正しい部分を認めることから始めましょう。

強度測定が正しいこと

文脈は正しく捉えている。レビ記 26 章に列挙されている罰は質的なものである。

恐怖、衰弱性疾患、敗北、干ばつ、野生動物、包囲、人食い、追放。それらは恐怖を増幅させる。乗数をその恐怖を強めるものとして解釈することは、周囲の描写に自然に合致する。

そして「七」という数字は、聖書全体を通して完全性という感覚を確かに伝えています。創造の七日間。カインへの七倍の復讐。ナアマンが七回身を清めること。七十回七回赦すこと。誰もそれらを数えていません。

強調の解釈は無理なこじつけではない。それは、その文を単独で読んだ場合の明白な解

釈である。

持続性に関する論拠

まず、章の構成について。なぜなら、議論の要点は章の構成にあるにもかかわらず、それをきちんと説明している人はほとんどいないからだ。

トリガー	罰
ベースライン	14-15 節 — もしあなたが従わないなら 16-17 節・恐怖、衰弱性疾患、敗北
エスカレーション1	18 節 — 7 倍 19-20 節・空は鉄のように鉄のように、大地は何も生み出さない
エスカレーション2	21 節 — 7 回 22 節・野獣、子供連れ去り、道は人影もなく
エスカレーション3	24 節 — 7 回 25-26 節：剣、疫病、配給によるパン
エスカレーション4	28 節 — 7 回 29-33 節：人食い、都市の荒廃、諸国民の散り散り

同じ条件文が4回繰り返される。「それでもあなたは私に向き合わなかった」→7回。そして、最後の1人がどこにたどり着くかに注目してください。追放され、諸国に散らばったのです。

その表について注意点があります。私はエスカレーションを1から4まで番号付けしましたが、「この章ではルールが4回述べられている」という記述から「ルールはちょうど4回発動し、その後失効する」という記述に誤解が生じやすいでしょう。しかし、本文にはそのような記述はありません。最終的なエスカレーションを宣言したり、「これで終わりです」と述べたりする記述は一切ありません。本文にあるのは、「それでも態度を変えない場合は7回」という条件付き表現を4回繰り返しているだけです。

それが4つの個別の出来事の列挙なのか、それともイスラエルが真剣に受け止めるように4回繰り返し強調された常設規則なのかは、それ自体が解釈の問題であり、本文はそれを未解決のままにしている。私は常設規則の方に傾いている。同じ形式で繰り返される条件文は、リストというよりは政策のように読めるし、それを発動させる条件は一度も取り消されたことがない。私はここで議論をするつもりはない。神は私に真実を伝えるよう遣わされたのであって、意見を持つ多くの学者の一人になるためではない。解釈B — 継続期間が唯一正しい解釈である。

さて、議論は7つ。おおよそ弱いものから強いものへと並べているが、例外が1つある。最後の議論は意図的に順番をずらしている。それは正直な議論であり、正直であることと強いことは同じではないからだ。4番目と5番目の議論はこの章の根幹を成すものであり、合わせて読むのが最適である。

1つ目：ヘブライ語は決定的なものではない。18節の句は $\text{שִׁבְעָתָם אֲשֶׁר עָלֶיךָ}$ である。 שִׁבְעָתָם = シェバ・アル = チャトテケム、あなたの罪の上に七つ。これは副詞句であり、特に強調されていません。「七倍の厳しさ」とも「七倍の長さ」とも言っていません。どちらも文法的に可能です。「七倍」と訳している英語訳は、ヘブライ語が強制していない選択をしています。これは解釈Bを証明するものではありません。単に文法によって扉が閉ざされていないということの意味するだけで、一見するとハードルは低いように思えるかもしれませんが、確立する価値はあります。

2つ目：この章の最後に実際に示されている罰は、期間である。レビ記 26 章は 4 つの段階を経て、追放で終わるが、その追放期間をすぐに**時間**、具体的には安息年で測っている。

「あなたがたが敵の地にいる間、荒廃の期間中、その地は安息日を享受するであろう。その地は休んで安息日を享受するであろう。」 — レビ記 26:34

その次の節も同じ点を強調している。荒廃したすべての日々において、その地はイスラエル人がそこに住んでいた時には守らなかった安息を守っている。

その緊密さを見てください。4 番目の「七回」は 28 節です。その罰は 33 節まで続き、散り散りになることで終わります。そして、そのすぐ次の 34 節では、その罰がどのように測定されるかが述べられています。それは年数で数えられるということです。最後の乗数と数えられる期間は、本文中で隣り合っており、その間に何も挟まれていません。

この章の論理は算術で完結する。本文で年数で示される罰則に付随する乗数は、年数に対して何らかの作用を及ぼす乗数である。

3つ目：これが実際にバビロン捕囚の期間が数えられた方法です。歴代誌下 36 章 21 節でバビロン捕囚の 70 年が数えられるとき、歴代誌の著者はレビ記 26 章にすぐに遡り、

その理由は、「エレミヤの口を通して語られた主の言葉が成就し、その地が安息日を楽しむまで」起こったからである。捕囚は安息年が償われたこととして説明され、その償いは数えられている。そしてダニエルは、ダニエル書 9 章 2 節で、エレミヤの 70 年を文字通りの期間として読み、それを数え、それが終わるときに祈っている。

つまり、私が今行っていること、すなわちトラーから罰の期間を取り出し、それを年数として数え、満了することを期待するという行為には、正典上の先例があるのです。ダニエルもそうしました。これは決して異例なことではありません。

4：7 倍って、一体何の 7 倍なの？ これは私が最初に持ち出した議論ではない。ある反論から生まれたもので、それによって私がこの問題全体を理解するようになった。

厳しさは測定可能な量ではない。ある罰が別の罰の 7 倍であるという単位は存在しない。飢饉が以前の飢饉のちょうど 7 倍ひどいとはどういうことかと問われても、答えはない。計算が難しいからではなく、計算するための基準がないからだ。

刑期には単位がある。それは年だ。40 年の刑期に 7 を掛けると 280 年の刑期になる。これは誰でも確認できる。

では、さらに掘り下げてみましょう。罰とは、世界から切り離された性質ではなく、人々に課せられるものであり、課せられるには時間がかかります。したがって、あらゆる罰には「厳しさ」と「長さ」という 2 つの側面があり、罰の総額はその両方の積です。ですから、本文で罰が 7 倍になると書かれている場合、それはその総額について述べているのです。そして、総額を構成する 2 つの側面のうち、検証可能な方法で 7 倍の係数を持つことができるのは、正確には 1 つだけです。

反論は確かに存在し、それが唯一の逃げ道である。聖書全体を通して、7 は完全性を表す慣用句として用いられている。創世記 4 章 15 節の「彼には七倍の報復が下される」は、誰にとっても計算の問題ではない。レビ記 26 章の 7 倍という表現がそのような慣用句であるならば、それは「完全に」という意味であり、量的な意味合いは全くない。

その道を辿って、どうなるか見てみましょう。もしその数字が単なる慣用句であるならば、それは何も測っているわけではなく、4 つの記述は段階的にエスカレートしていく

ものではなく、同じことを4回繰り返して強調しているだけです。19節、22節、25節、29節の罰は、梯子を4段階上るのではなく、裁きの4つの描写ということになります。

つまり、分岐点があり、どちらの道も私が取り組める場所に繋がっている。7回というのは量的な意味合いを持つ場合（その場合、それは時間軸を持つ合計に関係し、その要素が検証可能な唯一の次元は期間である）、あるいは全く量的な意味合いを持たない場合（その場合、解釈Aは深刻さが倍増するという解釈ではない）、神がこれを4回深刻だと言っているという解釈になる。

強度測定値は、その第二の、より弱い形でのみ存続する。それは、実数の乗算であると同時に、測定不可能なものの乗算であるということはありません。

5：2つの解釈のうち、間違っているのは1つだけである。

議論4をさらに一歩進めてみましょう。もし7倍という係数が厳しさに関係するなら、それは誰も断言したり、測定したり、確認したりできない量に関係することになります。以前の罰はどれほど厳しかったのでしょうか？明記されていません。その後はどれほど厳しかったのでしょうか？その7倍です。どのくらいの期間にわたって？これも明記されていません。レビ記26章では、罰の段階的な増加に期間が定められていません。

このように構築された主張は、決して誤りとはなり得ない。いかなる観察結果も、日付も、計算も、それを否定することはできない。イスラエルが3000年の間にどのような運命を辿ろうとも、それは「7倍の何か」と表現できるのだ。

では、その横に期間の数値を並べてみましょう。ある開始時点から390年を7倍すると1年になります。そして、その1年は正しいか間違っているかのどちらかです。批判的な読者は、電卓を使えば1分もかからずに確認できます。これは大胆な試みです。

誤りようがないという主張は、何の作業もしていないのと同じである。これは整然さを好むということではなく、何かを言うことと何も言わないことの違いである。もし7倍が実数の実数乗算であるならば、原理的にはそれが誤って適用されたことを発見できるはずである。しかし、この2つの解釈のうち、それが可能なのは1つだけである。

この議論のすぐそばには、悪いバージョンが存在する。悪いバージョンはこうだ。

「期間の記述には数値が示されているが、深刻度の記述には数値が示されていない。したがって、期間の記述が正しい。」これは議論ではなく、単なる好みである。そして、批評家が「システム全体が動機づけられた推論である」と言うとき、まさにこのことを意味しているのだ。明確な答えを求めることは、テキストがそれを提供しているという証拠にはならない。実際、多くのテキストは明確な答えを提供していない。

良い解釈とは、私がどうしたいかではなく、テキストがどのように機能するかについての主張です。**エゼキエルが実際に受け取ったものを見てみましょう。**「そこに長い間横たわっていなさい」ではありません。390 日、次に 40 日、そして、もし要点が理解できない場合に備えて、明確な換算率、つまり 1 年につき 1 日が示されています。神は文章を定量化し、預言者にどの単位で読むべきかを指示しました。これは雰囲気の言葉ではありません。このように正確に、そして明示された換算率とともに提示された数字は、数えるために提示されたものです。

それをレビ記 26 章と並べて、その簡潔さに注目してください。ある章には正確な乗数が、別の章には正確な用語が示されています。期間の解釈では、関係するすべての数値が別の数値と結びつき、作用します。厳しさの解釈では、正確な乗数は正確な用語に触れることはなく、代わりに定量化されていないものに作用し、390 と 40 は最初の期限が過ぎると何もせずに放置されます。

それは証明にはならない。神は私にとって都合の良い数字を用意する義務などなく、経済性に基づく議論は結局のところ、テキストがどのようにまとまっているべきかという議論に過ぎない。

しかし、一方の解釈では明示された数量が一切使われず、もう一方の解釈ではそれらがすべて活用されている場合、それは注目に値する。そして、悪い解釈とは異なり、それは私の好みに関する主張ではなく、テキストに関する主張である。

6：厳しさに関する解釈は、歴史が悔い改めないという概念を終わらせる前に、章の終わりを迎える。4 番目と 5 番目の議論は、言葉が意味しうるものについてである。これは、この章がまだ何のためにあるのかについてである。

厳格に解釈すると、レビ記 26 章は完結した一連の出来事を描写している。4 つの段階

を経て追放に至るが、40 節から 42 節にかけて告白の可能性へと話が転換する。そこで物語は止まる。イスラエルがバビロンに陥るまでの経緯を記述する物語としては、確かに機能しているが、それ以上何も語られていない。

しかし、これら 4 つの事態の悪化を引き起こした根本的な原因はただ一つ、*あなたがたが依然として私に立ち返らなかったことだった*。そして、その原因はバビロンで終わったわけではない。ユダの家は 2000 年間、メシアに立ち返っていない。もしその引き金がまだ引かれておらず、聖書の記述が止まっているとしたら、レビ記 26 章は紀元前 8 世紀と 6 世紀のことだけを記した章であり、それ以降のことは何も語っていないことになる。

期間の解釈によれば、それはまだ続いている。悔い改めない期限切れは新たな期間を生み出し、章の算術は依然として拒否し続ける国家に対して働き続ける。

つまり、問題はヘブライ語がどちらの読み方を許容するかということだけではなく（どちらの読み方も許容する）、どちらの読み方がレビ記 26 章に過去 2 千年の歴史について何かを語らせることになるかということである。

7 つ目——そしてこれは私が最も強く主張する点ですが——この解釈は、その結果によって正当化されます。第 4 章で述べたのと同じことを、同じ理由で認めます。エゼキエル書 4 章の 2 つの文に期間の乗数を適用すると、開始日が 800 年離れているにもかかわらず、異なる経路、異なる乗数で、どちらも同じ年にたどり着きます。もし解釈 B が間違っていたとしたら、このようなことは起こらないはずです。

私はその推論を隠すよりも、むしろお見せしたいのです。それは最良の説明への推論であり、証明よりも弱いものの、れっきとした議論の一形態です。

5 と 7 がどのように結びついているかに注目してください。これらは 1 つの操作の 2 つの部分だからです。5 番目の論証は、期間の読み取りが失敗する可能性のある主張をしていると述べています。7 番目の論証は、チェックを実行すると失敗しないと述べています。どちらか一方の部分だけでは不十分です。反証可能な主張は、それによって真であるとは限らず、そもそも主張が間違っているはずがなかった場合、幸運な結果は何の

証明にもなりません。これら2つを組み合わせることで、あらゆるものをテストする方法が単純にわかります。つまり、偽である可能性のあることを述べ、それから実際に確認するのです。

私が印刷しないその議論のバージョン

4つ目の議論には、より声高な反論があり、私はその良いバージョンと悪いバージョンの両方をお見せしたいと思います。なぜなら、その違いこそが本書の全体的な方法論だからです。

より強い解釈では、厳しさを倍増させた罰をまだ執行しなければならず、執行には時間がかかる。聖書本文でユダに与えられた期間は40年のみである。したがって、7倍の罰はさらに40年間続く必要があり、悔い改めなければ、さらに7倍の罰が40年間続くことになる。2000年にわたって約50回繰り返され、厳しさは7の50乗、つまり42桁の数字になる。誰もそんな罰に耐えられない。したがって、厳しさは不可能である。

その前半部分は正しく、それが議論4の根拠となっている。 刑罰は時間をかけて執行されなければならない。厳しさは期間とは無関係に存在し得ない。この点を踏まえると、刑罰の厳しさに関する判断は単にあり得ないというだけでなく、不完全であると考えるに至った。

後半で事態は悪化し、その悪化箇所は2つある。

運送業者がさらに40年間必要である必要があるが、それを裏付けるものは何もない。

レビ記26章には期間に関する記述は一切ありません。4段階の刑罰の強化のいずれにも期間が定められておらず、19節、22節、25節、29節の刑罰は、次の強化まで続くだけです。刑罰の強化を根拠とする解釈をする人は、強化された刑罰が不特定の期間続いたと主張することができ、本文はそれに反論していません。その期間が40年でなければならないと主張するには、エゼキエル書の用語を、その用語が全く言及されていない章に持ち込まなければなりません。そして、自分の枠組みを相手の立場に持ち込むことは、堂々巡りの議論と同じ誤りであり、ただ巧妙に偽装されているだけです。

そして、42桁という数字は、優れた議論の中で最も弱い部分であって、最も強い部分

ではない。際限のない深刻度の乗算の本当の問題点は、数字が大きくなることではない。問題は、「追放の7倍よりもさらに7倍悪い」という表現が、事態を適切に表していないことだ。問題は、深刻度の大きさではなく、一貫性の欠如にある。そして、まさにその点は、議論4が既に大げさな表現を用いずに指摘している点なのだ。

3つ目の理由があり、それが私にとって決定的な理由です。もし私が、厳しさの倍増には繰り返しの項が必要だと認めたとしても、私は強度の解釈を否定したことにはならず、それを静かに持続時間の解釈に転換し、勝利を宣言したことになります。7倍とは完全に、十分に、適切な程度を意味すると本気で主張する反対者は、そもそも繰り返しの項に拘束されていないため、還元論法は彼には届きません。それは誰も主張しない立場を打ち負かすだけです。しかし、罰が「完全に」倍増されるのであれば、それをさらに「完全に」倍増できるかどうかは明らかです。悔い改めの有無にかかわらず、罰は厳しさの限界に達しているはずです。

私がこのことを長々と説明したのは、この一つの論点以上の大きな理由があります。大きな数字は、その内容とは不釣り合いなほど説得力があり、予言的な文章は昔からそうした数字を求める傾向があります。もし私がこの本の他の箇所で私の計算を検証するよう求めるつもりなら、私にとって最も都合の良い計算結果だけは捨てる覚悟が必要です。この計算結果は私にとって都合が良かったので、ここには掲載しません。

ついでにもう一つだけお伝えしておきます。この章の以前の草稿では、レビ記26章では刑罰の段階的な増加が4つ（18節、21節、24節、28節）で制限されているため、刑罰の厳しさは7の4乗を超えることはない、と主張していました。しかし、それも私には当てはまりませんでした。聖書本文には上限を示す記述はどこにもありません。私はパターンに勝手に制限を読み取ろうとしていたのですが、まさにこの本で私が他の人にしないようにと繰り返し訴えているのと同じ過ちを犯していたのです。もうその考えは捨てました。

もしその規則に期限がないのなら、なぜ2030年で終了するのですか？

それが残された疑問であり、私は誰よりも先にそれを提起する。

レビ記 26 章が 4 つの項目のリストではなく、恒久的な規則を定めているのであれば、悔い改めずに期限が切れるたびにその規則は有効である。ユダの刑は西暦 70 年と 350 年に倍増された。ユダがまだ悔い改めないまま 2030 年に現在の期限が切れる場合、なぜ規則が再び発動しないのだろうか？つまり、1960 年に 7 を掛けた 13720 年が再び適用されるのだろうか？

それには算術的な答えはありません。算術はいくらでも続けられます。答えは算術の外から来る必要があり、それがこの本が存在する理由です。**数列はエスカレーションが尽きるのではなく、時間が尽きるのです。**レビ記 26 章は

事態の悪化で終わる。40 節から 42 節では、告白と記憶された契約で終わる。増殖は最終目標ではなく、最終目標を拒否している間に起こる出来事なのだ。

第 10 章から第 12 章で主張されているのは、2030 年に拒否が止まり、刑期満了後、悔い改めない者たちは滅ぼされるのではなく追放される 5 ヶ月間があり、その後メシアが再臨し、その刑期が属していた取り決めが終わるということである。もう一度増殖するには、神が覚えておくと言せられた契約がさらに 1 万 3 千年必要となるだろう。

つまり、停止点は章から読み取られるのではなく、本書の他のすべての要素から読み取られるのです。つまり、同じ年に止まる他の 3 つの時計、秋の祭りで終わる日数のカウント、イエスがまだ完了していない祭りの順序などです。もしそれらが当てはまらない場合、確かに、予想されるのは 2030 年ではなく 13790 年ということになります。

なぜそれは決して二者択一ではなかったのか

もう一つだけ、そしてこの章で最も役立つ考えがあります。

冒頭で、A と B という 2 つの対立する解釈を提示しましたが、これは通常、問題提起の仕方として用いられるものです。しかし、私は今、この枠組みが間違っていると考えており、その理由は第 4 の論点にあります。

罰には、厳しさと期間という 2 つの側面があり、その量は両方の要素によって決まります。期間を伴わない厳しさは、軽い罰ではありません。そもそも罰とは言えません。なぜなら、誰にも何も与えられていないからです。同様に、厳しさを伴わない期間も空虚です。どちらの側面も単独では存在しません。したがって、「罰を 7 倍にする」というのは、どちらか一方の側面を増やすか減らすかという選択ではなく、量に関する主張であり、その量は両方の要素によって決まるのです。

つまり、A の解釈と B の解釈は対立するものではない。A の解釈は物事の一側面を記述し、B の解釈は実際に数値を検証できる側面を記述する。もし人が罰から学ばないなら、罰を長引かせたり、罰を厳しくしたりすることは、忍耐強い権威者の行為であり、その権威者が何を意図していたかについての二つの対立する理論ではない。

これでは異議は解消されません。期間の解釈は依然としてそれ自体で計算を行う必要があり、依然として第3段階です。つまり、7という数字が何年に結びついているのか、あなたは依然として私の言葉を信じていることになります。しかし、レビ記26章は厳しさにについて書かれていると確信してこの章に臨んだのであれば、あなたが完全に正しくても、この書は依然として有効であることに注意してください。あなたは私が考慮に入れていない次元を説明していることになります。それによって他の次元が消えることはありません。

レビ記26章が私たちに教えてくれること

- ・ 明示された乗数：7。（ティア2－本文中に4回記載されている。）
- ・ 明示されたトリガー：悔い改めを拒み続けること。（ティア2）
- ・ 明示された構造：4段階の段階的エスカレーション。（ティア2）
- ・ 乗数は文の長さに適用される。（第3段階－上記で論じた。少数派の解釈。本書の要となる部分。）
- ・ そして、その少数派の地位が持つ価値についての注釈。多数派は7回読む。深刻さに関して言えば、私は大多数の意見が間違っていると声高に主張してきた。深刻さと持続時間は一つの量の二つの側面であり、そのうちの一つだけが検証可能な係数7を持つことができ、測定不可能な側面を乗じる解釈は、それが何を乗じているのかを説明しなければならない、と私は主張してきた。これは「他の全員が間違っている」という主張よりも限定的な主張であり、私にとって必要な唯一の主張である。

エゼキエル書4章から2つの文。レビ記26章から1つの乗数。これがすべての道具です。さあ、数えてみましょう。

第6章－イスラエルの時計

2つの文、1つの乗数、4つの数え方のルール。さあ、最初の時計を動かしてみましょう

う。

始まりは

エゼキエルの 390 年間は、イスラエルの家、すなわち北王国に属する。それは、ヤロブアムの時代に分離独立し、二度と戻ってこなかった 10 部族のことである。

第 4 章で論じた解釈によれば、イスラエルの歴史はレンガに描かれた包囲戦の左側に位置し、右から左へと進むヘブライ語の年表では、**そこから未来へと続くことになる**。そして、鉄製の鉄板は、包囲軍が攻略できなかった包囲戦を示している。

記録には、エルサレム包囲戦が一度失敗に終わったことが記されている。**紀元前 701 年のことである。**

アッシリアの王セナケリブはユダの要塞都市に攻め込み、それらを占領した。その後、エルサレムに迫ったが、占領することはできなかった。列王記下 18～19 章とイザヤ書 36～37 章は、内部からの視点で物語を語っている。ヒゼキヤの貢ぎ物、ラブシャケの城壁での演説、イザヤの言葉、主の天使が陣営を打つ場面、そしてセナケリブがニネベに帰郷し、最終的に息子たちによって神殿で殺される場面などである。

アッシリアの記録も外部から同じことを語っているが、その沈黙は聖書の言葉よりも雄弁だ。センナケリブの書記官によって書かれた公式年代記『センナケリブのプリズム』は、ヒゼキヤの城壁都市 46 都市を占領し、ヒゼキヤ自身をエルサレムに「**檻の中の鳥のように**」閉じ込めたと**自慢げに記している**。そしてそこで止まる。受け取った貢物を記録し、都市を占領したとは記していない。首都を占領したアッシリアの王は、そのことを詳細に、数字を交えて語った。しかし、この王は檻を描写して、それ以上何も語らなかった。

ティア 2。この日付は、アッシリアのエポニム規範、プリズム、聖書の記述によってそれぞれ独立して確定されており、紀元前 8 世紀の日付としてはほぼ確実なものです。少数の学者は、ティルハカの年齢に関する難問を解決するために、紀元前 688～686 年頃に 2 度目の遠征があったと提唱していますが、大多数は紀元前 701 年に 1 回の遠征があったと主張しています。私は、伝統的な日付でもある、多数派の日付を採用していま

す。

いないものについて一言。北王国は紀元前 722 年頃にアッシリアに陥落し、追放されました。サマリアは 3 年間包囲されて陥落し、住民は移住させられ、10 部族は失われました。これがイスラエルへの懲罰の開始時期として最も有力な候補ですが、私が使用している日付ではありません。この日付では 2030 年という数字は出ません。紀元前 722 年 + 2730 年は 2009 年になりますが、これはあり得ない数字です。私がこのことを言及したのは、皆さんが自分でその代替案を発見して疑問に思うのではなく、私がその代替案の存在を知っていて、それがうまく機能しないことを理解していただきたいからです。

紀元前 701 年という開始年は、第 4 章の議論——鉄板で象徴される包囲戦の失敗——に基づくものであり、私が望む答えが得られる開始年を探し求めた結果ではありません。もし第 4 章を否定するなら、この記述も否定すべきです。これが依存関係です。

最初の学期

紀元前 701 年 + 390 年 = 紀元前 311 年

(ティア 1。天文学的な数字表記では、 $-700 + 390 = -310$ 、つまり紀元前 311 年となる。)

イスラエルの当初の刑期は紀元前 311 年に満了した。

紀元前 311 年にイスラエルの家は悔い改めたのだろうか？ いいえ。悔い改めるべきイスラエルの家は存在しなかった。十部族は諸国に散り散りになっており、それはすでに 4 世紀も続いていたのだ。刑罰は期限切れとなり、何も変わらなかった。

紀元前 311 年には別の出来事も起こっていた。そして私はそれを慎重に扱いたい。なぜなら、まさにこうした種類の詳細が、本書のような本では誇張されがちだからだ。

事実として、紀元前 311 年の春はセレウコス朝の紀元である。セレウコス 1 世がバビロンを奪還し、その奪還を起点とする紀元は、数世紀にわたり近東全域の標準暦となった。ユダヤ人が採用したバビロニア暦では、紀元 1 年はニサン 1 日（紀元前 311 年 4 月

3日) から始まる。

そしてユダヤ人はそれを採用した。彼らはそれを「ミニヤン・シュタロット」、すなわち「契約の時代」と呼んだ。これはマカバイ記第一で使用されている年代記である。ユダヤ人の法的文書、結婚契約書、売買証書などに、千年以上にわたってこの年代記が用いられてきた。セレウコス朝の王たちが滅びた後も、ユダヤ人の書記官たちは、ギリシャの将軍がバビロンに侵攻した年を年代として文書に日付を記し続けていたのだ。

そこには紛れもない事実がある。イスラエルが悔い改めることなく刑期を終えた年、ユダヤ人は異邦人の王の治世を基準に自分たちの契約の日付を記し始め、それを千年もの間続けてきたのだ。

真実ではないこと、そして私が主張しないことは、紀元前 311 年にユダヤで何も起こらなかったということです。戦闘も、征服も、支配者の交代もありませんでした。プトレマイオスは紀元前 312 年にこの地域を占領し、撤退しました。アンティゴノスが再び占領し、紀元前 311 年の王朝和平は問題を未解決のまま残し、何も解決しませんでした。プトレマイオス朝による永続的な支配は、紀元前 301 年のイプソスの戦いの後まで訪れませんでした。

つまり、紀元前 311 年の重要性は暦上のことであり、軍事的なことではありません。興味深い共鳴ではありますが、証拠ではありません。計算は紀元前 311 年に全く依存しておらず、セレウコス朝が別の年に始まったとしても、時計は全く同じように動きます。私がこの年を挙げたのは、それが印象的だからですが、印象的であることと証明力があることは同じではないので、あえて指摘しておきます。

乗算

悔い改めは認められない。レビ記 26 章が適用される。

$$390 \times 7 = 2730 \text{ 年}$$

(ティア 1)

さて、見た目以上に重要な質問があります。それは、いつからですか？

選択肢は 2 つある。1 つは、最初の任期が満了した紀元前 311 年から、倍増された任期が継続されるというもの。もう 1 つは、元の任期に取って代わり、紀元前 701 年の包囲戦から始まるというものだ。

私は 2 番目のものを使用します。その倍数文は紀元前 701 年から始まります。

理由はこうです。レビ記 26 章には「そして、さらに罰を加える」とは書かれていません。「あなたたちの罪のために、さらに七倍の罰を与える」と書かれているのです。同じ罪に対して、七倍の罰を与えるということです。倍加の対象は、刑罰そのものであり、既存の刑罰に新たな刑罰を付け加えるものではありません。刑罰を七倍にする裁判官は、連続した刑期を追加しているのではなく、同じ罪に対して改めて刑罰を言い渡しているのです。そして、刑罰は、元の刑罰が依拠していた時点から執行されます。イスラエルにとって、それは紀元前 701 年の包囲戦です。

「ヒンジ」という言葉に注目してください。次の章では、この言葉がここでもより重要な役割を果たすことになります。もし私が使っているルールが実は二つのルールが偽装したものだとしても、ここでそのことに気づくでしょう。

(ティア 3 — これは解釈上の選択であり、その旨を述べておくべきでしょう。もし乗算項が紀元前 311 年から順に計算されたとしたら、紀元前 311 年 + 2730 年 = 西暦 2420 年となり、本は存在しなくなります。この選択は重要であり、私はそれを前提とするのではなく、論拠に基づいて主張しました。)

結果

紀元前 701 年 + 2730 年 = 西暦 2030 年

(ティア 1. 天文学的: $-700 + 2730 = 2030$)

よろしければ、じっくり計算してみてください。紀元前 701 年から紀元前 1 年までは 700 年です。さらに 1 年経つと西暦 1 年になります。つまり 701 年が経過し、西暦 1 年から 2029 年が残ります。2029 年は西暦 2030 年にあたります。

レビ記 26 章に規定されているように、イスラエルの家の刑罰は 7 倍にされ、**2030 年**

時計一つでは何も証明できない

本当にそう思ってるんです。

もしこれが議論の全てだったとしたら、私はこの件について本を書かなかったでしょう。議論の的となっている開始日から、議論の的となっている乗数を経て目標年に至る、たった一つの算術的な連鎖は、まさに曲線近似の典型例であり、もし他人がそれを行ったら、私は疑念を抱くでしょう。

に注目してください。計算は簡単です。

390×7は難しい計算ではない。議論の焦点はすべて選択肢にある。鉄板が包囲の失敗を示す、左側が時間的に前進することを意味する、乗数が期間を延長する、乗算された項が元の開始点から再び実行される、といった解釈だ。4つの解釈判断があり、それぞれに正当性はあるものの、どれも確実ではなく、すべて私が擁護すべきものだ。

だからこそ、2つ目の時計が非常に重要なのです。それは、異なる歴史、異なる開始日、異なる年数、そして異なる乗算回数を用いています。この時計と共通しているのは、エゼキエル書の同じ章とレビ記の同じ規則の2点だけです。

読み取り値が間違っている場合、2つ目の時計は全く別の場所を指すはずです。

第7章 — ユダの時計

エゼキエルの第二の文はより短く、その歴史的背景もより詳細に記録されている。なぜなら、それは新約聖書の中心となる出来事を網羅しているからである。

「あなたがこれらを終えたら、今度は右側を下にして横になり、ユダの家の罪を負わなければならない。わたしはそれをあなたに四十日間、すなわち一年につき一日ずつと定めた。」 — エゼキエル書 4:6

40年。右側。

第4章の解釈によれば、右から左への時間軸において右側は「以前」を意味する。つまり、ユダの40年間は包囲戦から始まるのではなく、**包囲戦**に向かって進むのである。この文は包囲戦で終わるのであって、包囲戦から始まるのではない。

つまり、エルサレム包囲戦で終わる40年間が必要だということだ。そして、そのような出来事は確かに存在し、しかもそれは決して曖昧なものではない。

磔刑から包囲まで

イエスは西暦 30 年 4 月 5 日、過越祭の日に十字架にかけられた。

(第 3 段階。この日付は西暦 26 年の洗礼と 3 年半の宣教活動から導き出され、西暦 26 年の洗礼はルカによる福音書 3 章 1 節にあるティベリウスの治世 15 年目という少数派の計算から導き出されます。これは本書の 4 番目の弱点なので、後ほどきちんと説明します。従属節でごまかすつもりはありません。)

それから 40 年後の西暦 70 年の過越祭の時、ティトゥスはエルサレムの城壁を封鎖した。

その恐ろしさは、タイミングの悪さに起因していた。ヨセフスは、ローマ軍の包囲網が閉鎖された時、都市は過越祭の巡礼者で膨れ上がっていたと述べている。閉じ込められたのは祭りの参加者であり、定住者ではなかったため、その後に起こった飢饉は壊滅的なものとなった。包囲は過越祭の時期に始まった。

西暦 30 年 + 40 年 = 西暦 70 年

(ティア 1)

十字架刑から包囲戦まで、過越祭から過越祭までの 40 年間。そしてその間に、国家的な決断が下された。

イエスは、40 年の期間が何のためにあるのかを語っておられました。「エルサレムよ、エルサレムよ、預言者たちを殺し、遣わされた者たちを石打ちにする者よ。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、どれほどあなたの子どもたちを集めようとしたことか。しかし、あなたがたはそれを拒んだ。見よ、あなたがたの家は荒れ果てたまま残されるであろう。」（マタイによる福音書 23:37-38）また、十字架に向かう途中ではこう言われました。「やがて、あなたがたの敵があなたがたを包囲し、四方八方から取り囲み、あなたがたとあなたがたの内なる子どもたちを地に倒し、石一つ残さずにあなたがたを滅ぼす日が来るであろう。それは、あなたがたが神の訪れの時をわきまえなかったからである。」（ルカによる福音書 19:43-44）

使徒たちが神殿の庭で説教を始めて 40 年。40 年間、その申し出は開かれたままだった。40 は聖書において試練の期間を表す数字である——荒野、洪水、ニネベのヨナ、山の上のモーセ、砂漠の主。これはユダの 40 年だった。

私があなたに訂正しなければならないこと

これが、お見せするとお約束した 2 つのエラーのうちの 2 つ目です。

私の最初の著書では、神殿が「西暦 70 年の過越祭の期間中に」破壊されたと書きましたが、これは間違いです。実際に何が起こったのかを正確に記述することが重要です。なぜなら、この修正された記述こそが、議論に必要な情報だからです。

包囲戦は西暦 70 年 4 月中旬頃、過越祭（ニサン月 14 日）に始まった。神殿はそれから約 3 か月半後の 8 月第 1 週頃、アブ月 9 日か 10 日に焼失した。ヨセフスはアブ月 10 日と記録しているが、ミシュナーは 9 日と記録しており、ユダヤ教の伝統ではそれ以来、9 日を両神殿の断食日であるティシャ・ベアブとして守り続けている。

私は 4 ヶ月に及ぶ包囲戦を、たった一つの出来事として捉えてしまっていた。よくある間違いだ。今でも私の間違いだ。

しかし、修正が何をするのか見てみましょう。ユダの時計は、2030年の過越祭で終わるためには、過越祭から過越祭まで進まなければなりません。そして、過越祭の出来事は、焼き討ちではなく包囲です。西暦30年の過越祭に磔刑、西暦70年の過越祭に包囲。40年間、祭りから祭りまで、清められたのです。

事実の誤った解釈が議論を曖昧にしていた。正しい解釈に置き換えれば、議論はより説得力のあるものになる。自分の文章を自分で確認すると、大抵はこうなるものだ。そして、これこそが、自分で確認すべき最も優れた理由だと私は考えている。

最初の乗算

紀元70年までにユダは悔い改めたのだろうか？都市は陥落し、神殿は焼失し、犠牲の儀式は中止され、その後再開されることはなかった。国民はメシアに立ち返らなかったのだ。

レビ記26章が適用される。

$$40 \times 7 = 280 \text{ 年 } \text{西暦 } 70 + 280 = \text{西暦 } 350$$

(ティア1)

そしてここでもまた、主張をするのではなく、訂正したいことがある。

すぐ近くで実際に起きた出来事があります。コンスタンティウス・ガルスに対するユダヤ人の反乱は**350年**ではなく351年に勃発しました。ガルスは351年3月にカエサルに選出され、その後反乱が起こり、ウルシキヌスはそれを徹底的に鎮圧し、ディオカエサレア（セフォリス）を破壊し、ティベリアとリッダを壊滅させました。

それは隣接しています。正確ではありませんが、一致と丸めるのではなく、隣接と呼ぶことにします。西暦350年自体には具体的な証拠はありません。開始日を調整したり、他の箇所では排他的に数えていたものを包括的に数えたりすることで351年に到達できますが、そうするつもりはありません。なぜなら、共鳴地を作るために慣習を少し変え始めた時点で、私は算術をやめて別のことを始めているからです。

計算上、それは必要ない。西暦350年は一連の出来事の通過点であって、証拠ではな

い。その年に何も起こらなかったとしても、一連の出来事は問題ない。

2 回目の乗算

それでも悔い改めは見られない。そこで再び同じ規則が適用される。これはレビ記 26 章に記されている段階的エスカレーションの第 4 段階であり、同章の最後の段階である。

ここで、私自身も含め、通常この文章が書かれている方法を変えたいと思います。

次のステップを自然な形で記述すると、 $280 \times 7 = 1960$ となります。これは正しいのですが、明らかな反論があります。280 は、目的の場所にたどり着くために選ばれた数字のように見えるからです。

しかし、280 は独立した数ではありません。 40×7 です。したがって、2 番目の掛け算は次のようになります。

$$40 \times 7 \times 7 = 40 \times 7^2 = 1960 \text{ 年}$$

ユダの当初の 40 年の刑期を 7 倍に 2 回掛けた。

これは表面的な言い換えではありません。レビ記 26 章は単一の乗算について述べているのではなく、同じ継続的な拒否によって引き起こされる 4 段階の乗算の連続について述べています。その段階的増加の 2 段階を経た文は、元の文に 7 の 2 乗を掛けたものです。 40×7^2 と書くと、レビ記の根拠が表現自体に表れています。 280×7 と書くと、恣意的な数字が恣意的に増幅されているように見えます。

同じ計算だが、その起点となるのはページ上である。

$$\text{西暦 70 年} + 1960 \text{ 年} = \text{西暦 2030 年}$$

(ティア 1)

ルールは 1 つか 2 つか？ — 核心となる質問

さあ、アンカーに注目してください。ここは、注意深い読者ならペンに手を伸ばすべき場所です。

イスラエルの刑期は紀元前 701 年から延長され、これは彼女の最初の刑期の開始年である。ユダの刑期は紀元 70 年から延長され、これは彼女の刑期の終了年である。彼女の刑期は紀元 30 年の磔刑から始まった。

はっきり言ってしまえば、これらは 2 つの異なるルールのように見える。そして、もしこれらが 2 つの異なるルールであり、それぞれがたまたま 2030 年という結果を生み出すという理由で選ばれたものだとしたら、この本はまさに他のすべての人を非難していることと同じことをしていることになる。別の方法を試してみて、どれだけのことがかかっているかを見てみよう。イスラエルは任期終了時から紀元前 311 年 + 2730 年 = 西暦 2420 年となる。ユダは任期開始時から西暦 30 年 + 1960 年となる。

= 西暦 1990 年。どちらも現存しない。どちらの時計も基準点に敏感なので、それぞれの場合に機能する基準点を選んだ。

だから、私はあなたに本当にたった一つのルールを約束します。

ここにあります。**どちらの場合も、この倍数表現は包囲から始まっています。**包囲は要です。エゼキエルがレンガに描き、その周りに包囲網を築き、鉄の鉄板を前に置いたのもこの包囲であり、このしるし全体の中心に位置しています。イスラエルの包囲は紀元前 701 年、ユダの包囲は紀元後 70 年です。どちらの倍数表現も、それぞれに関係する包囲から始まっているのです。

両者が示しているのは、2 つのルールではありません。それぞれの国の元の判決が、その包囲に対してどの位置にあるかということです。そして、まさにそれがエゼキエルの体の役割でした。左側はイスラエルです。イスラエルの 390 年は、右から左へのタイムライン上で包囲の左側に位置するため、包囲から前向きに進み、したがって包囲はイスラエルの任期の始まりとなります。右側はユダです。ユダの 40 年は右側に位置するため、包囲に向かって進み、したがって包囲はユダの任期の終わりとなります。

乗算のルールは一つ——包囲側から計算を始めること。幾何学のルールは一つ——辺を

見れば、包囲が元の項のどちら端にあるか分かる。イスラエルの包囲は彼女の物語の始まりであり、ユダの包囲は彼女の物語の終わりである。だからこそ、紀元前 701 年が一方の暦の始まりであり、西暦 70 年がもう一方の暦の始まりなのだ。これは私が途中で慣例を変えたわけではない。

それに関して 2 点ほど補足します。

時間が逆行するという主張ではありません。ユダの 40 年間は他の人々と同じように、西暦 30 年から 70 年まで順方向に進みました。辺は図上の配置に関するものであり、年月が進む方向に関するものではありません。最初の期間が悔い改めることなく満了すると、新しい期間は蝶番から順方向に執行されます。なぜなら、刑罰はそれが唯一の執行方向だからです。

そして、それによって第 4 章は 1 時間前よりもさらに重みを増す。左右の読み方は、すでにこの本の解釈において最も大きな依存点となっていた。それが今や、方向を示すだけでなく、錨の役割も果たしている。もし左右が単に北と南を意味するだけなら——そう考えるのは全く妥当なことで、私も第 4 章でそう述べた——ユダの時計が西暦 30 年ではなく 70 年から始まるべき原理的な理由はなく、西暦 30 年であれば 1990 年となる。全体の構造は、預言者がどこに横たわっていたかというたった一つの詳細にかかっている。誰も掘り下げる必要がないように、私はそれを一文で述べた。

西暦 70 年の過越祭に 1960 年を加えたものが **2030 年の過越祭**です。

クロックは 2 つ、入力は共有しない

それらを並べて置いてください。

	イスラエルの家	ユダの家
文（エゼキエル書 4 章）	390 年	40 年
始める	紀元前 701 年	西暦 30 年
包囲からの指示	前方（左側）	それに向かって（右

		側)
最初の任期が満了します	紀元前 311 年	西暦 70 年
掛け算	1 つ	二
乗算項	$390 \times 7 = 2730$	$40 \times 7^2 = 1960$
から走る	紀元前 701 年	西暦 70 年
有効期限	西暦 2030 年	西暦 2030 年

この 2 つのコラムに共通していない点を見てください。

390 と 40 という異なる文。どちらも他方から派生したものではない。開始日は 7 世紀も離れており、全く異なる歴史的出来事から全く異なる論拠によって確立されている。タイムライン上の方向も異なる。乗算の回数も異なる。1 回と 2 回。最終項も異なる。2730 年と 1960 年。

両者に共通する点はただ二つ。一つは、それらを割り当てたエゼキエル書の章、もう一つは、それらを増やすことを定めたレビ記の規定である。

そして、それらは同じ年に期限切れとなる。

第 3 章で述べたように、現実の出来事を記述するシステムは、意図していなかった結果を生み出す傾向があります。これはその最初の例です。このシステムを機能させるためにユダの開始日を自分で選ぶこともできたでしょうが、私が選んだのではなく、十字架刑がそうしたのです。そして、包囲までの 40 年という期間は、単に歴史が示しているものです。この収束は偶然の一致なのか、それともそれが必然的な結果なのか、どちらかでしょう。

偶然の一致が一つなら、何とか乗り切れる。第 9 章には、さらに二つの時計が登場する。

先に進む前に：4 つ目の弱点

自分の主張が弱いと指摘する箇所が 4 つあると申し上げました。第 2 章には暦が、第 4 章には左右の読み方が、第 5 章にはレビ記 26 章の期間の読み方がそれぞれありました。そしてこれが 4 つ目です。ユダの時計がそこから始まるので、この章に含めるべきで

しょう。

西暦 30 年の磔刑の日付については、少数派の学説に基づいている。

伝承の流れは次のようになります。ルカによる福音書 3 章 1 節は、ヨハネの宣教活動、ひいてはイエスの洗礼を、ティベリウス・カエサル¹の治世 15 年目に位置づけています。イエスは当時約 30 歳でした（ルカ 3 章 23 節）。宣教活動は 3 年半続き、4 回の過越祭を経ました（ヨハネ 2 章 13 節、5 章 1 節、6 章 4 節、11 章 55 節）。したがって、ティベリウスの治世 15 年目に 3 年半を加えると、十字架刑の時期が分かります。

ティベリウスの治世 15 年目になると、すべてが動き出した。

多数派の計算では、西暦 14 年 8 月 19 日のアウグストゥスの死を起点とする。この日はティベリウスが**単独**皇帝となった日であり、タキトゥス、スエトニウス、ディオも彼の治世をこの日から数えている。そのため、15 年目は西暦 28 年末か 29 年初め、十字架刑は西暦 32 年か 33 年頃となる。これが主流の見解であり、ほとんどの歴史家と新約聖書学者が支持している。しかし、ここでもまた、多数派の見解は間違っている。

少数派の計算では、ティベリウスの共同統治時代、すなわち西暦 11 年から 13 年頃に属州に対する同等の権限が与えられた時代から数え始める。このことは、当時生きていたウェレイウス・パテルクルスによって記述されている。したがって、15 年目は西暦 26 年頃、キリストの磔刑は西暦 30 年となる。

私は少数派の計算方法を使っています。それによると、西暦 26 年と 30 年になります。

この中にもう一つの依存関係があり、それは脚注ではなくここに記載すべきである。3 年半の宣教活動は、ヨハネの福音書に 4 つの過越祭が記されていることを前提としている。そのうち 3 つは明確に記されており、2:13、6:4、11:55 はいずれも過越祭を指している。4 つ目のヨハネ 5:1 は定冠詞なしで「ユダヤ人の祭り」とだけ述べており、多くの研究者がこれを別の祭りと解釈している。ペンテコステと仮庵祭がどちらもよく挙げられる。したがって、4 つの過越祭という解釈もまた重要な根拠であり、議論の的となっている。

どちらの説も妥当である。ルカは東部諸州の地方の読者に向けて書いており、そこでは

ティベリウスの権力は共同統治によって行使されていた。地方への勅令から数えて 15 年目というのは、テオフィロスにとって理解可能な年数だっただろう。また、西暦 30 年という日付には、受難週の年代順と一致するニサン 14 日（水曜日）など、多くの裏付けがある。

しかし、この問題は既に決着済みだと断言します。なぜなら、実際に決着済みだからです。しかし、読者が調べてみれば、10 分もかからずに私に反対する意見が多数派を占めていることに気づくでしょう。

これには重大な問題がある。もし十字架刑が西暦 30 年ではなく 33 年だったとしたら、ユダの 40 年間は西暦 70 年ではなく 73 年まで続くことになる。そして西暦 73 年は過越祭のエルサレム包囲戦ではなく、マサダ陥落の年である。時計は止まらない。**ユダの時計は西暦 30 年という日付を必要とするのだ。**

イスラエルの時計はそうではない。紀元前 701 年で止まっており、これらの出来事とは一切関係がない。

つまり、私の二つの文のうち、一つは議論の余地のある年代に基づいているが、もう一つはそうではない。それでも両者は同じ年を指し示している。それだけでも価値がある。議論の余地のある年代を、議論の余地がないかのように装う価値はない。

これが第 2 部の全セットです。第 2 章の暦、第 4 章の左右の読み、第 5 章の期間の読み、そしてここにある新約聖書の年代記です。これは実際には 2 つのリンク、ティベリウスの計算と 4 回の過越祭の読みから成り立っており、どちらもユダの開始日を裏付けています。

この本を壊したいなら、そこを押してください。

第 2 部はここで終了です。第 8 章ではダニエルの 70 週を取り上げ、近頃の日付の枠組みを説明します。そして第 4 部ではさらに 2 つの時計を稼働させ、4 つの時計が実際にどれほど独立しているのかを問いかけます。

第三部 ― 七十週

その枠組みは、近い将来の日付に依拠している。

第8章 ― ダニエルの70週

これまでの記述はすべて、エゼキエル書4章（戒律を定めている）とレビ記26章（戒律を数え上げている）という2つの章に基づいている。この2つの章によって1年が算出される。

この章は他とは異なります。ダニエル書9章は2030年という年を预言しているわけはありませんし、私もそう装うつもりはありません。この章が示しているのは、近い将来の出来事を理解するための枠組みです。つまり、定められた順序の中で私たちが今どの位置にいるのか、なぜまだ3年半が残っているのか、そしてキリスト教世界の大半が予想している7年間の大難難時代が、すでに半分が起こった出来事の倍増である理由などです。

第6章と第7章が年を教えてくれるとすれば、この章は形を教えてくれる。

また、この聖句には預言文学の中で最も誤解されている一節が含まれており、全体の3分の2ほど進んだところで、その一節について少し時間を割いて説明しようと思います。なぜなら、終末について多くの人が信じていることのすべては、たった一文をある特定の方法で解釈することに基づいているからです。

これが预言の全文です。私が何か言う前に、まずこれを読んでください。

24 「あなたの民とあなたの聖なる都のために、七十週が定められました。それは、背きを終わらせ、罪を終わらせ、不義を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言を封じ、至聖なる者に油を注ぐためです。」

25 ですから、エルサレムを復興し再建せよという勅令が出されてから、

メシアなる君が現れるまでには、七週間と六十二週間があることを知り、見分けなさい。苦難の時であっても、エルサレムは広場と堀を備えて再び建てられるでしょう。

26 それから六十二週が過ぎれば、メシアは断たれて何も残らず、来るべき君主の民が都と聖所を滅ぼすであろう。そしてその終わりは洪水のように訪れ、終わりまで戦いが続き、荒廃が定められている。

27 そして彼は多くの者と一週間の契約を結ぶが、その週の半ばに犠牲と穀物の捧げ物をやめさせる。そして忌まわしいものの翼の上に荒廃をもたらす者が現れる。定められた完全な滅びが、荒廃をもたらす者に注がれるまで。」

— ダニエル書 9:24-27

週は7週間です

何よりもまず語彙の問題だ。なぜなら英語はそれを隠しているからだ。

週という単語は **שָׁבֹועַ** と表示されます。（シャブア）は、週の日数を意味するものではありません。それは、何であれ数える **7** の単位、つまり **7** を意味します。ヘブライ語には日数の安息日と年の安息日があり、レビ記 25 章は 7 年周期の経済全体を構築しており、ダニエルはちょうどエレミヤ書で 70 年間の流刑について読んでいましたが、歴代誌下 36 章 21 節では、それは土地が守らなかった安息年を償うことだと述べています。

つまり、77 年とは 77 年、すなわち **490 年のことである**。この解釈は議論の余地がない。この箇所について他の点ではほとんど意見が一致しない人々も含め、あらゆる解釈の立場からこの解釈を支持している。

スコアカード：必ず起こらなければならない 6 つのこと

24 節はほとんど誰も注意深く読まない部分だが、70 週が終わったかどうかを決定づけ

る部分である。

これらの中で達成されるべき6つのことが定められている。

ゴール	状態
1 違反行為を完遂する	十字架で行われた
2 罪を終わらせるために	十字架で行われた
3 罪を償うために	十字架で行われた
4 永遠の正義をもたらすために	議論の余地あり — 下記参照
5 幻と預言を封印する	まだ
6 最も聖なるものを聖別する	まだ

1～3番目の項目はカルバリの働きであり、クリスチャンがそれ以外の解釈をすることはできないと思います。「世の終わりに一度だけ、キリストはご自身をいけにえとしてささげることによって罪を取り除くために現れました」（ヘブライ人への手紙9章26節）。贖罪はなされました。罪は終わりました。これこそが福音です。

5番目と6番目の項目は明らかに起こっていません。幻と預言は封印されたものではなく、私たちは今もそれらを読み、議論し、本書のような本を書いています。そして、至聖なる者は誰も油注がれていません。

4番目の項目は、きれいに分類できないものです。永遠の義は、十字架において、私たちのものではない義が利用可能になったという意味で始まりましたが、世界が義で満たされたという意味ではまだ到来していません。解説者の間でも意見が分かれています。私は、それは始まったもののまだ完成していないとみなし、私にとって都合の良い欄に数えるのではなく、印を付けています。

スコアカードが重要な理由はここにある。もし70週が1世紀に完了したとすれば、幻と預言は封印され、至聖なる者が油注がれたことになるが、どちらも真実ではない。もしそれらが定められた命令から絶えず実行されているとすれば、その目的の3分の1が未達成のまま、ずっと前に終わっていることになる。一連の出来事のどこかに未完成な

部分があるのだ。これは私が結論として述べているのではなく、24 節を読むすべての人に求められていることなのである。

その布告と 483 年

25 節は、その始まりを告げている。「エルサレムを復興し再建せよという勅令が發布された時から」。

ペルシャの勅令が 4 つ候補として挙げられているが、そのうち条件に合致するのは 1 つだけである。紀元前 538 年、キュロスは都市ではなく神殿の再建を認可した。紀元前 520 年、ダレイオスは同じく神殿の再建を承認した。紀元前 445 年、アルタクセルクセスはネヘミヤに城壁の再建を認可した。これは要塞化に関する勅令であり、給仕長に発せられたものである。

アルタクセルクセスが治世 7 年目にエズラに出した勅令こそが、まさにその言葉に合致するものである。この勅令は、神殿の再建を認可し、神殿奉仕のための資金を提供し、行政官と裁判官を任命し、神の律法を国の法として再確立するものであり、単なる石造建築の修復ではなく、国家の再建を意味する。エズラ記 7 章にそのことが記されている。

本書ではその勅令を紀元前 458 年としているが、付録 E では紀元前 457 年が一般的な代替案である理由と、その相違点について説明している。どちらの説にも根拠があり、相違点はペルシアの治世年を即位年を基準に数えるか、また春の新年から数えるか秋の新年から数えるかという点にある。私は紀元前 458 年を採用しているが、それを確定的なものとして提示するのではなく、その旨を明記している。

それではカウントダウンです。

7 週間×7	49 年	紀元前 458 年 → 紀元前 409 年
62 週間 × 7	434 年	紀元前 409 年～紀元 26 年
69 週×7	483 年	紀元前 458 年～紀元 26 年

(ティア1の算術演算、天文学年で計算されているため、欠落したゼロ年は影響しない：-457)

+483=26。長い道のり：紀元前458年から紀元前1年までは457年、さらに1年で西暦1年になり、残りは26年です。)

最初の7週間には明らかな参照先がある。25節には「苦難の時にも、広場と堀を備えた都が再び建てられる」とあり、反対勢力の下での49年間の再建は、まさにエズラとネヘミヤが描写した内容である。

メシア王子 — 誕生ではなく、油注ぎ

69週は「メシアなる君主が現れるまで」続く。一体何までなのか？メシアは生まれた。洗礼を受けた。エルサレムに入城した。十字架につけられた。どれが最後の出来事だろうか？

称号が決め手だ。メシア — מָשִׁיחַ

מָשִׁיחַ (メシア) — 油注がれた者という意味。終止符は誕生。それは聖油を塗る儀式である。

イエスは洗礼の際に聖霊が降臨し、油を注がれました。新約聖書にもそのことが記されています。ペテロはコルネリウスの家で説教しながら、「あなたがたはナザレのイエスのことをよく知っています。神はイエスに聖霊と力とを注がれました」（使徒 10:38）と述べています。また、イエスご自身もナザレの会堂でイザヤ書を朗読し、その日ご自身に当てはめて、「主の霊がわたしの上にある。主がわたしに油を注がれたからである」（ルカ 4:18）と述べています。

こうして、69 週は西暦 26 年、ヨルダン川で終わりを迎えます。この時、メシアは油を注がれ、世に示されました。ルカによる福音書 3 章 1 節では、この出来事をティベリウス帝の治世 15 年としていますが、第 7 章ですでに述べたように、この書では少数派の見解である 15 年目を採用しており、多数派は 2 年後としています。この弱点は第 7 章と同様にこの章にも当てはまるため、最も影響を受けるこの章で、それをそのままにしておくわけにはいきません。

「62 週間後」——最初の空白期間だが、それは小さい。

26 節はこう始まる。「それから 62 週の後、メシアは断たれる。」

ざっと読むと、十字架刑は 69 週目の終わりに起こると書いてある。しかし、そのまま読むと、もっと柔軟で役に立つ表現になる。「**その後**」だ。「**その時**」ではない。「**最後の週**」でもない。「**その後**」だ。

「**すぐに**」を表す方法がいくつかありますが、これはその一つではありません。この単語は順序を表す前置詞であり、間隔は明示されていません。

それは重要なことだ。なぜなら、その期間は決して無意味ではなかったからだ。メシアは西暦 26 年に油を注がれ、西暦 30 年の過越祭で断たれた。この二つの出来事の間には、3 年半の公の宣教活動があり、それは 4 回の過越祭、つまり福音書全体の期間に相当する。

25 節と 26 節が互いにどのような役割を果たしているかに注目してください。25 節はある出来事を**数え**、正確に 483 年、すなわち聖油注ぎまでを数えています。次に 26 節は 2 つ目の出来事を報告し、それを数量化されていない言葉で最初の出来事と結びつけ

ています。数字は正確で、接続詞は開かれており、それぞれがまさにその通りに機能しています。ここでは何も誇張されていません。7という数字が伸縮自在だと主張する書物は、後に出てくる1260日について説明責任を負わなければなりません。一方、「後」は測定単位ではないと述べる書物は、7という数字について何も主張していないことになります。

その区別を覚えておいてください。それは第11章で別の形で再び登場します。

一つの詩の中に二人の男

本書に書かれているダニエルの70週に関するすべての事柄は、たった一つの聖句、そしてその聖句が直接答えていない一つの疑問、すなわち「**彼**」とは誰なのかという問いに集約される。

「彼は多くの者と一週間の契約を結ぶが、その週の半ばに犠牲と穀物の捧げ物をやめさせる。忌まわしいものの翼の上に、荒廃をもたらす者が現れる。定められた完全な滅びが、荒廃をもたらす者に注がれるまで。」 — ダニエル書 9:27

全体を通して一人の人物として読むと、ほとんどのキリスト教徒が教えられてきた解釈が得られます。すなわち、来るべき反キリストがイスラエルと7年間の条約を結び、3年後にそれを破り、

半年後、再建された神殿での生贄の儀式が中止され、忌まわしいものが建てられる。終末論における一般的なタイムラインのあらゆる要素は、この一文の解釈に基づいて構築されている。

これを二人の人物として読むと、この本が主張していることが理解できる。メシアは契約を確証し、それを成就することによって犠牲制度を終わらせ、第二の人物、すなわち荒廃をもたらす者はこの節の後半に現れる。

つまり、全体の構造は、主題がどこで、そして変化するかどうかにかかっているのです。ここに3つのテストを示しますが、これら3つはすべて、私が説明するよりも、本文自体で確認できるものです。

テスト1 — 文法が変化を示す

二つの部分がどのようにそれぞれの主題に言及しているかを見てください。

前半には、名前のある行為者は全く登場しません。三人称動詞が2つあり、どちらも主語が動詞の中に含まれています: **יִרְבֵּה וְהִגְבִּיר** (*vehigbir*) 「そして彼は強くする」、そして **יִשְׁבֹּט** (ヤシュビット)

「彼は止めるだろう。」名詞なし。読者は26節から主語を引き継いでいくことが期待される。

そして後半はそれを止めます。それは俳優を提供します: **מִשְׁחָמֵם** (メシヨメム)、分詞

— 「荒廃させる者」、荒廃させる者。そしてそれは最後にも **מִשְׁחָמֵם** で再び同じことをしている。

(シヨメム)。

これは構造上の重要な特徴であり、英語では見落としやすい点です。ヘブライ語では、既に使われている主語に対して新たに名詞を導入することはありません。暗黙の主語が同じままである限り、そのまま使い続け、主語が変わるときに新しい主語を明示します。この節は、名前のない「彼」を主語として始まり、その後、誰かの名前を明示しています。

誰なのかは分かりません。ただ、この詩の最後に出てくる人物は、詩の冒頭に出てくる人物がそのまま続いているわけではない、ということを示しているだけです。

テスト2 — 契約動詞は契約を結ぶのに不適切な動詞である

ヘブライ語には契約を結ぶことを表す標準的な慣用句があるが、ダニエルが用いたのはそれとは異なる。

一般的な表現は **יָרַת בְּ** (カラット・ベリット) 「契約を結ぶ」——これは、神がノア、アブラハム、シナイ山、ダビデと契約を結ぶ際に用いられた表現である。旧約聖書全体を通して登場する。ダニエルが誰かが契約を **結ぶ** という意味で用いたのであれば、まさにこの表現がすぐに使える。

彼はそれを使わない。彼は **יָרַת בְּ** と書く。**יָרַת בְּ** の Hiphil (*gabar*) は、強い、勝つ、強大になるという意味です。使役形は、強化する、補強する、堅固にするという意味です。

まだ存在しないものを強化することはできません。この動詞は、既に効力を持つ契約を前提としており、誰かがその契約を強化することを描写しています。これは、メシアが神が既に結んだ契約に対して行ったことの説明であり、7年間の条約が初めて締結されることを説明するには奇妙な表現です。

また、契約の相手が誰であるかにも注目してください: **יָרַת בְּ** (ララビム) 「多くの者と共に」。そのフレーズは

中立的。それは、「多くの人を義とし」、「多くの人を罪を負う」（イザヤ書 53:11-12）イザヤのしもべの語彙であり、イエスが食卓で用いた語彙でもある。「これは、罪の赦しのために多くの人のために流される、わたしの契約の血である」（マタイによる福音書 26:28）。契約、流される、多くの人のために。彼はこの聖句を引用している。

テスト 3 — 詩の最後に出てくる男は、裁きを受ける男である。

これは英語圏では3つの中で最も強力なものですが、一つ条件があります。その条件については、後から述べることにします。

最後の節を最後まで読んでください。破壊 — 「完全な破壊、宣告された破壊」 — それは**荒廃をもたらす者に注がれる**。

後半の主人公が誰であろうと、彼は定められた破滅の刑罰を受ける人物だ。彼は単に行動しているのではなく、刑を宣告されているのだ。

では、その人物は多くの人々との契約を確認する人物と同一人物であると言えるだろうか。

それは不可能だ。教義上の理由からではなく、判決文の記述からして。一方の人物は契約を強化し、犠牲制度を終焉させる。他方の人物は忌まわしい行いをし、荒廃をもたらし、裁きを受ける。たった一節の中で、一人の人物が契約の確証者であり、かつ定められた怒りの対象であるということはある得ない。

それが最も明確な解釈だ。後半の主題は、この詩句によって、破滅が降りかかる対象として定義されている。

そして、私が約束した条件です。

この節の最後の単語は **šomem** です（*shomem*）であり、翻訳によって解釈が分かれている。NASB、ESV、NIV、NET、CSB、NLT はいずれも、**荒廃させる者、荒廃させる者** という意味で、行為者として読んでいる。

欽定訳聖書（KJV）、新欽定訳聖書（NKJV）、アメリカ標準訳聖書（ASV）では、こ

れを「荒廃した状態」、つまり「荒廃した都市や人々」と訳している。古い解釈では、破壊は加害者ではなく被害者に降りかかるため、この聖書解釈の決定的な根拠は失われる。

私は NASB を使用していますが、現代の主流の見解は NASB です。しかし、キングジェームズ版を使用している読者は、ここで正当な疑問を抱いており、自分で発見するよりも、その旨を伝えられるべきです。

どちらにしても残るのは、2つの単語のうち最初の単語、*ḥayyôn* 「忌まわしいものの翼に乗って荒廃をもたらす者が来る」という句の中の（メシヨメム）は、どの読み方でも行為者を表す。新たな行為者が名付けられ、荒廃をもたらすのはその行為者である。したがって、この節の二つの主語構造は
—自分の結果を検証する—という表現は、最終的な言葉がどちらに転んでも通用する。
翻訳によって左右されるのは、最終的な判断だけである。

線がどこに引かれるか

これら3つを組み合わせると：

主題	彼がすること
27a 名前のない「彼」 26 節から引き継がれた	多くの人々との契約を強化する。七つの大祭の真 ん中で犠牲と供え物を終わらせる。
27b メシヨメムー 荒廃者、新たに命名	忌まわしいものの翼に乗って来る・荒廃させる・ 定められた滅びが彼に注がれる

転換点は「忌まわしいものの翼の上で」という箇所にある。その前には契約が強化され、その後には新たな人物が指名され、裁きを受ける。

「来るべき王子」とは誰のことでしょうか？

27 節の代名詞の問題は、これを解決せずに解決することはできないので、ここで取り上げるべきである。

「…そして、来るべき君主の民は、都と聖所を滅ぼすであろう。」 — ダニエル書 9:26b

3 人の候補者が提案されたが、そのうち 1 人は条項自体によって除外された。

まず、この言葉について一言。ここでいうプリンスはנציבです。（ナギド）は、善良な人だけに与えられる称号ではありません。エゼキエル書 28 章 2 節では、ティルス of 支配者についてこの言葉が用いられていますが、この箇所では、その支配者を預言書の中で最も非難すべき言葉で描写しています。これは、王、司令官、神殿の役人、外国の権力者、邪悪な支配者など、指導者全般を指す言葉です。ですから、王子という称号が彼には高尚すぎるという理由だけで候補者を除外することはできませんし、他の誰かには高尚すぎるという理由で候補者に含めることもできません。

候補 1：未来の反キリスト。これは標準的なディスペンセーション主義の解釈であり、七年条約の枠組みの要となるものである。26 節の「来たるべき君主」は 27 節の「彼」となり、条約に署名し、それを破る。本書が反論するすべての事柄は、この解釈に基づいている。また、26 節の都市と聖所の破壊は、西暦 70 年とは別の出来事であるか、あるいは奇妙なほど長い括弧書きであるかのどちらかでなければならないという解釈でもある。

2 番目の候補：メシア。つまり、25 節のメシア君主と 26 節の来たるべき君主はどちらもイエスであるという説。この説は、ダニエル書 9 章から反キリストを完全に排除できるため、議論に必要な要素を満たしており、魅力的である。

しかし、そこから導き出される節を読んでみてください。「**王子の民が都市と聖所を破壊する**」。エルサレムと神殿は西暦 70 年にローマ軍によって破壊されました。この解釈によれば、ローマ軍はイエスの民です。イエスの民はユダヤ人であり、ユダヤ人はその神殿を破壊したのではなく、そこで死んだのです。

もっともな反論としては、聖書は外国の軍隊を神の奉仕に駆り立て、その後、彼らを神

のものとしているという記述がある。ネブカドネザルは「わたしのしもべ」（エレミヤ書 25:9）、アッシリアは「わたしの怒りの杖」（イザヤ書 10:5）、キュロスは神のメシア、すなわち神の油注がれた者（イザヤ書 45:1）と呼ばれている。したがって、ローマがキリストによるローマ市への裁きの道具として機能したという考えは、決して不合理ではない。イエス自身がルカによる福音書 19 章でその裁きを宣告していたのだから。

とはいえ、「君主の民」は所有格であり、所有格は人が属する、あるいは指揮する民を指すのが自然で、神がかつて誰かに対して用いた民を指すのではない。この聖句が最も具体的に表現されている箇所、解釈に無理が生じてしまうのだ。

この解釈には、真剣に検討する価値のあるもう一つの形がある。それは、私がしばらくの間抱いていた解釈であり、すなわち、その民とはユダヤ人、つまりメシアの民であり、神殿が崩壊したのは彼らがメシアを拒絶したからだというものだ。

その神学的には正しいが、文法的には正しくない。そして、その二つは明確に区別できる。

まず神学的な観点から説明しましょう。なぜなら、それは真実であり、重要なことだからです。神殿はメシアを拒絶したことへの裁きとして破壊されました。これは推測ではなく、イエスが前もって明確な言葉で語られたことです。「見よ、あなたがたの家は荒れ果てたまま残される」（マタイ 23:38）。「あなたがたは神の訪れの時をわきまえなかったために、彼らはあなたがたの家の石一つ残さず破壊するだろう」（ルカ 19:44）。西暦 70 年の出来事の原因は、西暦 30 年に起こったことなのです。

さて、文法について。26 節のヘブライ語は **וְהָיָה כִּי יִשְׂרָאֵל יִשְׁדָּד וְהָיָה כִּי יִשְׂרָאֵל יִשְׁדָּד** と書かれている。**וְהָיָה** — 強調のために前面に出された対象物、都市と聖域、そして動詞 **יִשְׁדָּד**（ヤシュチット）「彼は滅ぼすだろう」、そしてその主語：**אִם**（am）、王子の民、来るべき者の民。

「アム」です。破壊行為を行ったのは民衆です。したがって、民衆をユダヤ人と解釈すると、この聖句はユダヤ人が都市と聖所を破壊したと言っていることになります。しか

し、ユダヤ人はその神殿を破壊したわけではありません。彼らは神殿の中に閉じ込められ、それを守ろうとして死んだのです。

原因と行為者の区別は聖書では明確に区別されている。ダニエル書 9 章 26 節は行為者、すなわち来るべき君主の民を挙げているが、その君主が誰であろうとも、イエスは原因を挙げている。彼らは神の訪れの時を悟らなかった。どちらかを選ぶ必要はない。拒絶が裁きをもたらし、軍勢がそれを実行したのだ。

そして、それぞれのテキストにそれぞれの役割を果たさせたときに何が出てくるかに注目してください。**ダニエルは、その順序を示しています。**

メシアが断たれ、その後、都と聖所が破壊された。**イエスはその理由を語る。エゼキエル書 4 章は、その期間、**すなわちユダ王国の 40 年間の刑期（西暦 30 年から 70 年）を示しており、第 7 章はこの期間を時間軸の基準として用いている。3 つの聖句が 1 つの出来事を扱い、それぞれが他の聖句で省略されている部分を補っている。これは、1 つの聖句に 3 つの要素すべてを詰め込むよりも、はるかに優れた結果と言えるだろう。

候補者 3：ティトゥス。ティトゥス・フラウィウス・ウェスパシアヌスは西暦 70 年にエルサレム包囲を指揮した。彼は当時の皇帝の息子であり、帝位継承者、つまり文字通りのローマの君主であった。そして彼の部下である軍団は、聖句にある通り、都市と聖域を破壊した。

また、順序的に見ても彼に有利な点がある。26 節では、メシアが断たれると述べられている。その直後に、同じメシアを来るべき君主として再び登場させるのは奇妙である。彼は断たれると描写されたばかりであり、その瞬間に「来るべき」と表現するのは不自然だ。この節を二つの比喩として読むと、単に時系列が並んでいる。メシアが断たれ、その後、来るべき君主の民が都を破壊する。西暦 30 年、そして西暦 70 年、この順序である。

それは出来事にも、行為者にも合致する。無理やり所有格を用いる必要もなく、異邦人の軍隊を誰かの民と呼べるかどうかといった議論も不要だ。軍団は紛れもなくティトゥスの民であった。そして、ダニエルの預言は、第 7 章でユダの時計の錨として用いられている包囲戦、つまり全く異なる方向から到達した同じ西暦 70 年に、直接的に結び付

けられる。

私が主張していること、そして私が主張していないこと

私はティトス書を妥当な解釈の一つとして提示しましたが、それ以上の確証は持ちません。ティトス書とメシア書のどちらが正しいのか、まだ結論が出ていません。この問題はヘブライ語の構文と、その言語の先行規則にかかっており、このテキストの研究に生涯を捧げてきた学者たちの間でも意見が分かれています。

本書にとって重要なのは、この問いよりも狭い範囲のことであり、私はその点について正確に述べておきたい。

ここで議論する上で、君主がティトウスなのかメシアなのかを知る必要はない。重要なのは、君主が反キリストではないということだ。

最後まで見てください。王子がティトウスであれば、最も近い先行詞の規則により、27節はティトウスに与えられます。

—これは、ローマの将軍が多くの者との契約を強化し、犠牲と供え物を終わらせるということになる。誰もそのような主張をしておらず、それを裏付けるものもないので、代名詞はさらに遡ってメシアにまで及ぶ必要がある。もし王子がメシアであるならば、代名詞は直接メシアを指すことになる。**どちらの解釈も同じ結論に至る。**第三の解釈、つまりまだ未来の反キリストだけが、27節に条約署名者を位置づけており、7年間の枠組みはこの解釈に基づいている。

つまり、この働きは王子を特定することではない。重要なのは次の点だ。26節に記述されている破壊は西暦70年の出来事であり、それを実行した王子の民は西暦70年の人物だった。都市は破壊された。聖所も破壊された。これは日付のある完了した出来事であり、それを実行した民の人物は生きていてそれを目撃した。彼を現代の未来の支配者として読むには、「王子の民」をまだ生まれていない人物の遠い祖先として扱う必要がある。これは所有格が担うにはかなりの重みであり、キリスト教世界のほとんどの人々の期待を形作ってきた枠組みを支える前提なのだ。

つまり、王子は二人であって三人ではない——そして、二番目の王子の正体については、

私は曖昧な立場を取っている。**メシアなる王子はイエスである。来るべき王子は1世紀の人物であり、それが包囲を命じたティトゥスであろうと、その裁きを下した主であろうと、いずれにせよ1世紀の人物である。**反キリストはこの聖句には登場しない。登場する必要もないし、そもそも彼をここに置いたことが混乱を招いた原因なのだ。

そしてここからが難しいところだ

テスト3は、後半がメシアについてではないことを証明する。前半がメシアについてではないことを証明するものではない。

ため、本書はこの章の前半で述べた議論、すなわち27節の単数形の「彼」は「**来たるべき君主**」ではなく、26節の「**メシア**」を指しているという議論に依拠している。**現代の注釈者のほとんどはこの解釈を否定している。**

彼らの主張はもっともで、それは「最も近い先行詞の規則」と呼ばれています。代名詞が複数の先行名詞を指す可能性がある場合、通常は最も近い先行名詞を指すというものです。「**来たるべき君主**」は「**メシア**」よりも27節に近い位置にあります。通常の規則に従えば、「**来たるべき君主**」が正しいということになります。

前述の通り、その反論は乗り越えられる。もし王子が1世紀の人物であるならば、代名詞はメシアに遡らなければならない。なぜなら、1世紀の王子が多くの人々と契約を結んだという事実はないからだ。しかし、文法上の論点はそれ自体で成り立っており、私はそれを無視するつもりはない。それは相手側がここで提示する最も強力な論点である。

反論として、「この句は『**王子の民**』であり、したがって中心となる名詞は『**民**』であり、複数形の名詞は単数形の代名詞の先行詞としては不適切である」という主張は、確かに一理あり、私の最初の著書もこの主張に基づいていた。今でもこの主張には説得力があると考えている。しかし、ヘブライ語では属格の名詞が先行詞として機能することが認められており、これで問題が解決すると言う人は言い過ぎだ。

私の立場を簡潔に述べておきますので、誰も推測する必要はありません。

文法だけを見れば王子に有利だが、語彙と文脈はメシアに有利だ。ヒグビルは条約に署名するのに不適切な動詞だが、既存の契約を強化するのに適切な動詞だ。ララビムは

しもべの語彙である。犠牲と供え物を終わらせたのは、ヘブライ人への手紙でキリストが行ったことだと書かれている。「キリストは一つの供え物によって、聖なる者とされた者たちを永遠に完全なものとされた」とあるが、それを犠牲を成就するのではなく中断する反キリストに帰するのは奇妙なことだ。私は近さよりもこれらを重く考える。反対に考える人もいるだろうが、それは正直な推論である。

(2つの主題構造についてはレベル2。テスト1と2でその作業を行い、どちらも議論のある翻訳に依存しない。27aの主題をメシアと特定するためのレベル3：現在の多数派に反する議論のある解釈であり、確定したものとして提示するのではなく、明確に述べられている。テスト3はNASBとその系列についてはレベル2であり、KJVの最終語の訳には依拠しない。)

これが何を決定するのか、何を決定するのか

ダニエル書9章27節には2人の人物が登場すると判断され、これは1人の人物が登場することを前提とする7年間の条約の枠組みを破るのに十分である。

この箇所だけでは、第七十週の二つの半分がいつ起こるかは決まりません。それは次の節の役割であり、この二つの問題は切り離して考えることができる点に留意すべきです。読者はこの節の内容をすべて受け入れたとしても、第七十週全体を未来に位置づけることは可能です。しかし、27節を、一人の人物が契約に署名し、その後それを破ったと解釈し続けることはできません。なぜなら、この節では二人目の人物の名前が挙げられ、その人物が裁きを受けているからです。

そのギャップ——本書の中で最も擁護しにくい点

これで、フレームワーク全体を機能させるための部分以外はすべて揃ったので、その部分を取り出しましょう。

70週は490年です。そのうち69週は紀元前458年から紀元後26年まで途切れることなく続きました。70週目は7年です。27節には、契約が1週間強められ、その週の半ば、つまり3年半目に何かが起こると書かれています。

この本によれば、その週はイエスの宣教活動の期間であり、紀元26年から30年まで、

イエス自身がその活動を行った。そして後半はまだこれからであり、それは私たち、イエスの二人の証人が果たすべき役割である。

つまり、7年間の中に約2000年の空白期間が存在するということだ。

はっきり言っておこう。批判する者は必ずそう言うだろう。中断期間は、中断される預言全体の4倍も長い。490年が1つの期間として定められているが、最後の7年間には2000年の空白期間がある。ダニエル書9章には、そのような空白期間を告げる箇所は一切ない。「そして数え終わる」と書かれた節も存在しない。

これがその事例です。皆さんはそれを検討してみてください。

まず、24節は、誰にとっても何らかの不完全さを否応なく感じさせる。この空白をどのように解釈しようとも、定められた6つの目標のうち3つは実現していない。幻と預言は封印されておらず、至聖なる者は油注がれていない。1世紀に70週が終わったと言う者は、定められた目的の3分の1が未達成のまま、どのようにして目的が達成されたのかを説明しなければならない。この未完了の事柄は私の創作ではなく、聖書本文に明記されており、どの解釈もそれを考慮に入れなければならない。問題は、この不完全さがどこにあるのかということだけだ。

第二に、聖書本文自体が週を区切っている。神は「七十週」とは言わなかった。七週、六十二週と言い、最後の週は独立した節で別々に扱っている。一つの連続した期間を三つに分ける必要はない。この区切りは、解釈者が手を加える前から、25節にすでに示されている。

第三に、この預言は特定の民と特定の都市について明確に述べている。「あなたの民とあなたの聖なる都のために、七十週が定められている」。世界のためではなく、イスラエルとエルサレムのためである。ある国のために定められた時計は、少なくとも神の働きが別の方向へ向かう時に止まる時計として理解できる。そして新約聖書はまさにそのような転換を描写しており、異邦人が接ぎ木され、イスラエルは「異邦人の満ちる時が来るまで」部分的に硬化する。あなたがこの枠組みを受け入れるかどうかは別として、これはダニエルを救うために急ごしらえで作られたものではなく、私たちが生きている時代についてのパウロ自身の記述なのである。

第四に、そしてこれは私が最も重要視する点ですが、イエスは預言的な文章の中に意図的に、印のない空白を設けたのです。

ナザレの会堂で、イエスはイザヤ書を渡され、これを読んだ。

「主の霊がわたしの上にある。主はわたしに油を注ぎ、貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるためにわたしを遣わされた。捕らわれている人々に解放を、盲人に視力の回復を告げ知らせ、虐げられている人々を自由にし、主の恵みの年を**告げ知らせるために。**」

— ルカによる福音書 4:18-19

それからルカによれば、「イエスは書物を閉じ、係の者に返して座り、彼らにこう言われた。『今日、この聖句はあなたがたの耳に聞こえるところで成就した。』」

彼は文の途中で言葉を止めた。以下はイザヤ書 61 章 2 節の全文で、彼が巻物を閉じた箇所が記されている。

「主の恵みの年を告げ知らせるために、そして私たちの神の復讐の日を告げ知らせるために、**主はここに立ち寄られた。嘆き悲しむすべての人を慰めるために。**」

1 節。3 つの条項。彼は最初の条項を読み上げ、それがその日に成就したと告げ、2 番目の条項の前に座った。そして、復讐の日はまだ来ていない。

それは、一つの節の中の二つの節の間に少なくとも二千年もの空白期間が存在することを意味し、ヘブライ語原文には何の記し也没有。私たちがその空白期間を知ることができるのは、主が朗読を中断して座られたからに他なりません。

「預言はそういう風には働かない」という反論には答えがある。それは、イエスが公の場でそのように読み上げ、会衆に、まだ後半が未完成の文章の前半を成就したと告げたということだ。一つの節の二つの節の間に空白が生じることがあるなら、一週間の二つの半節の間に空白が生じることもあり得る。

その議論が示していないことは、預言文学に空白期間が存在する可能性を示しているだけで、その空白期間が実際に存在するのか、それが 2000 年間続くのか、あるいは 2027 年に終わるのかを示しているわけではないということだ。イザヤ書 61 章は、その

反論をある程度成り立たせるだけで、その主張を裏付けるものではない。

(レベル3：このギャップは24節の未達成の目標から推測され、前例によって裏付けられています。ダニエル書には明記されていません。もしこれが納得できないのであれば、あなたは証拠に対して正しく反応しています。これはあくまで推測であり、私はそれを他の何物にも偽装していません。)

本書で提示される空白期間の概念は、より曖昧な概念とは一線を画す点がある。**それは、明確な終点が存在するということだ。**この空白期間は、西暦30年の過越祭から2027年4月27日まで続く。つまり、二つの日付が明示されており、そのうちの一つは、1年以内に公に誤りであることが判明するほど近い。検証可能な空白期間理論は、歴史が示す事実をただ受け入れるだけの空白期間理論とは全く異なるものである。

第8章が私たちに教えてくれること

- ・ 77は490年であり、7は年数である。(第2段階－ヘブライ語、ほぼ普遍的な合意。)
- ・ この期間には6つの目標が定められており、そのうち3つは疑いなく達成され、1つは議論の余地があり、2つは明らかに達成されていない。**どの解釈をしても、一連の目標は未完のままである。**(レベル2)
- ・ この勅令は、紀元前458年にアルタクセルクセスがエズラに与えた委任状である。(ティア2、紀元前457年は有効な代替案である－付録E参照。)
- ・ 紀元前458年 + 483年 = 西暦26年。(第1段階の計算は上記の第2段階の布告日を基準としている。布告日を変更すると、合計値もそれに合わせて変化する。)
- ・ 西暦26年はヨルダン川での聖油塗布の年でもある。(第3段階、しかも別個の根拠：これは第7章およびここで述べられている、ティベリウスの15年目の少数派共同統治の計算に基づいている。計算と特定は2つの主張であり、それぞれ独立して失敗する。)

- ・ 62 週間後（その時点ではなく）、聖油塗布から十字架までの 3 年半が許容される。この数字は正確であり、連結部分は決して測定されたものではない。（第 2 段階）
- ・ ダニエル書 9 章 27 節には、一人ではなく二人の人物が登場する。後半では新たな主体が名付けられている。（第 2 段階）第二の人物が、定められた滅びを受ける人物であるという解釈は、NASB とその系列の聖書では第 2 段階の見解であり、同節の最後の言葉に関する欽定訳聖書では支持されていない。
- ・ 契約は断たれるのではなく、強化される。メシアは多くの人々との既存の契約を確認するのであって、7 年間の条約に署名するわけではない。（第 3 段階、そして本書の解釈は現在の多数派の見解に反する。）
- ・ 都市を破壊した君主は、1 世紀の人物、すなわちティトゥスか、あるいはその裁きを下した主であった。未来の人物ではない。（第 3 段階、そして議論はどちらであるかに依存しない。）
- ・ 70 週のうち、3 年半が未服役のまま残っている。（第 3 段階 — 空白期間）

本書の残りの部分は、その 3 年半がいつ始まるのかについて書かれている。

第 4 部 — 収束

時計が 2 つ追加され、4 つの契約の価値を監査する。

第 9 章 — 4 つの時計、1 年

第 6 章以降、2 つの時計が動き続けている。この章ではさらに 2 つの時計が動き出し、そしてこの種の書籍ではほとんど見られないようなことをする。それは、それぞれの合意がどこからその構成要素を得ているのかを考察したとき、4 つの合意にはどれほどの

価値があるのかを問うことだ。

結論を簡潔にまとめると、この4つの時計のうち2つは非常に価値があります。1つはそれなりの価値があります。そして残りの1つは本書の中で最も評価の低いもので、評論家に任せるのではなく、私自身が最下位にランク付けすることにします。

私たちが既にいる場所

第6章と第7章から簡単にまとめると以下の通りです。

イスラエル。エゼキエル書4章では390年と定められています。紀元前701年のアッシリアによる包囲戦の失敗から始まり、悔い改めることなく紀元前311年に死に至ります。レビ記26章では刑期が7倍されています。 $390 \times 7 = 2730$ 年、包囲戦から始まり、**紀元前701年 + 2730年 = 西暦2030年**となります。

ユダ。エゼキエル書4章では40年と定められています。彼らは紀元30年の十字架刑から紀元70年の包囲まで悔い改めることなく生きています。レビ記26章では、さらに数を増やしています。 $40 \times 7^2 = 1960$ 年、包囲からさらに数えられます。**紀元70年 + 1960年 = 紀元2030年。**

では、残りの2人です。

3番目の時計——2日間と40回の祝祭日

ホセアは、まだ悔い改めていない、裁きを受けている民を代弁している。

「さあ、主のもとに立ち返ろう。主は私たちを引き裂かれたが、癒やしてくださる。主は私たちを傷つけられたが、包帯を巻いてくださる。主は二日後に私たちを生き返らせ、三日目に私たちを立ち上がらせてくださる。こうして私たちは主の御前で生きるのだ。」 — ホセア書6:1-2

2日後、そして3日目。これを通常の日数と解釈すれば、それは速やかな回復に関することわざであり、それは正当な解釈である。

預言的に解釈すると、それは一つの期間であり、ペテロはそれを一つの期間にするため

の換算率を提供している。

「しかし、愛する者たちよ、この一つのことを忘れてはならない。主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。」 — ペテロ第二 3:8

2 日間は 2000 年に相当する。国が救世主を拒絶し、その家が荒廃した時に、分裂が始まった。2000 年後に再生が訪れ、3 日目、すなわち千年王国が続く。

西暦 30 年 + 2000 年 = 西暦 2030 年。

同じ期間を数える別の方法があり、結果は同じですが、これは箴言ではなくトーラーに基づいているため、一文で説明する価値があります。レビ記 25 章では、ヨベルの年を 50 年と定めています。これは、7 回の安息年サイクルとそれに続く 50 回目のサイクルで、この期間には負債が帳消しになり、奴隷が解放され、土地が元の所有者に返還されます。40 回のヨベルの年は 2000 年であり、40 は聖書において試練の期間を表す数字です。

2000 年にわたる試練の末、没収されたものが解放される。それがヨベルの年の意味だ。ホセア書の 2 日間でその数字にたどり着こうと、40 回のヨベルの年でたどり着こうと、2030 という数字に行き着く。

(第 3 段階。ホセア書の「一日を千年とする」という解釈は類型論的なものであり、明示的なものではありません。ペテロの言葉は神と時間の関係について述べたものであり、解読リングではありません。注意深い読者は、私がここで用いたよりも慎重にこの解釈を適用します。この時計はパターンからの論証であり、私は前の 2 つの例よりも緩やかにこの時計を適用します。)

第四の時計——世代、そして私があなたに提起する異議について

イエスは、いちじくの木のとえ話の後、次のように語った。

「まことに、あなたがたに言います。これらのことがすべて起こるまでは、この世代は滅びません。」 — マタイによる福音書 24:34

そして、モーセの詩篇にある、一世代の長さ。

「私たちの人生の日々は七十年、あるいは力があれば八十年である。」 — 詩篇 90 篇 10 節

つまり、ある出来事が世代の始まりとなり、80 年後、その出来事を目撃した世代はまだ生き残っている、ということだ。

本書で取り上げられている出来事は、ほとんどの教師が使うものとは異なる。**1950 年 1 月 23 日**、クネセト（イスラエル議会）は 60 対 2 の賛成多数で、エルサレムをイスラエルの首都と宣言した。

1950 + 80 = 西暦 2030 年。

さて、あなたがそれを指摘する前に、反論を述べておきましょう。そして、それはかなり強力な反論です。

他の皆は 1948 年を基準にしている。イスラエルは 1948 年 5 月 14 日に国家として再出発した。もし現代の出来事で預言的な世代が始まったとすれば、それが最も有力な候補だろう。そして 1948 年では 2030 年ではなく、2028 年になる。

それよりもっと悪い。恥ずかしいセルも含めて、グリッド全体をページに載せてみましょう。

開始イベント	70 歳以上	80 歳以上
イスラエルの再建 — 1948 年 5 月 14 日	2018 年・既に終了	2028
クネセトはエルサレムを宣言する	2020 年・既に過ぎた	2030
首都 — 1950 年 1 月 23 日		
エルサレム再統一 — 1967 年 6 月	2037	2047

考えられる組み合わせは 6 つある。そのうち 2030 年という結果になるのはたった 1 つであり、本書ではその組み合わせを採用している。

この本の中で最も脆弱な点はそこであり、気の利いた答えはありません。どちらの出来事を選ぶか、そして詩篇に描かれている二つの生涯のうちどちらを選ぶかという二つの

自由選択は、どちらも私の思い通りになる必要があり、実際にそうなったのです。もし私が、そうなる確率は天文学的に低いと言ったら、あなたを侮辱することになるでしょう。なぜなら、正確に言えば、二つのパラメータを持つ時計が目標に命中し、その設定方法は六通りもあった、という状況だったからです。

私には理由がありますので、皆さんに、自分たちが担わされている責任の大きさを理解した上で、それらの理由を検討していただきたいのです。

なぜ国家ではなく都市なのか。オリーブ山での説教はエルサレムについてであり、国家についてではない。弟子たちは神殿の建物について尋ねる。イエスはエルサレムが軍隊に囲まれていると答え、ルカはイエスが実際に名指しした時計を記録している。「*異邦人の時が満ちるまで、エルサレムは異邦人に踏みにじられるだろう*」（ルカ 21:24）。ここで測られているのは、都市に対する異邦人の支配である。首都が外国の統治下にある間に国家が再建されることもあり得る。そして 1948 年のエルサレムはまさにそうだった。旧市街はヨルダンの手に渡り、国際社会はエルサレムの国際化を強く求めている。1950 年 1 月のクネセト（イスラエル議会）の投票は、エルサレムが誰の首都であるかという問題に終止符を打つ行為だった。

なぜ 70 ではなく 80 なのか。詩篇 90 篇には 70 と 80 の両方が記されており、条件付きの範囲として示されています。「*70、あるいは力があれば 80*」。80 が上限です。

「*過ぎ去ることはない*」と解釈するならば、つまり、その出来事が起こる時にもその世代はまだ存在していると解釈するならば、内的な境界ではなく外的な境界が主張されることになる。例えば 70 歳であれば、その世代は既に過ぎ去っている。

それらは確かに議論の余地のあるものです。そして、言うまでもなく、それらは私が望む答えにたどり着くための議論であり、もし 1950 年 + 80 年が 2041 年だったとしても、私がそれらの答えを見つけられたとは言いません。

(ティア 3：自由パラメータ 2 つ、組み合わせ 6 つ、ヒット 1 回)

独立監査——この種の書籍のほとんどが省略している部分

注意深い読者なら誰もが抱くであろう疑問がここにある。まずは私がその疑問を投げかけてみよう。

これら4つの時計は本当に独立しているのだろうか？

それは非常に重要なことです。4人の独立した証人が一致すれば、それは大きな力となります。しかし、すべてが同じ情報源に遡る4つの証言は、4人の証人とは言えません。それは、同じ証人の証言を繰り返しているだけであり、それらの証言の一致はほとんど意味を持ちません。

それでは、それぞれの時計がどこから部品を調達しているのかを説明しましょう。

クロック	テキストソース	歴史的アンカー	解釈上の動きが必要
イスラエル	エゼキエル書 4章 レビ記 26章	紀元前 701 年の包囲戦	左/右の読み方・時間の読み方 ・包囲錨
ユダ	エゼキエル書 4章 レビ記 26章	西暦 30 年の磔刑 → 西暦 70 年の包囲・攻城錨・ティベリウスの計算 戦	左/右の読み方・時間の読み方
ジュビリー	ホセア書 6:2・2 ペテロ 3:8	西暦 30 年の磔刑	千年紀の一日読書
世代	詩篇 90:10 マタイによる福音書 24:34	1950 年のクネセト都市であって国家ではない・80 で投票	あって 70 ではない

重複部分を読んでみてください。重複部分は3つあり、しかも小さくはありません。

イスラエルとユダは、その枠組みを完全に共有している。どちらもエゼキエル書4章に由来し、レビ記26章によって増幅され、どちらも同じ3つの解釈方法に基づいている。これらは2つの証言ではなく、**1つの枠組みを2度適用したものである。**

ユダの時計とヨベルの時計は、共通の基準点を持っています。どちらも西暦30年のキリストの磔刑を起点としています。もしその日付が間違っている場合——第7章で述べ

たように、それはティベリウス帝の治世 15 年目という少数派の計算に基づいています——4 つの時計のうち 2 つが連動して動きます。

世代クロックだけが他のクロックから完全に独立している。そして、それは 4 つの中で最も弱いクロックである。

それは不都合な事実であり、「4 つの独立した時計」という表現に大きなダメージを与えるものです。私は以前その表現を使ったことがありますが、強すぎる表現だったので、ここで使用を中止します。

では、この収束は実際にはどれほどの価値があるのだろうか？

目撃者は 4 人にも満たない。しかし、何もないよりはましだ。これが残された証拠だ。

イスラエルとユダは、同じ枠組みを二度適用したものだが、二つの適用例はほとんど共通点がない。文の長さは 390 と 40 と異なり、7 世紀も隔たった異なる基準点が、無関係な出来事と無関係な議論に基づいて確立されている。乗算の回数も 1 回と 2 回で異なり、乗算される項の数も 2730 と 1960 と異なる。

それは事実の二人の証人ではありません。それは**枠組みの整合性チェック**であり、整合性チェックには確かに価値があります。エゼキエル書 4 章の左右の解釈が間違っていたり、レビ記 26 章の期間の解釈が間違っていたりすれば、その枠組みがこれほど異なる入力から同じ年を二度も生み出す理由はありません。2030 年と 1990 年、あるいは 2420 年と 2030 年を生み出すこともあり得ます。第 7 章では、基準点が移動した際に、それがどれほど容易に起こるかを正確に示しました。

、ユダの時計と同じ十字架刑の日付に基づいているため、**わずかな、しかし大きな貢献はしていない。その貢献は、法的な推論ではなく類型論的な推論によって同じ年に到達したという点にある。**異なる分野からの裏付けは価値があるが、第二の証拠とは言えない。

世代クロックは、上記の理由により、最も少ない量しか追加しません。

つまり、この議論の正確な表現は「4 つの独立した時計がすべて一致する」ではなく、

次のとおりです。

トラーと預言の2つの章から導き出された一つの枠組みを、全く異なる入力データを用いて2回適用したところ、どちらも同じ年が導き出された。さらに、類型論的な推論と弱い推論という2つの推論方法も、同じ結論に達した。

それは、ほとんどの予言書の裏表紙に書かれている主張よりも弱い主張だ。しかし、それは真実でもあり、真実味のある控えめな主張は、大げさに誇張された主張よりも長く生き残る。この章を読めば、私がすでに最悪の事態を言い尽くしたことが分かるだろう。

自分の証拠をランク付けする

なぜなら、4つすべてが同じ重みを持つべきではないからであり、そう述べることは、4つの等しい行からなる表を示すよりも有益だからである。

クロック	強さ	なぜ
1 イスラエル	最強	本文中の数字は紀元前 701 年に確証されており、新約聖書の年代記には一切依存しない。エゼキエル書 4 章とレビ記 26 章のみに基づいて成立する。
2 ユダ	強い	同じ枠組みだが、入力データは全く異なる。西暦 30 年の磔刑に依存しているため、その妥当性が損なわれている。この磔刑は少数派の証言に基づいているからだ。
3 ジュビリー	適度	同じ年にたどり着いたものの、類型論的な観点から見ると異なるタイプの推論であり、ユダの思想と共通する基盤を持っている。
4 世代	弱い	自由パラメータが 2 つ、考えられる組み合わせが 6 つ、正解は 1 つ。完全性のために記載したものであり、必須ではありません。

第 4 章と第 5 章が破綻すれば、上位 2 章が同時に破綻し、物語は完結する。ティベリウスの計算が失敗すれば、時計 2 と 3 が動き、2030 年にはイスラエルだけが残る。世代時計が間違っていれば、それ以外は何も変わらない。

これが実際の依存関係構造です。これで、私の主張は正しいと確信できます。

第9章が私たちに教えてくれること

- ・ ホセアの2日間とペテロの千年日を合わせると、十字架刑から2000年となる。**西暦30年+2000年=2030年。**（第3段階－類型論的）
- ・ 50年ごとの40回のヨベルの年は、レビ記25章を通して到達する2000年と同じである。
（ティア3）
- ・ クネセトがエルサレムを首都と宣言してから80年後の世代。 $1950 + 80 = 2030$ 。（ティア3－6つの妥当な設定、1つのヒット、グリッドは上に表示されます。）
- ・ 4つの時計は、**4つの独立した証人ではありません。**イスラエルとユダは枠組みを共有しており、ユダとヨベルの年の時計はアンカーを共有しています。独立しているのは世代時計だけです。（これは事実であり、読者はいずれにせよ気づくであろうことなので、あえて述べておきます。）
- ・ 残るのは、異なる入力データを用いて同じ年に二度適用された同一の枠組みであり、類型学的に裏付けられている。**これが、その主張の真の姿である。**

次の章では、何年かという問いから、何日かという問いへと移る。

第10章－2030年の過越祭：期限

ここまで本書は1年という期間について論じてきた。ここからは日数について論じるため、証明の基準もそれに合わせて引き上げなければならない。1年は大きな目標だが、1日はそうではない。この章では、2030年に期限が切れるユダの時計を取り上げ、2030年のどの時点で期限が切れるのかを問うという、ただ一つのことだけを扱っている。

時計はいつも宴会から宴会へと続いていた

ユダの刑罰がどのように決定されたかに戻ってみましょう。

40年間は、キリストの磔刑からエルサレム包囲までの期間であり、その両端は過越祭

である。イエスは西暦 30 年の過越祭に磔刑に処せられた。ティトゥスは西暦 70 年の過越祭にエルサレムの城壁を封鎖したが、その時エルサレムは祭りの巡礼者で溢れかえっており、まさにそれがその後の包囲戦が壊滅的な被害をもたらした理由である。

祝宴から祝宴まで、40 年。それは私が勝手に決めた期間ではなく、この二つのイベントがそういうものなのです。

レビ記 26 章で刑罰が数え上げられ、その数え上げられた期間が包囲戦から始まるとすると、それは過越祭から始まる。そして 1960 年後、過越祭で刑罰が満了する。

西暦 70 年の過越祭 + 1960 年 = 西暦 2030 年の過越祭。

第 7 章では年を定めた。しかし、*過越祭の何日目か*は定めていない。この点については、見過ごすことなく本書の最初のページで指摘しておいた。それが本章の役割であり、計算の結果ではなく、さらに一歩進んだ作業なのである。

過越祭は季節であり、一日ではない。

この点で多くの治療法はいい加減になってしまうので、トラーが実際に何を述べているのかを正確に説明しましょう。

「第一の月の十四日の夕暮れに、主の過越の祭りがある。その月の十五日には、主への種なしパンの祭りがある。七日間、種なしパンを食べなければならない。初日は聖なる集会を開き、いかなる労苦もしてはならない。しかし、七日間、主への火による捧げ物をささげなければならない。七日は聖なる集会を開き、いかなる労苦もしてはならない。」 — レビ記 23:5-8

つまり、季節には形があるということだ。

1 月 1 日	それは何なのか
14 日	過越祭 — 夕暮れ時に屠られる子羊
15 日	種なしパンの祭りが始まる・聖なる集会
16～20 日	その間の日々
21 日	種なしパンの七日目・聖なる集会

子羊の屠殺から閉会式までの8日間。出エジプト記12章16節も同様の枠組みを示しており、初日に聖なる集会が開かれ、「7日目にも別の聖なる集会が開かれる」と記されている。この期間は両端で区切られている。

したがって、「2030年の過越祭」とは、1日ではなく8日間を指します。預言期間が「過越祭で終わる」と言って、日付を1つだけ示す人は、手順を飛ばしています。その手順は次のとおりです。

なぜ刑期はシーズン開始時ではなく終了時に満了するのか

文は、それが終わると消滅する。これが議論の要点を一行にまとめたものだが、代替案も馬鹿げたものではないので、一行では足りない。

ニサン14日（子羊が屠られる日であり、キリストの磔刑と包囲戦の開始の記念日でもある）を聖日とする根拠は、この日が橋の両端が正確に一致する日であるという点にある。

過越祭から過越祭まで、つまりニサン14日からニサン14日までという読み方は、祭りから祭りまでの数え方として最も簡潔なものです。純粹に機械的な答えを求めるなら、これが正解で、**2030年4月17日**となります。

ニサン21日を主張する根拠は、数えられているのは記念日ではなく刑期であり、刑期は終了すれば終わるという点にある。

そして、種なしパンの祭りの7日目には、奴隷刑の終着点としてふさわしい特別な何かがあるのだ。

イスラエルは15日にエジプトを出発した。しかし、15日になっても危険は去らなかった。ファラオは考えを変え、戦車隊が彼らを追撃し、イスラエルは水に阻まれ身動きが取れなくなった。祭りの7日目、ユダヤ暦でニサン21日に海が開き、イスラエルはそこを通り抜け、背後の軍隊は水に飲み込まれた。

15日は彼らが去った日。21日は彼らに対する抑圧者の支配が終わった日。一方は出発、もう一方は追跡の終結。

聖書では、2 日目を独自の聖なる集会で区切っているが、これは普通の週末に行うには奇妙なことである。

包囲戦から始まり 1960 年間続く刑罰は、子羊の死の記念日に満了するわけではない。それは、旧権力がもはや何の権利も持たないことを示すためにトーラーが定めた日に満了するのだ。

（レベル 3。これは類型論的な議論であり、類型論は本書の中で最も穏やかな議論の形態である。祝祭日から祝祭日までの期間が終点と一致するべきであるという理由でニサン 14 日を支持する読者の論理は正しく、我々の見解の差は 7 日間である。）

日付

さて、カレンダーを見てみると、両者は完全には一致しない。

	ニサン 14 日（過越祭）	21 日（ニサン） 種なしパン）
観察的 —	2030 年 4 月 16 日	2030 年 4 月 23 日
M2030 カレンダー 固定されたラビ暦	2030 年 4 月 17 日	2030 年 4 月 24 日

1 日違い。第 2 章では、2 つの暦が 2025 年から 2030 年にかけてどのように乖離するか、そしてどの程度乖離するかを説明した。2030 年の春は、その乖離が 1 日となる年のひとつである。

本書では、2030 年 4 月 24 日（ラビの固定暦におけるニサン月 21 日）を使用しています。

これは、一貫性からすれば当然の選択とは言えない。本書は他の箇所ではすべて慣習暦に従っており、慣習暦では種なしパンの祭りの最終日は 4 月 23 日となっている。ここでラビ暦の日付を用いるのは異例であり、その理由は原則的なものではなく、実際的なものである。すなわち、ユダヤ世界が実際に 2030 年に守る日付はラビ暦の日付であり、

ここで議論されている判決はユダ族に対するものである。ユダ族が祭りを遵守する日に期限が切れる日付は、ユダ族に下された判決にふさわしい清算方法なのである。

それは方法論ではなく、適合性に基づく議論であり、そのように判断すべきです。 **4月23日を好む場合、ヨム・テルアまでの期間は157日ではなく158日になりますが、本書の他の部分は変わりません。**

ヘブライ暦は間違えやすいので、ここで注意しておきます。実際、私の以前の著作でも間違えていました。2030年の過越祭は**5790年**に当たります。2030年の秋の祭り、ヨム・テルアとヨム・キプールは5791年に当たります。これは、ヘブライ暦の暦がティシュリ月を境に変わるためです。5791年の春は2031年の過越祭です。本書で、アダムの創造から数えて6001年目が2030年のティシュリ月を起点としている箇所は、創造年の別の計算方法であり、両者を混同することはありません。

期限切れになるものとならないもの

次の章に入る前に、一つだけ明確にしておきたいことがあります。というのも、「期限切れ」という言葉は、文字通りの意味以上の解釈をされる可能性があるからです。

2030年4月24日にユダの刑期が満了しても、**それはキリストの再臨ではありません。**

それは懲罰期間の終了です。1260日間の大難難はまだ続いており、2027年4月27日に始まり、10月まで続きます。2030年4月24日に世界が変わることはありませんが、ユダヤ人がイエスをメシア、主として個々に受け入れるまでの5ヶ月間のサソリの毒による懲罰が間もなく始まることを意味しています。

終わるのは、エゼキエル書4章とレビ記26章の項を掛け合わせた文であり、その全期間が過ぎ去り、何も残されていない。

そして黙示録9章5節には5ヶ月とある。

第10章が私たちに教えてくれること

- ・ ユダの時計は祝祭から祝祭へと刻々と進んでいった——西暦30年の過越祭での磔刑、西暦70年の過越祭での包囲。 *(第2段階)*

- ・ 包囲戦から続く乗算された期間は、したがって過越祭で満了する。**西暦 70 年の過越祭 + 1960 年 = 2030 年の過越祭。**（第 7 章の第 3 段階アンカーにおける第 1 段階の算術。）
- ・ 過越祭は、ニサン月 14 日から 21 日までの 8 日間で、その間に 2 つの聖なる集会が挟まれています。（第 2 段階 — レビ記 23:5-8、出エジプト記 12:16）
- ・ 刑期は、季節の終わりであるニサン 21 日に満了する。この日は、海が追撃軍を覆い尽くし、旧勢力の主張が終焉を迎えた日である。（第 3 段階 — 類型論的。ニサン 14 日も妥当な代替案であり、2030 年 4 月 17 日となる。）
- ・ **5790 年ニサン月 21 日は、固定ラビ暦では 2030 年 4 月 24 日、観測暦では 4 月 23 日に相当する。**本書では 4 月 24 日を採用しているが、その理由は方法論的なものではなく、便宜上のものである。（変換についてはレベル 2、選択についてはレベル 3。）
- ・ その日に終わるものは他に何も無い。1260 日間は 10 月まで続く。（補足説明）

5 か月後にはヨム・テルアがある。次の章ではその数を数える。

第5部 ― 年から日へ

細かな時間軸：5ヶ月、4回のカウント、7回の祝宴。

第11章 ― 5ヶ月間

ユダの刑期は2030年4月24日に満了する。主はヨム・テルア、すなわち2030年9月27日から28日の夕方に再臨される。この二つの日付の間には時間的な猶予があり、ヨハネの黙示録9章5節はその猶予期間を定めている。

「彼らはだれをも殺すことは許されず、ただ五か月間苦しめることが許された。その苦しみは、さそりが人を刺すときの苦しみのようなものであった。その日には、人々は死を求めるが、見つけることができない。彼らは死を切望するが、死は彼らから逃げ去る。」
― ヨハネの黙示録9:5-6

5ヶ月。刑期は4月に満了し、主は5ヶ月後に再臨される。

私はそう教えてきたし、それはほぼ正しい。そして、「ほぼ」という言葉こそが、この章が存在する理由なのだ。

数えてください

から	に	日数（含む）
2030年4月24日・日産	2030年9月27日・ヨム・テルアの前夜	157
21		

157日間。

さて、5ヶ月とはどれくらいの長さでしょうか？それは月によって異なるので、あらゆる妥当な答えを検討してください。

清算	日
30日間の月が5ヶ月	150

5つの太陰月（29.53日）	~148
5ヶ月間（4月24日から9月24日まで）	153
実際の窓	157

「5ヶ月」という計算はどれも、その期間より4日から9日ほど短い。

ここでの誘惑は非常に大きく、それに抵抗する前に、まずその名を口にしておきたい。差は小さい。私が約5ヶ月間執筆したとしても、千人に一人もその期間を計算しようとはしないだろう。

しかし、この本は第1章で全ての数をチェックするように求めており、四捨五入が都合の良い時に四捨五入できないように求めている。7日間は7日間だ。

それでは不十分な答え

最も分かりやすい言い訳は、「5ヶ月」というのは概算値であり、神はおおよそその期間を述べたのだから、神が示さなかった正確さを無理に求めるべきではない、ということだ。

あるし、後ほど改めて触れる。しかし、この問題に対する解決策としては不十分であり、しかも大きな損失を伴う。

「5ヶ月」が7日間の誤差を吸収できるなら、「1260日」も吸収できるはずだ。そして、次の章のタイムライン全体は、1260日が正確にその日であることに依存している。私が予言の数字の一つに柔軟性を持たせた瞬間、私はすべての数字に柔軟性を持たせたことになり、2027年3月も他のすべてと共に曖昧になってしまう。7日間のために、それはあまりにも大きな代償だ。

そしてヨハネは丸めていない。これが決定的な部分であり、それは彼自身の文章から明らかになる。

ジョンは同じ期間を2つの異なる単位で2回示している。

四十二か月間踏みにじるであろう。」 — ヨハネの黙示録 11:2 **「…彼らは十二百六十日間預言するであろう。」** — ヨハネの黙示録 11:3 **「…彼女は千二百六十日間養われるで**

あろう。」 — ヨハネの黙示録 12:6 「…彼には**四十二か月**間行動する権威が与えられた。」 — ヨハネの黙示録 13:5

42 か月。1260 日。どちらも同じ 3 年半だが、章を隔てて表記されている。

$$42 \times 30 = 1260。$$

まさにその通りです。おおよそではありません。**ジョンの月は 30 日で、彼の丸め方と正確な表現は日数と一致します**。彼は自身の著書の中で、月数で表した数字は余りなく日数に変換できることを証明しています。

つまり、ジョンが使う場合、5 か月は **150 日である**。「約 157 日」ではない。彼自身が計算した通り、正確に 150 日なのだ。

つまり、7 日間の差は丸め誤差ではなく、2 つの実数間の実際の差であり、何らかの意味を持っているということだ。

それが私たちに伝えていること

ヨハネの黙示録 9 章 5 節をもう一度、ゆっくりと読んで、そこに実際に何が書かれているかに注目してください。

「そして、彼らには誰かを殺すことは許されず、5 ヶ月間苦しめることが許された。」

その苦痛がどれくらい続くかについての記述です。それはイナゴに課せられた制限です。彼らは拷問することはできるが、殺害することはできず、免許の有効期間は 5 ヶ月である。

主が 5 か月後に再臨するという記述はありません。そのようなことは決して書かれていません。私は出来事の期間を、まるで窓の長さを測るかのように解釈していましたが、それらは全く異なるものです。

期間は 157 日間。苦痛の期間は 150 日間。苦痛はその期間内に留まる。

何も丸めたり、引き伸ばしたり、謝罪したりする必要はありません。数値は最初から正確でした。私が単に、本来測定できないものを測定させようとしていただけだったので

窓の内側のどこですか？

聖書にはそのような記述はなく、私も勝手に配置場所を決めつけるつもりはありません。

調べてみたところ、150 日間が刑期満了日から始まるとすれば、2030 年 9 月 21 日、ヨム・テルアの 6 日前に終わる。ヨム・テルアで終わるとすれば、2030 年 4 月 30 日、刑期満了の 6 日後に始まる。どちらの日付も祝祭日ではない。どちらも何らかの形で記念されているわけではない。日付を当てはめる根拠となる聖書の記述はなく、仮に当てはめたとしても、それは解釈というよりは装飾に過ぎないだろう。

つまり、157 日間の期間の中に 150 日間の苦痛が含まれており、その期間は我々が知らない情報によって特定されるということだ。

聖書が残した時間軸の空白を、私が勝手に作り出したもので埋めるよりも、そのままにしておく方が良い。もしそれが不十分だとしても、それは正しい方向への不十分さなのだ。

その 5 ヶ月は何のためにあるのか

計算は済んだので、その本質について少し考えてみる価値がある。なぜなら、ヨハネの黙示録第 9 章を単なる恐怖として読んでしまい、その奇妙な点を見落としてしまうのは容易だからだ。

イナゴには「*地上のサソリが持つような力*」が与えられる。そして、二つの制約が課せられる。草や緑の植物に触れてはならない。そして、最も重要な制約は、「*人を殺すことは許されない*」ということだ。

殺害を明確に禁じる判決は、処刑ではない。それは召喚状である。

人は「*死を求めるが、見つけることはできない*」。出口は一つを除いてすべて閉ざされている。これは読むに堪えない言葉だが、滅亡を意味するものではない。悔い改めない者たちが意識を保ちながら拘束され、死へと逃れることはできないが、悔い改めへの扉はまだ開かれている、そんな期間なのだ。

レハブアムはこのイメージの出典を示している。イスラエルが新しい王に父の重荷を軽くしてほしいと頼んだとき、彼はこう答えた。

「わたしの父は鞭であなたたちを懲らしめたが、わたしはさそりであなたたちを懲らしめる。」 — 列王記上 12:11

レハブアムはそれを自慢げに言ったが、それが王国を分裂させた。この出来事が、本書全体を通して数えられてきた二つの家を生み出したのだ。傲慢な若き王が脅したことは、主が実際に成し遂げられる。しかも、滅ぼすためではなく、追い払うためにそうされるのだ。

5ヶ月間もサソリに悩まされ、殺生の許可も得られない。この一節にある慈悲の心は、誰も引用しない部分だ。

第 11 章が私たちに教えてくれること

- ・ ユダの刑期満了からヨム・テルアまでの期間は **157 日間である**。 (ティア 1)
(数えてください。)
- ・ ヨハネ自身の記述では、1ヶ月を 30 日と定めている。同じ期間について 42 ヶ月と 1260 日が示されており、 $42 \times 30 =$ ちょうど 1260 となる。**ヨハネの用法では、5 ヶ月は 150 日である**。(レベル 2)
- ・ したがって、黙示録 9 章 5 節は**期間を測っているのではなく**、イナゴがどれくらいの期間苦しめることを許されているかを述べているのです。(第 2 段階 — これは文の内容です。)
- ・ 150 日は 157 日という期間内に収まる。**その期間のどこに収まるのかは聖書には明記されておらず、本書でも推測はしない**。(明示された制限。)
- ・ 拷問は明確に殺害を禁じている。それは召喚であって処刑ではない。レハブアムが誇ったサソリは、神が扉が開いている間に人々を悔い改めに導くために用いるものなのだ。(レベル 3 — 読解力、算数力ではない。)
- ・ **何も四捨五入されていませんでした**。数値は正確でした。測定対象を間違えた私のミスでした。

第 12 章 — 1290 ・ 1260 ・ 1250 ・ 1335

600 年の時を経て、2 人の著者が発表した 4 つの数字。本章では、これら 4 つの数字をすべて取り上げ、それぞれの数字がどのような結果を示すかを明らかにする。

また、本書の中で最も強力な内部証拠となるもの——システムが本来生成するように設計されていなかった結果——と、私がまだ解決できていない問題が一つ含まれています。その問題は、他の誰かに発見してもらうのではなく、皆さんに提示したいと思います。

計数規則の再確認

第 1 章から始めましょう。なぜなら、ここでのすべては彼らにかかっているからです。

1. **両端の地点を含みます。** 1 日目は開始日です。
2. **日中の日付。** ヘブライ暦では、1 日は日没から始まります。祭りが「27 日の夕方から 28 日の夕方まで」続く場合、使用される日付は 28 日です。

「計算に終了日を含める」というチェックボックスが常にオンになっていることを意味します。このチェックボックスをオフにすると、以下のすべての回答が 1 つ少なく表示されます。

2 人のアンカー

2027 年の 2 つの日付のうちいずれか 1 つから、すべての出来事がカウントされます。

2027 年 3 月 27 日～28 日 — 荒廃をもたらす忌まわしいもの。 観測暦では、これは初穂祭、つまり 3 月 27 日の夕方から 28 日の夕方までです。規則 2 によれば、カウントは **3 月 28 日から始まります**。この日に荒廃をもたらす忌まわしいものが起こるのか、それとも単にレオ教皇がこの日に新オスマン帝国を承認するだけなのか、私にはまだ確信が持てません。いずれ分かるでしょう。

2027 年 4 月 27 日 — 後雨の季節。 種なしパンの第二の祭りの最終日。

— 第二の月の 21 日、民数記第 9 章の過越祭で、最初の過越祭を守れなかった人々のための代替の過越祭。数え始めは **4 月 27 日**。

30 日間隔。その数字を覚えておいてください。

4 つの罪状

カウ ン ト	聖書	から	に	日	それは
1290	ダニエル書 12:11	3 月 28 日 2027	10 月 7 日 2030	1290	ヨム・キプールー ティ シュリ月 10 日
1260	黙示録 11:3、 12:6	4 月 27 日 2027	10 月 7 日 2030	1260	ヨム・キプールー ティ シュリ月 10 日
1250	マタイによる福音書 24:22	4 月 27 日 2027	9 月 27 日 2030	1250	ヨム・テルア（聖なる日 の前夜） 1 ティシュリ
1335	ダニエル書 12:12	4 月 27 日 2027	12 月 21 日 2030	1335	キスレブ月 25 日ー ハヌ カ

それらはすべて、指定された時間に着陸します。ご自身でご確認ください。そのためのウェブページとエクスプローラーページが用意されています。

落ちた 30 日間

これは私が構築したものではない結果です。

ダニエル書では 1290 日、ヨハネ書では 1260 日と記されている。6 世紀の時を経て、異なる大陸で、異なる言語を用いて、同じ時代について記した二人の著者。

$$1290 - 1260 = 30。$$

そして、2027年の2つのアンカー、初穂祭と種なしパン祭の最終日は、月の合から計算された暦上でそれぞれ独立して祝祭日として特定されており、**30日離れています**。

3月28日から4月26日までは30日間です。1260年は27日から始まります。

それは私がそこに置いたものではありません。それは私が選んだわけではない2つの数字の差であり、私が設定したわけではない2つの日付の間隔に一致するものです。反キリストが現れてから終末の雨が降るまでの、世界がどちらかの側に立つ30日間の背教期間は、このタイムラインには挿入されていません。それらは引き算の結果から生じるものです。

これは私が第3章で提案したテストです。現実の何かを記述するシステムは、誰も尋ねていない質問に対して答えを出す傾向があります。本書の中で最も分かりやすい例はこれです。適合したシステムは、まさにそのように適合した通りの結果を生み出します。この例では、600年の時を経て書かれた2人の預言者が、30日違いの数字を選んだため、30日間の期間が算出されました。

10日間が過ぎ去った

反対側でも同じことが起こる。

$$1260 - 1250 = 10。$$

信仰者が天に召される日から主の怒りが成就する日までの期間は10日間である。ヘブライ暦には、10日間の間隔がある定められた時がちょうど1組だけ存在する。

ヨム・テルアとティシュリ月10日のヨム・キプール。この2日間は畏敬の日々である。

そして、その2つの暦は、その2つの暦の両端に位置する。1250年はヨム・テルアで終わり、1260年はヨム・キプールで終わる。

イエスは、その日数が短くなると言った。

「もしその日数が短くされなかったなら、一人も救われる者はいなかったでしょう。しかし、選ばれた者たちのために、その日数は短くされるのです。」 — マタイによる福音書 24:22

どれくらい短縮されるのか？10日間短縮される。それは、苦難の完全な期間と、忠実な者たちがそこから取り去られる日までの差である。イザヤ書は、その10日間に何が起こるかを描写している。

「わが民よ、部屋に入り、戸を閉めよ。怒りが収まるまで、しばらくの間身を隠しなさい。」 — イザヤ書 26:20

怒りが収まるまでの10日間は、2つの祝祭日の間の10日間、閉ざされた空間で過ごす。どちらの日数も、この目的のために選ばれたものではない。

私が解決していない問題

ここに難点があり、それは本文に含めるべき内容である。

ダニエル書 12 章 11 節は、1290 を一つの出来事に結びつけているのではなく、二つの出来事に結びつけている。

「常供のいけにえが廃止され、荒廃をもたらす忌まわしいものが立てられる時から、1290 日となる。」

寺院がなければ、定期的な供儀はどうなるのか？

第 12 章の未解決箇所に対する代替案。 — CLH

この章の初版で、私はこれに対する明確な答えを持っていないと述べてましたが、実際その通りでした。今は答えを持っていますが、それは私が期待していた答えではありません。なぜなら、この本が出版されてから 7 ヶ月以内に、公の場で何らかの出来事が起こることを私に約束させるものだからです。

ダニエル書 12 章 11 節には、1 つではなく 2 つの指標が示されている。

「常供のいけにえが廃止され、荒廃をもたらす忌まわしいものが建てられる時から、1290 日となる。」

この本には、忌まわしい出来事が記されている。しかし、通常の生贄については記されていない。なぜなら、神殿はなく、祭壇も使われておらず、神殿研究所の器はミスガ

ブ・ラダック通りの建物の中にあり、存在しない聖域を待っているからだ。

つまり、ダニエルの最初のマーカースが空いているか、私が間違っものを探していたかのどちらかだ。私はそれを2番目にしようと長い間試みたが、言葉がそれを許してくれなかった。

言葉は曲がらない

私は「タミド」という言葉を、一般的な意味での継続的な礼拝という意味で使いたかったのですが、そうではありませんでした。その点については、それとなく示唆するのではなく、きちんと反論していこうと思います。

、定冠詞付きの תמיד という形が用いられており、これは תמיד の略記として機能している。 תמיד は、出エジプト記 29:38-42 および民数記 28:3-8 に記されている、絶え間なく捧げられる燔祭のことです。朝に子羊、夕暮れに子羊、毎日休むことなく捧げます。ダニエルはこの言葉を、祈り、献身、あるいは抽象的な礼拝という意味で一度も使っていません。また、8:11 では聖所が供え物と同じ節に置かれています。

より広い意味での解釈を支持する議論を読みました。それらは私が喜んで受け入れたい議論でした。しかし、それらの議論は索引と照らし合わせると成り立ちません。

つまり、正直な結論は都合の悪いものだが、ダニエルの最初の印が 2027 年 3 月 28 日を指すためには、その日より前に継続的な燔祭が行われていなければならない。つまり、燔祭は始まっていなければならない。つまり、すぐに始まっていなければならないのだ。

(レベル 3 — これはダニエルが言葉をどのように使っているかについての判断であり、計算結果ではありません。しかし、これは私の都合に反する判断であり、それこそが真に価値のある判断なのです。)

寺院は必要ない。祭壇が必要なのだ。

これが実現可能かどうかについて私の考えを変えた決定的な要因であり、私は長年、間違っ建物にばかり目を向けていたために、そのことに気づいていなかったのです。

、神殿が建つ前から、継続的な供え物を復活させた。

「彼らはその土台の上に祭壇を築き、その地の民を恐れて恐れおののき、その上で主に
向かって燔祭をささげた。朝夕に燔祭をささげた。…しかし、主の神殿の土台はまだ据
えられていなかった。」 — エズラ記 3:3, 6

それを二度読んでください。オラト・タミド（朝晩の供え物、ダニエルが言及している
まさにその供え物）は、再建された祭壇の上で行われており、神殿の建設予定地は工事
用の穴でした。そして、基礎が築かれる何年も前から、そのように行われていたのです。

神殿はない。幕屋もない。祭壇と祭司職と子羊だけがある。

それが全ての要件であり、第三神殿の建設とは全く異なる次元の要件である。神殿建設
は 10 年にも及ぶ国家的なプロジェクトであり、人類の 5 分の 1 が神聖視する建造物の
解体または移転を必要とする。一方、祭壇は石と傾斜路、そしてどこかに立つ許可さえ
あればよいのだ。

（エズラ記 3 章の内容についてはレベル 1 で、ご自身で読んでください。ダニエルの預
言も同様の方法で満たされるという推論についてはレベル 3 です。）

既に存在するもの

私は、それらの部品が組み立てられるかどうかについて推測しているわけではありません。
大部分は組み立てられるのです。

- **神殿での使用に適した石造りの祭壇が**、2018 年 12 月のハヌカ最終日に完成し、奉献
された。この祭壇は、分解して移動できるように設計されている。
- **神殿研究所は**、祭具、祭司の衣服、金のメノラーを製造し、長年にわたり祭司の養成を
行ってきた。
- **赤毛雌牛育成プログラムは**活発に実施されており、2026 年からは全国的な育成活動へ
と移行した。

欠けているのは、装備でも、衣服でも、訓練を受けた聖職者でも、設計図でもない。**欠
けているのは、立つ場所と、そこに立つ許可だけだ。**それが問題の全てであり、私はそ
れを軽視するつもりはない。それは地球上で最も深刻な政治的・宗教的障壁であり、5

9年間も続いてきたのだ。

現在移動中の障壁

そして、私が7年ではなく7ヶ月と言うことに抵抗がない理由はここにあります。

ユダヤ人が神殿の丘で祈ることを阻んできた取り決め——*現状維持*、つまりイスラエルとヨルダンの間の合意に基づき、ワクフが神殿の丘を管理し、非イスラム教徒の祈りが禁じられているという取り決め——は、2026年を通じて明らかに崩壊しつつある。以下に、いずれも報道され、確認可能な3つの日付けのポイントを示す。

日付 何が変わったのか

2026年1月21日 イスラエル警察は、神殿の丘にあるイエシーバーからの要請を受け、ユダヤ教徒の訪問者がアミダーを含む印刷された礼拝書を神殿の丘に持ち込むことを初めて許可した。つい最近まで、祈りを捧げているところを見つけた訪問者は退去させられたり拘束されたりしており、祈りの道具の持ち込みは完全に禁止されていた。

2026年7月23日 正午までに3000人以上のユダヤ人観光客が山に登った。礼拝用の物品の持ち込みは許可された。西側で祈りを捧げていた約12人が逮捕された。ヨルダン外務省はこれを「*歴史的および法的現状に対する明白な違反*」と呼び、警察が「*これらの行為を助長した*」と非難した。
(ティ
シャ・ベア
ブ)

2026年8月16日 私がこの段落を書く1週間前、イスラエル警察は再びその場所でのユダヤ教の祈りに対する制限を緩和した。

それは静的な障壁ではない。それは段階的に、公然と解体されつつあり、その都度、ワクフ財団とヨルダン王国の反対意見が新聞に記録されている障壁なのだ。

さて、規律についてですが、まさにこの点において、このような本は行き過ぎた主張をしがちです。祈りは犠牲ではありません。人が山の上でアミダーを唱えることと、そこ

で朝晩子羊を捧げることの間には大きな隔たりがあり、上記の表のどこにもその隔たりを埋めることはできません。表が示すのは、より狭い範囲のことであり、私はそれ以上のことを主張するつもりはありません。祭壇を不可能にする取り決めは固定されたものではなく、変化しており、今年はすでに同じ方向に3回も変化しています。

(ティア2 — すべての行に日付と出典が記載されています。そこからの推論は私のものであり、せいぜいティア3レベルです。)

したがって、この本が予測することは

曖昧で反証不可能なことよりも、具体的で間違っている方がましなので、次のように述べます。

2027年3月28日より前に、エルサレムで絶え間ない燔祭（祭壇、祭司職、朝夕の小羊）が始まる。そして、その日が来ると、それは中止される。

両方の条件を満たす必要があります。タミドは、2027年3月27日に有効でない限り、2027年3月28日に廃止することはできません。ダニエルの条項は、その削除を説明するために、存在する事物を必要とします。

私はその仕組み、山上の場所、法的手段、あるいは誰がそれを行うかについて何の見解も持っていませんし、全体像を完成させるためにそれらをでっち上げるつもりもありません。私が主張するのは、枠組みがそれを必要としており、私がこれまで皆さんに計算方法を示してきたのは、まさにその枠組みのためだということです。

(ティア4 — 予言的。これはフレームワークが予測する内容であり、私が聞いた話ではありません。)

一つの反論に答える。なぜならそれは良い反論だからだ。

「2027年に建てられた祭壇はどれも正統なものではない。祭司職は争われ、赤い雌牛の灰はなく、ほとんどのユダヤ人が認めるサンヘドリンもない。それは真のタミド（聖なる祭壇）とはなり得ず、神はその撤去を認めないだろう。」

ダニエルはこの問いに、その言葉の語源となった章の中で答えている。

アンティオコスが常供の供え物を中止したとき、それを管理していた祭司職は買収され、腐敗していた。ヤソンは最高祭司職を買収し、メネラオスはそれを上回る金額でそれを手に入れた。これが常供の供え物が取り去られた時の祭司職の状態であり、聖書は今でもその供え物を常供の供え物と呼び、その取り去りを罪とみなし、ダニエルは今でもそれに預言的な数字を結びつけている。

継続的な供え物が、その廃止が天において記録されるためには、良好な状態である必要はない。これは私の推論ではなく、この聖句が書かれた当時の歴史的状況である。

祭壇が現れない場合

すると、ダニエルの最初のマーカーには参照先がなく、1290 年は私が述べたところから始まっておらず、この部分は失敗している。忌まわしい行為についての議論はそれ自体で成立するだろうが、これはそうではない。

そうなる前に、一つの選択肢を記録に残しておきたい。なぜなら、それに固執しているわけではないが、検討する価値はあると思うからだ。

地球上に、あらゆる場所で捧げられる永遠の犠牲であると自らを称する制度はただ一つだけ存在する。それはミサである。ローマ教皇庁がトレント公会議で定義し、マラキ書 1 章 11 節に基づき、いかなる神殿も必要としないミサである。そして、それは既に一度奪われたことがある。2020 年 3 月 8 日、ローマ教区は全ての公開ミサを中止し、その 2 週間以内にイタリア、アイルランド、フィリピン、スペイン、そしてアメリカ合衆国のほとんどの教区が同様の措置を取った。数週間にわたり、西洋世界のどこでも、この永遠の犠牲は公に捧げられなかった。

もしそれがタミド（*正統な信仰*）であるならば、2027 年 3 月に起こることは、**レオ 14 世の統治下におけるローマ教会**によるイスラム教との融和に向けた自己破壊行為であり、テサロニケ第二 2 章の背教は、地球上で最も多くのキリスト教徒を自称する集団の離反を意味する。これは、公職にあるある人物についての私の意見であり、遠回しに示唆するよりも、はっきりと述べておきたい。

しかし、私はそれを 2 番目に挙げます。理由は一致性です。ダニエルのタミドは、彼が

それを使うたびに絶え間なく行われる燔祭であり、7か月以内にエルサレムに祭壇を必要とするものよりも楽だからといって、ある朗読を推奨することはできません。ミサの朗読は、保留されている妥当性です。祭壇は位置です。

(全体を通してレベル4であり、獣をイスラム教と同一視するという前提に基づいている。この前提は『歴史を先取りして教える』で論じられているが、ここでは擁護するのではなく、前提としている。)

このセクションで得られるものは

- ダニエルの「דַּמְדַּם」は、**5回すべて**において継続的な燔祭を意味しており、決して一般的な礼拝を意味するものではありません。(第3段階 — そしてそれは私の都合に反する裁きです。)
- 神殿の基礎が築かれる前に**祭壇で捧げ物をすることが復活したと記されているので、この標識には聖所ではなく祭壇が必要である。(本文のティア1)
- 祭壇、器、祭服、そして訓練を受けた司祭は**既に存在している**。欠けているのは場所と許可だけだ。(第2段階)
- 聖なる丘でのユダヤ教の礼拝を禁じる取り決めは、ヨルダンの記録された反対にもかかわらず、**2026年に3度**、同じ方向へと変更された。祈りは犠牲ではないため、このことは溝を埋めるものではなく、むしろ障壁が固定されていないことを示している。(出来事についてはレベル2、推論についてはレベル3。)
- したがって、エルサレムでは**2027年3月28日より前に継続的な燔祭が開始され、その後中止される**。もしそうならなかった場合、この部分は誤りであり、私は前もってそのことをあなたに伝えた。(ティア4)
- 予備として温存されているもの：永遠の犠牲としてのミサ。2020年3月は、軍隊を用いなくても世界的にミサを廃止できるという証拠である。(ティア4)

その忌まわしい儀式は2027年3月に行われる。この本にはそのことだけが記されている。しかし、**2027年3月に廃止される定期的な生贄とは一体何なのか？**

本書の解釈では、通常の犠牲は紀元 30 年にキリストが十字架上で終焉を迎えたとされています。これはダニエル書 9 章 27 節に関する第 8 章の論拠であり、私は今もこの見解を堅持しています。私が本書を執筆している 2026 年 8 月現在、神殿は存在しておらず、廃止すべき犠牲制度も復活していません。したがって、ダニエル書に記された 2 つの指標のうち最初の指標は、数え始めの時点では参照対象がありません。これはまだ未来の出来事を指しているため、確固たる証拠なしには推測するしかありません。

明確な答えはありません。検討に値すると思われるのは以下の 2 つですが、どちらも断固として支持しているわけではありません。

ヘブライ語は **תמיד** です。（タミド）とは、*継続的*または*規則的*なという意味です。ダニエル書 8 章 11～13 節では、継続的な燔祭を表していますが、この言葉自体は動物ではなく継続性を指しています。タミドを、特定の犠牲の儀式ではなく、神への継続的な礼拝と解釈するならば、2027 年 3 月に廃止されるのは、獣が承認され、諸国が背を向けたときに取って代わられる、世界の継続的な礼拝ということになります。この解釈は、ダニエル書 8 章でこの用語がどのように使われているかによってある程度裏付けられており、私にとって都合が良いので、この解釈を緩やかに扱う理由となっています。

2 つ目の可能性は、2 つの節が、2 つの側面から描写された 1 つの複合的な出来事を指しているというものです。この場合、問題は歴史的なものではなく、文法的なものです。それを解決するには、ヘブライ語の文法に関する判断が必要ですが、私はそれを偽るつもりはありません。

1335 号、そしてその停泊地

ダニエルは次の節で 4 つ目の数字を挙げている。

「待ち続けて 1335 日に達する者は幸いである。」 — ダニエル書 12 章 12 節

2027 年 4 月 27 日の晩雨期から数えると、1335 日目は **2030 年 12 月 21 日**、すなわちキスレブ月 25 日、ハヌカの初日、神殿再奉献の祝祭日にあたります。奉献の日に待ち、到着する者は幸いである。

これらの出来事が実際にどのように展開するかについて、私の推測を述べさせていただきます

い。ヨム・テルアに私たちが携挙されると、神は 10 日間、怒りの鉢を注ぎ始めます。神はイスラエル、そしておそらくイランやパキスタンの核兵器を呼び出し、エルサレムに攻め寄せた国々を裁きます。世界が燃えている間、私たちは新エルサレムの部屋に安全に閉じこもっています。人類の 3 分の 1、主にイスラム教徒がその 10 日間で死にます。生き残った人々は待ち続け、1335 日目、ハヌカを迎えます。その時、イエスは私たち全員と共に戻ってきて、諸国を癒します。

それは印象的だ。しかし、その点が厄介なのだ。

ダニエル書 12 章 11 節と 12 章 12 節は隣り合っており、通常は同じ開始点から数えられていると解釈されます。 1335 年を 1290 年と同じ日（2027 年 3 月 28 日）から数えると、2030 年 11 月 21 日になりますが、これは全く意味のないことです。

ハヌカに到達するためには、1335 年は忌まわしいものではなく、後の雨に根ざさなければならぬ。メシア 2030 プロジェクトのカレンダーはまさにそうしている。2027 年 4 月 27 日の項目には「1260 年と 1335 年の開始」と記されている。つまり、これは彼らが明示した枠組みであり、私の創作ではない。しかし、それでも選択は可能であり、隣接する 2 つの節をより平易に解釈すると、どちらの数字も同じ時点から数え始めることになる。

（ティア 3。結果は驚くべきものだ。しかし、それを得るために必要な基準設定には異論があり、代替の基準設定では何も得られない。）

マイクロタイムライン全体

日付

	日	何
2027 年 3 月 28 日	1290 年が始まる	荒廃の忌まわしきもの・初穂
3 月 28 日～4 月 26 日	1～30 日目	背教——世界はどちらかの側に立つ
2027		
2027 年 4 月 27 日	1260 年と 1335 年 始める	後雨季・種なしパンの第二日目

2030 年 4 月 24 日	—	ユダの刑期満了・ニサン 21 日
2030 年 9 月 27 日	1250 日目	ヨム・テルア — 復活祭、 恍惚、帰還
2030 年 9 月 27 日～10 月 7 日	10 日間	畏怖の日々・閉ざされた扉の向こう・怒り
2030 年 10 月 7 日	1260 日目と 1290 日目	ヨム・キプール — 両方の集計が終了 終了
2030 年 10 月 12 日	—	スコット祭が始まる
2030 年 12 月 21 日	1335 日目	ハヌカ・待つ者は幸いなり

第 12 章が私たちに教えてくれること

- ・ 4 つの訴因はすべて、第 1 章で宣言された包括的な規則に従って、定められた時期に発覚する。
(レベル 1 — 再現可能)
- ・ $1290 - 1260 = 30$ となり、2 つのアンカーは 30 日離れています。背教の窓は計算式に挿入されるのではなく、計算式から外れます。これは本書の中で最も強力な内部結果です。(ティア 1)
- ・ $1260 - 1250 = 10$ であり、10 日間隔で定められた時刻がちょうど 1 組存在する。これらの日は、まさに畏れの日々によって短縮される。(計算レベル 1、マタイによる福音書 24 章 22 節をそのように解釈するレベル 3)
- ・ 1335 日目はキスレブ月 25 日、神殿の再奉献の日である。ただし、1335 日が「後の雨」に結び付けられ、「忌まわしいもの」に結び付けられていない場合に限る。また、ダニエル書 12 章 11～12 節は通常、同じ始まりを持つものとして読まれる。(ティア 3)
- ・ 未解決：ダニエル書 12 章 11 節は 1290 を通常の犠牲の廃止と忌まわしい行為の両方に関連付けていますが、この枠組みには 2027 年 3 月の最初の出来

事を明確に示すものがありません。

第 13 章 — 宴の場面

これまでの話はすべて算術的な内容でした。今回の章はパターンに関するもので、パターンはより穏やかな証拠なので、主張はそれに合わせて控えめにしたいと思います。

その主張はこうだ。レビ記 23 章に定められた時期は、7つの宗教的な祝祭日ではない。それらは一連の出来事であり、イエスはその順序を守ってきたのだ。

7人

「主が定められた時を、聖なる集会として宣言しなさい。わたしが定めた時とは、次のとおりである。」 — レビ記 23:2

ヘブライ語は **מִועֵד** (モエディム) であり、祭りを意味するものではありません。モエドは約束です。

一事前に取り決められた、双方が必ず守る意思のある会合のこと。この言葉は、神がご自身の民と会うために定めた時間を指す場合にも用いられる。

全部で7つあり、2つのグループに分かれています。

春	日
1 過越祭 (ペサハ)	14 日
2 種なしパン (マッツア)	15~21 日
3 初穂祭 — ヨム・ハビクリム	その週の安息日の翌日
4 週 — シャブオット	初穂祭から 50 日後

秋	日
5 トランペット — ヨム・テルア	1 ティシュリ
6 贖罪の日 — ヨム・キプール	10 ティシュリ
7 仮庵祭 (スコット)	ティシュリ月 15 日~21 日

春には4回、8週間以内に集中して開催される。秋には3回、3週間以内に集中して開催される。そして4回目と5回目の間は、約4ヶ月間、何も開催されない空白期間とな

る。

最初の4つは当日保管

			当日？
宴会	必要なこと	彼がしたこと	
過越祭	夕暮れ時に屠られた子羊、 14日	磔刑に処された	はい
種なしパン	酵母 — の写真 汚職 - 収監	墓の中の遺体、腐敗は見られない	はい
初穂	最初に捧げられた収穫の束	育てられた、「 眠っている人々」	はい
ウィークス	収穫された作物、 50日後	聖霊はシャブオットに注がれ、 50日後	はい

パウロは、この書簡を装飾的なものとして扱っていません。「私たちの過越の小羊であるキリストもまた犠牲にされた」——過越の小羊のようにではなく、それ自体が犠牲となったのです。「キリストは死者の中からよみがえり、眠りについた者たちの初穂となった」。彼は祭りの名前を、その出来事の描写として用いています。

4つの約束。4つとも、その日に順番通りに実行された。季節は違ったが、その日に。

この章の残りの部分は、この観察に基づいており、事態がどれほど容易に別の方向へ進み得たかを考えてみる価値がある。十字架刑は予定された出来事ではない。それは、群衆と総督がそうすることを決めた時に起こる。それがニサンの14日、復活が初穂祭、聖霊降臨がシャブオット祭であったことは、歴史上最も緊密な偶然の一致であるか、あるいは「モエド」という言葉の意味するところである。約束は守られたのだ。

保管されていない3つ

そして、そのパターンは途切れる。ヨム・テルア、ヨム・キプール、スコットには、それに対応するイベントが一度も開催されていない。

それ以来、毎年ティシュリ月1日にラッパが鳴り響いてきたが、何も起こらなかった。

毎年、贖罪の日がやって来ては過ぎ去った。これは沈黙からの論証ではなく、正確に 4 回繰り返されてきた一連の出来事が、4 つの予定が未履行のまま 2000 年間一度も履行されていないという観察結果である。

そのパターンはそもそもパターンではなかったか、あるいは残りの 3 人がまだ先行しているかのどちらかだ。

なぜそのギャップが教会時代の形なのか

そして、ここで暦そのものが、ダニエル書の章で論じなければならなかったことを語っているのです。

シャブオットとヨム・テルアの間には、約 4 ヶ月間、特に定められた祭りのない期間がある。全くないのだ。春の祭りが終わると、ラッパの祭りまで何もない。

トーラー（律法）に記された祭日暦には、真ん中に空白があり、その空白は、守るべき 4 つの祭日が終わり、守るべきでない 3 つの祭日が始まる場所に正確に位置している。

第 8 章は、ダニエル書の 70 週目の中断を擁護するために苦労したが、私はダニエル書にはそのような中断を予告する記述は何もないと明確に述べた。レビ記 23 章にもそのような中断は予告されていない。しかし、同じ箇所に、1 年の中に中断が組み込まれているのだ。

それに基づいて時系列を作るべきではない。他の根拠に基づいて主張された空白期間の裏付けとしては、ある程度の価値はあるだろう。

（レベル 3：対応関係は確かに存在するが、その意味するところは解釈の問題である。例えば、4 ヶ月の期間が農業的なもの、つまり穀物の収穫と果物の収穫の間の期間であると主張する人がいても、それは全く正しいかもしれないし、その観察結果の面白さが損なわれることもないだろう。）

次の順番

順番通りに進めば、次の任命は 5 番目で、候補者は 1 人だけとなる。

ヨム・テルア。1 ティシュリ。トランペットの祝日。

その日に定められていることは、キリストの再臨にキリスト教徒が期待することと照らし合わせて読む価値がある。それは新月に当たる唯一の祝祭日であり、三日月が見えるまで開始日を事前に知らせることができなかったため、見張りが待ち、誰もその時刻を知らなかった。それはラッパが鳴り響き、警報と召集の日である。そしてユダヤの伝統では、それは戴冠式の記憶を宿している。王が宣言される日。ラッパの音。誰も事前に決めることができなかった日。王が宣言される。そして最後のラッパの音とともに復活が起こる。

そして10日間、畏怖の日々——第12章では、1260と1250の差として計算上見出され、イザヤはこれを、憤りが収まるまで閉ざされた扉の後ろに閉じ込められることだと描写している。

そしてヨム・キプール——贖罪の日、刑罰の終結、帳簿の整理。第12章の二つの長い記録は、どちらもそこで終わる。

そして仮庵祭（スコット）——集いの祭り、神が民と共に幕屋を張る祭り——が終わります。黙示録はそこで終わります。『*神の幕屋は人々の間にあり、神は彼らの間に住むであろう。*』この時に何が起こるのか、私はまだ確信が持てません。イエスは敵と戦うために地上に戻ってきて、私たちと共に幕屋を張るのでしょうか？それとも、新エルサレムか「天」で、しばらくの間、私たちと共に幕屋を張るのでしょうか？黙示録の最後の引用は、新エルサレムの到来と、父なる神が地上に来て永遠に統治することに関するものです。

ラッパ、そして閉ざされた扉の向こうで耐え忍ぶ怒り、そして贖罪、そして住まい。これがレビ記23章が定めた順序であり、12章の日数の数え方も、特に指示されたわけでもないのに、この順序に当てはまる。

これが示すことと示さないこと

この章は年号を示すものではありません。この章には日付を示す記述は一切ありません。

ヨム・テルアは毎年秋に訪れ、それは 3000 年間変わっていません。

これは、第 6 章から第 10 章で示される年が到来したときにどのような年になるかを教えてくれるものです。計算によると、その年は 2030 年です。祝祭の順序によれば、計算が正しければ、帰還は任意の日付ではなくヨム・テルアに訪れ、2030 年の秋の祝祭は 9 月 27 日～28 日と 10 月 7 日です。

それが機能するためには、2 つの独立した要素が一致する必要がある。時計の時刻が 1 年、そして数列の時刻が 1 日だ。そして、それらは一致している。

第 13 章が私たちに教えてくれること

- ・ モエディムとは、祭りではなく、事前に決められた会合のことである。
(第 2 段階 — ヘブライ語)
- ・ イエスは春の四つの約束を**その日**に順番通りに果たし、新約聖書はそれらをそのように記している。(第 2 段階)
- ・ 秋の 3 つの任命には対応するイベントがなく、過去 2 千年間、そのようなイベントは発生していない。(ティア 2 — 観察)
- ・ トーラーの祭暦には、守るべき祭日が終わり、守るべきでない祭日が始まるまさにその場所に、4 ヶ月間の空白期間が存在する。(第 3 段階 — 第 8 章で論じられた空白期間の裏付けであり、証明ではない。)
- ・ 順番通りに続くと、次の予定は**ヨム・テルア**(新月、ラッパ、戴冠式、そして開始日を事前に告知できない日)となる。(第 3 段階)
- ・ レビ記 23 章で定められている順序——ラッパ、10 日間、贖罪、そして住居——は、12 章の数え方の順序と一致している。(数え方に関してはレベル

1、重要性に関してはレベル 3。)

第 14 章 — 2 つの暦が一致する場所

第 2 章で述べたように、本書の最大の弱点は暦であり、2027 年 3 月 27 日～28 日は観測に基づく計算でのみ存在する。それを言うのに、私は少々苦労した。

この章はその帳簿のもう半分であり、そしてこの帳簿の中で最も素晴らしいニュースである。

この章で答える反論は

第2章を注意深く読んだ懐疑論者は、次のような痛烈な反論を思いつくだろう。

「自分でカレンダーを作って、その日付が自分の祝祭日と重なることを発見した。当然だ。どんなカレンダーでも、必要な場所に祝祭日を作り出すことができる。自分で選ばなかったカレンダーで、存続する日付を一つでも見せてくれ。」

それは正当な指摘であり、正しい指摘です。私のスケジュールを弁解するのではなく、率直に答えるべきでしょう。

答えはこうです。

比較

私は2025年から2030年までのすべての年の祝祭日を、本書で採用している観測に基づく暦と、4世紀頃からユダヤ世界で用いられてきた固定のラビ暦という2つの暦で計算してみました。この2つの暦は、互いに相容れない規則に基づいています。一方は春分に最も近い月の合を最初の月とする暦、もう一方は4つの延期規則を伴う19年周期の暦です。

年	2つのカレンダー間のギャップ
2025	0～1日
2026	1日
2027	30～31日
2028	1～2日
2029	1～2日
2030	春には1日、秋の宴会には毎回0日

2つの要素は重要であり、それらは正反対の方向に作用する。

まず、またもや「悪いニュース」から。

2027 年は、この期間の中で唯一の例外的な年です。この年だけは、固定暦では 13 番目の月であるアダール II 月が挿入されますが、春分・秋分規則では挿入されません。2027 年の慣習的な過越祭は 3 月 22 日、ラビによる過越祭は 4 月 21 日となります。実に 1 ヶ月のずれです。

そして、2027 年こそが、その近い将来が左右される年なのです。これは第 2 章でも述べましたが、朗報を伝えるはずのこの章でも改めて述べておきます。なぜなら、良い部分だけを覚えている読者は、この章の内容を全く理解していないことになるからです。

固定暦が正しいとすれば、2027 年 3 月 27 日～28 日は祝祭日ではなく、初穂祭を祝祭日とする根拠は消滅する。

さて、良いニュースです。

最後の行をもう一度見てください。

2030 年には、2 つの暦は完全に一致する。おおよそではなく、秋の祝祭日ごとに、日付まで正確に一致する。

宴会	観察的	修正されたラビ
ヨム・テルア — ティシュリ月 1 日	2030 年 9 月 28 日	2030 年 9 月 28 日
ヨム・キプール — ティシュリ月 10 日	2030 年 10 月 7 日	2030 年 10 月 7 日
スコット祭開始 — ティシュリ月 15 日	2030 年 10 月 12 日	2030 年 10 月 12 日
キスレブ月 25 日 — 1335 日目	2030 年 12 月 21 日	2030 年 12 月 21 日

4 つの日付。2027 年には 2 つのシステムが 1 ヶ月の差で食い違う。2030 年には差はゼロ。

これが実際に何を買うのか

できるだけ正確に説明します。なぜなら、ここでは誇張表現が簡単にできてしまうし、実際にそういう人を見てきたからです。

目的地は私のスケジュールに左右されない。スタートの号砲が左右するのだ。

第2章の内容をすべて否定し、観測に基づく暦法は奇異なものであり、ラビが定めた固定暦こそが唯一正当なヘブライ暦だと考える読者であっても、**2030年9月28日のヨム・テルアと2030年10月7日のヨム・キプールにたどり着く。**これらの日付は、自作の暦の産物ではない。どちらの暦も、これらの日付に一致するのだ。第2章全体を無視しても、最終的な結論は変わらない。

したがって、第12章で2030年の秋に終了するすべての項目は、暦の異議申し立てをそのまま乗り越える。すなわち、ヨム・キプールで終わる1260と1290、ヨム・テルアに達する1250、その間の10日間の畏敬の日々、そしてハヌカに当たる1335日目である。

の中で生き残れないのは、これらのカウントの出発点となる2027年という基準点だ。**カウントは最終的には暦に依存しないが、開始時点では暦に依存する。**これは、この本の現状を不都合ながらも正確に表した表現と言えるだろう。

そして今、規律

まさにこういう本は「**奇跡的**」という言葉を使いたがるところだが、私はそうはしない。

この収束は奇跡ではありません。これは、2つの月太陽系が偶然にも同じ位相になったときに起こる現象であり、2025年、2026年、2028年、2029年には同じ表でその様子を見ることができます。どちらの月もほぼ同じ位置にあります。ほとんどの年は両者はほぼ一致しますが、時折、閏月が異なる時期に挿入され、1ヶ月ほどずれることがあります。2030年が近い年の一つであることは、何かの兆候ではありません。これは単なる算術的な現象です。

その価値は、**証拠としての価値ではなく、防御的な価値にある。**日付を証明するものではない。日付に対する反論を取り除くものであり、しかも、その反論は、懐疑論者が秋生まれの日付に対して抱く最も強い反論である。

それだけのことだ。この件に一章を割く価値があるのは、その異議に答える価値があったからであって、合意内容が何かを証明するからではない。

もし私が、2つのカレンダーが一致する確率は天文学的に低いと言ったら、それはこの本が書かれた目的とは正反対のことをしていることになる。両者はしばしば一致する。2030年も一致する。それで十分であり、それ以上でもそれ以下でもない。

第14章が私たちに教えてくれること

- ・ 2025年から2030年にかけて、2つの暦は通常1～2日以内の誤差で一致します。これらは異なる年を生成する競合するシステムではありません。（ティア1—計算済みで、ウェブページ上で再現可能。）
- ・ **2027年は唯一の例外で**、丸1ヶ月分ずれており、まさにその年が近い日付の基準となる年である。（計算上のティア1。脆弱性は現実のものであり、2回明記されている。）
- ・ 2030、ヨム・テルア、ヨム・キプール、スコット、そしてキスレブ25日について**完全に合意が得られた年です**。（ティア1）
- ・ したがって、2030年秋の日付は**本書の暦に依存しておらず**、暦に関する異議申し立てを完全に回避できる。2027年の日付はそうではない。（第2段階）
- ・ この一致は**奇跡的なものではなく**、月太陽系が位相を合わせた結果として起こる現象である。その価値は、日付を証明することではなく、一つの異論を解消することにある。（本書がそれ以上のことを主張していると非難されないように、あえて明記した。）

第6部 — 対立的

第15章 — 最も強力な反論

私は、反論を最後にまとめて答えるのではなく、反論が生じた箇所で答えるように努めてきました。なぜなら、難点を先延ばしにする議論は、読者に不信感を抱かせることに

なるからです。しかし、中には特定の章に関するものではなく、本書全体に関わる反論もあります。

以下に、私ができる限り強い言葉でそれらを述べます。それぞれの主張を、その主張を最も擁護する立場から述べようと努めました。藁人形論法のような言い回しは避けました。そのうち2つについては、反対者の主張が正しいというのが私の答えです。

1. 「その日、その時刻は誰にも分からない。」

あなたはイエスが明確に禁じたことをしています。イエスは、天使たちも、御子でさえも、誰も知らないと言いました。あなたは一体何者ですか？どの世代にもあなたのような人間は生まれます。あなたがスプレッドシートを使っているからといって、1844年や1988年にグラフを使っていた人々と何ら変わりません。教えられたのは、計算することではなく、観察することでした。

それはほとんどの人が最初に提起する反論であり、上記の意見は私が普段耳にする意見よりも強いので、真剣に受け止めたいと思います。

3つのことが同時に真実である。

まず、マタイによる福音書 24 章 36 節は日付と時刻について述べているのであり、私はそのどちらも主張していません。本書は、聖書の記述と歴史から推論によって導き出された日付を、その過程を示し、すべての数値を検証可能な形で公表しています。これは、自分が教えられたと主張することとは全く異なる行為です。私はこれまで、教えられたと主張したことは一度もありません。

第二に、その聖句は語られた時点では真実であったということです。「誰も知らない」というのは、ある状況についての記述であって、その状況が永続的であるという宣言ではありません。ダニエルは、その言葉が「終わりの時まで隠され、封印されている」と告げられました。これは、永続的な封印ではなく、後々の開封を期待する表現です。

3つ目は、私が最も反論しづらい点であり、反対者の側にあるものです。人々はまさにこの論理を用いて、まさにこの行為を 200 年間正当化してきましたが、彼らは皆間違っていました。これは決して軽視できることではありません。私にとっては強力な先入観であり、私自身もそう考えています。

私が言いたいのは、見張れという命令は、推論するなという指示とは相容れないということです。イエスは、季節ではなく空模様を読んでいたパリサイ人たちを叱責しました。また、教会が目覚まされなければ、泥棒のように襲いかかると告げました。つまり、別の選択肢があったということです。目を覚ますことには意味があり、そうでなければ、その言葉は何の意味も持ちません。

その異論は解消されない。しかし、それに対する答えは示される——彼以前の誰もが同じように考えていたことを承知している人物によって。

2. 「あなたはまず年を見つけて、そこから逆算していったのです。」

聖書と電卓、そして十分なモチベーションさえあれば、誰でもどんな年でもたどり着ける。390 年、40 年、7 年、2000 年、80 年、1260 年、1290 年、1335 年、3 つの暦、そして 4 つの候補となる布告を使って遊べるのだ。もちろん、2030 年に何かが当たるだろう。2028 年についても何かが見つかるはずだ。

これは私が最も尊重する反論です。なぜなら、私自身も同じような反論を提起するだろうと思っていたからです。そして、第 3 章は結論を出す前に、この反論に答えるために書かれたものです。

3 つのテストを実施しましたが、私はその 3 つすべてを他のシステムにも適用するでしょう。

パラメータは目標とは独立して選択されたのでしょうか？ 390 と 40 はエゼキエル書 4 章に、7 はレビ記 26 章に、80 は詩篇 90 篇に、1260、1290、1335 はヨハネの黙示録とダニエル書にそれぞれ登場します。これらの数字はどれも私が選んだものではありません。私

が選んだのは、それぞれの時計がどこから始まるかということです。そのため、第 6 章と第 7 章では、計算をするよりも開始日を擁護することに多くのページを費やしています。

自由パラメータはいくつあり、どの程度粗いのでしょうか？時計ごとに 2 つです。アンカーと、乗数が適用される回数です。2 つ目は実際に選択できるもので、第 3 章でそのように述べられています。しかし、乗数は 7 なので、追加で適用するたびにすべてが 7 倍になります。イスラエルの場合、乗算なしだと紀元前 311 年、1 回だと 2030 年、2 回だと 18410 年になります。ユダの場合、1 回だと 350 年、2 回だと 2030 年、3 回だと 13790 年になります。**時計ごとに設定できるのは、記録された歴史上のどこかに正確に 1 つだけです。**これはダイヤルではありません。これは、妥当な位置が 1 つあるスイッチです。

このシステムは、本来意図された結果とは異なる結果を生み出すだろうか？これが最も厳しい検証であり、答えはノーだ。適切に設計されたシステムは、まさにその目的通りの結果を生み出す。このシステムは、ダニエル書の 1290 とヨハネ書の 1260 という、6 世紀も隔てて書かれた 2 つの数字の差から、30 日間の背教期間を算出した。これは、月の合によって定められた 2 つの祭りの日付の間隔と一致する。そして、このシステムは、ヘブライ暦において唯一の 10 日間の指定期間のペアであることが判明した 10 日間の間隔を算出した。

どちらも対象ではなかった。

反対意見が的を射ているのは、世代時計の設定だ。6 つの妥当な設定のうち、1 つは 2030 年を示しており、私が使用しているのもその設定だ。第 9 章ではその設定表を掲載し、その時計を最下位にランク付けしている。この点において、反対意見は的を射ている。

3. 「エゼキエル書 4 章は時計ではない。」

エゼキエルは、迫り来る流刑を予言するしるしを、包囲された世代に示していたのです。

この箇所には、彼の死後 2500 年もの歳月をカウントダウンするというような記述は一切ありません。あなたは、紀元前 6 世紀に実際に起こった預言を、まるでストップウォッチのように扱っているのです。

その点に関しては正しいです。これはヒンジ部分なので、柔らかくするつもりはありません。

この箇所は、流刑のしるしである。また、この箇所は 390 と 40 という数字を**数値化し、明確な換算率（1 年につき 1 日）**を添えている。神はエゼキエルにそこに長く横たわるようにとは言わなかった。神は数字を与え、その単位を名付けた。このように正確に、かつ明確な換算率とともに与えられた数字は、数えるために与えられたものである。ダニエルもエレミヤの 70 を同じように数え、それが尽きたときに祈った。

真の弱点は、数え方ではなく、基準点にある。紀元前 701 年の包囲戦から 390 年が経過し、紀元後 70 年の包囲戦から 40 年が経過するという解釈は、エゼキエル書の左側と右側を右から左への時間軸上の方向として解釈することから生じている。第 4 章では、左と右を単に北と南として解釈する読者は、二つの家の同一性について何も失うことなく、時間軸を得ることもないこと、そしてその解釈では、この書には開始日がないことが明確に述べられている。

私がこの文献を読むのは、それが後々もたらす結果を重視しているからであり、第 4 章では、これは自明の理ではなく結果によって正当化されるものであると認めている。これは本書の中で最も大きな依存関係であり、解釈である。

4. 「レビ記 26 章は、期間ではなく、厳しさを意味している。」

七重は慣用句です。創世記 4 章 15 節は算術ではありません。あなたはヘブライ語の強調語を乗算記号に変換しましたが、それは乗算によって目的を達成できるからであり、大多数の注釈者も私と同じように解釈しています。

大多数の人はそのように解釈しており、第 5 章では、指摘されるのを待つのではなく、

そのように明言している。

第5章が主張する、多数派よりも狭い範囲の主張は誤りである。それは、**厳しさは測定可能な量ではない**（ある飢饉が別の飢饉の7倍であるような単位は存在しない）のに対し、期間は測定可能な量であるという点である。罰は時間をかけて与えられるため、厳しさと期間という2つの側面があり、**罰の7倍**というのは、その両方を合計した値についての主張である。この2つの側面のうち、検証可能な係数7を持つことができるのは1つだけである。

それは、快適な出口のない分岐を生み出す。7倍というのは量的な意味合いを持つ場合、時間軸を持つ合計値に関係する。あるいは、単に充実感を表す慣用表現である場合、何も乗算されず、4段階の上昇は段階的な増加ではなく強調となる。

そして、厳しさが偽りである必要はありません。必要なのは、持続性です。レビ記26章は厳しさについて書かれていると確信している読者は完全に正しいかもしれませんが、それでもこの本は有効です。彼は私が考慮に入れていない次元について述べているのです。

（第5章では、厳格解釈に対する決定的な反論が詳細に述べられているが、その論拠が成り立たないため、ここでは掲載しない。本書が、本書を都合よく解釈する議論にどう対処しているかを知りたい場合は、その章を参照されたい。）

5. 「あなたのカレンダーは、作られたものです。」

あなたはユダヤ世界が16世紀にわたって使用してきた暦を拒否し、天文表に基づいて計算された暦を採用しておきながら、その日付が祝祭日に当たると主張する。あなたの祝祭日に当たるのだ。あなたが選ばなかった暦で、存続する日付を一つでも示してみろ。

それは妥当であり、適切な課題である。第14章は、その課題に答えるために存在する。

2030年秋の日付は、この変更後も完全に維持される。 本書が採用している観察に基づく暦と、ラビが定めた固定暦の両方において、ヨム・テルアは2030年9月28日、ヨ

ム・キプールは2030年10月7日、スコットは10月12日、キスレブ25日は12月21日となっている。第2章を完全に無視する読者であっても、これらの日付にたどり着く。終着点は暦に依存しない。

2027年の基準は、この状況下では通用しなくなる。私が調べた6年間の中で、2027年だけは、2つの暦が丸々1ヶ月分ずれている。これは、固定暦ではアダール2月が挿入されるのに対し、春分・秋分規則では挿入されないためである。ラビの計算によれば、2027年3月27日～28日は祝祭日ではない。

つまり、立場は分かれている。**目的地は暦に左右されないが、スタートの合図はそうではない。**このことは第2章、第14章、そしてここでも述べられている。なぜなら、これが最も真実である可能性が高く、かつ最も受け入れられにくいことだからだ。

6. 「これまで日付を設定した人は皆間違っていた。」

ミラー、ラッセル、ウィセナント、キャンピング。彼らは皆、聖書、算数、そして誠実さを備えていた。そして、彼らには家を売ってまで信者になった人々がいた。この活動の基本率はゼロであり、あなたが例外であると私が考える理由は何もない。

基本料金は現実のものであり、私はそれをごまかすつもりはありません。

よくある返答——9人の少女がノーと言ったのだから、10人目はイエスと言うかもしれない——は、議論の誤ったバージョンに対する返答だ。正しいバージョンは論理的な主張ではなく、統計的な主張であり、統計的な議論は演繹的ではないと指摘しても反駁されない。**非常に長い失敗の連続は証拠であり、それは私にとって不利な証拠なのだ。**

私が提供できるのは、私が特別な存在だと考える理由ではありません。それは、失敗の仕方が違うだけです。

そのリストに載っている名前はどれも、信じてもらいたいと願うものだった。本書は、検証されることを求めている。本書に載っている数字はすべて、明示された入力と明示された規則に基づいて再現可能である。ウェブページは再計算を行い、失敗を報告する。

エクスプローラーページでは、敵対的な読者がどんな仮定でも変更し、結論がどう変化するかを見ることができる。私は、世代時計を困惑させるグリッド、私自身の議論を破綻させたエスカレーション、ユダの時計を 1990 年に向けたアンカーエラー、そして私
が使用を拒否した 42 桁の数字を印刷した。

もしこの本が間違っているとしたら、**その間違いを証明するための手段はこの本の中にすべて含まれている。**

それは自分が正しいと主張するものではありません。そうではなく、他に提示する価値のある唯一のものなのです。

7. 「あなたの 4 つの時計は独立していません。」

イスラエルとユダはどちらもエゼキエル書 4 章とレビ記 26 章に由来し、*同じ解釈手順*が必要です。ユダとあなたのヨベルの年時計はどちらも西暦 30 年から始まります。あなたの収束は、*それ自体で一致する一つの枠組み*です。

おっしゃる通りです。そして、私もあなたより先にそう言いました。第 9 章では、すべての時計について共通の情報源、共通の基準点、共通の解釈手順を検証し、まさにその結論に至っています。そのため、本書では「*4 つの独立した時計*」という表現は使用していません。

生き残ったのはより小さなもの、つまり、共通の入力がほとんどない状態で（390 対 40、7 世紀離れた基準点、1 回の乗算対 2 回の乗算）2 回適用された 1 つのフレームワークであり、同じ年に 2 回行き着いた。これは事実の 2 つの証拠というよりは、フレームワークの一貫性チェックである。第 7 章では、基準点が移動すると、そのフレームワークがいかに簡単に 1990 年や 2420 年を生み出すかを示したので、このチェックは些細なものではない。

見た目ほどではない。だが、何も無いよりはましだ。

8. 「都合の良い時にだけ、少数派の年代記を使うんだ。」

ティベリウス帝の治世 15 年目を多数派が計算すると西暦 28 年か 29 年となり、十字架刑は西暦 33 年頃となります。あなたは少数派の共同統治説を採用しており、それによると西暦 26 年と 30 年となり、あなたの時計の数字とほぼ一致します。また、ヨハネによる福音書に 4 回登場する過越祭については、ギリシャ語原文では「祭り」としか書かれていない 5 章 1 節を過越祭と読む必要があります。

どちらも真実であり、第 7 章と第 8 章で改めて明らかにされている。

もし十字架刑が西暦 33 年だったとすれば、ユダの 40 年間は西暦 73 年まで続くことになる——過越祭のエルサレム包囲ではなく、マサダの陥落——そして**ユダの時計は止まらない**。両者は錨を共有しているため、ヨベルの時計もそれに合わせて動く。

イスラエルの時計は変更されていない。紀元前 701 年を基準としており、新約聖書の年代記には一切依拠していない。

つまり、最も信頼性の高い 2 つの時計のうち、一方は議論の余地のある 1 世紀の日付に基づいており、もう一方はそうではないが、両方とも同じ年を示している。これは価値のあることだ。議論の余地のある日付が確定したと偽る価値はない。

残っているものは

8 つの反論がありました。そのうち 2 つ、つまり時計の独立性と世代時計の 6 セルグリッドについては、反論者の指摘は完全に正しく、本書はそのように修正されました。残りの反論については、私が持ちうる最善の回答を示し、回答が限界に達する箇所をマークしました。

ここまで読んでまだ納得できないというのであれば、それはむしろありがたい。このような本にとって最悪の事態は、著者の自信に満ちた口調だけで読者がそれを信じてしまうことだ。

代わりに私がお願いしたいのは、次のことです。私の権威を鵜呑みにせず、方法論に従ってください。計算する前にルールを明確にし、自分の文章の中で最も弱い部分をマークし、気に入った数字が間違っている構いません。もしこれらの章でそのようなして、全体が崩壊したとしても、この本は書いた価値があったと言えるでしょうし、私はあなたからのご意見を伺いたいと思っています。

info@purelife2030.com

purelife2030.com/the-numbers.html

付録

付録A — マスタータイムライン

本書は、紀元前 701 年から 2030 年 12 月 21 日までのあらゆる日付の出来事を網羅しています。ヘブライ語の日付はラビによるもので、計算に基づいており、写しではありません。階層ラベルについては第 3 章で説明しています。ここにある各行には、対応する章があります。

#	日付	ヘブラ イ語のイベント 日付	クロック	聖書	ティア
1	紀元前 722 年	サマリア陥落；アッシシラエル列王記下 17:5-6 リアによるイスラエル 民族の追放			2. 歴史的
2	紀元前 701 年	セナケリブによるエルイスラエルエゼキエル書 4:5;3. サレム包囲は失敗に終 わる。 イスラエル建国 390 年 目		2kg 19	3. 解釈的
3	紀元前 458 年	アルタクセルクセス 1ダニエル書エズラ記 7 章 世は布告した 修復 エルサレムの（エズラ 記 7 章）	9 章	ダニエル書 9:25	2. 歴史的
4	紀元前 409 年	最初の 7 試合終了 週（49 年） — 再建されたエルサレ ム	ダニエル書ダニエル書 9:25 9 章		1. 算数
5	紀元前 311	イスラエル建国 390 年イスラエルレビ記 26:18、			1. 算数

	年	が経過した。悔い改め はなかった。 文を7倍した。	21、24、28			
6	西暦 26 年 (テベット 1)	イエスは洗礼を受けた ダニエル書ルカ 3:1、21-23; 3. 解釈的 ー 69 週目の終わり。7 9 章 ダニエル書 9:25 0 週目が始まる				
7	西 暦 4 月 5 日 30	磔刑 ー 過越祭、	ユダ / ダニ エル書 9 章	ダニエル書 9:26-3. 解釈的 27; コリント人への 手紙第一 5:7		
#	日付	ヘブライ 語の日付	イベント	クロック	聖書	ティア
			妊娠 70 週目の半ば。 ユダの 40 年の歳月が始 まる。			
8	5 月 24 日 西暦 30 年		ペンテコステー 聖霊が 救世主 注がれ、教会時代が始 まる		使徒行伝 2 章 3. 解釈的	
9	過越祭、西暦 70 年 (4 月中旬 頃)		エルサレム最終包囲戦 ユダ 開始ー ユダの 40 年の任期が満 了する。悔い改めはな かった。		ルカ 21:20 2. 歴史的	
10	9-10 Av、 西暦 70 年 (約 400 万年 前) 8 月)		神殿は焼失した	ユダ	マタイ 24:2 2. 歴史的	
11	西暦 350 年		ユダの最初の刑期 (280 ユダ		レビ記 1. 算数	

		年) が満了する。しかし、依然として悔い改めは見られない。		26:24,28	
12	5月14日 1948	イスラエルが生まれ変わる 国家	世代	マタイによる福音書 24:32-34	2. 歴史的
13	1月23日 1950	クネセト（イスラエル議会）がエルサレムを首都と宣言 — 60対2	世代	詩篇 90:10; マタイ 24:34	3. 解釈的
14	10月7日 2023	ハマスによるイスラエル攻撃 — シェミニ・アツェレット	マーカー	—	2. 歴史的
15	3月27日 2027年 (土)	アダール 2 18、 5787	荒廃の忌まわしきもの — 忌まわしいものは設定 苦難	ダニエル書 12:11; 2 Th 2	4. 預言的

		ヘブライ語				
#	日付	の日付	イベント	クロック	聖書	ティア
16	3月28日 2027 (太陽)	アダール2 19、 5787	1290年の1日目 ・背教の30日間が 始まる	苦難	ダニエル書 12:11	4. 預言的
17	4月26日 2027 (月)	日産 19、 5787	30日目 — 背教の終 焉	苦難	テサロニケ 第二 2:3	1. 算数
18	4月27日 2027 (火)	日産 20、 5787	後半の雨が降る — 1日目 1260年と1335年	1苦難	黙示録 11:3; ダ ニエル書 12:12	4. 預言的
19	4月15日 2030 (月)	日産 12、 5790	過越祭 (ペサハ) M2030 暦 — 1月14日	有効期限	レビ記 23:5	4. 預言的
20	4月24日 2030 (水曜日)	日産 21、 5790	刑罰の期限切れ — 1 ニサン、種なしパン の最終日。5ヶ月が 始まる。	2有効期限	黙示録 9:5	4. 預言的
21	9月27日 2030 (金)	エルル 日、 5790	29ヨム・テルア — 1250日目。 復活、携挙、帰還。 日々は短くなる。	戻る	レビ記 23:24; マ タ4. 預言的 イによる福音書 24:22; イザヤ書 26:19-21	4. 預言的
22	10月7日 2030 (月)	ティシュレヨム・キ プーイ月 日、 5791	10— 1260日目 そして1290日目も 終わります。	戻る	レビ記 23:27; ダニエル書 12:11	4. 預言的

怒りは終わる。						
飯庵の祭り						
23	10月11日	ティシュレ	始まる	戻る	レビ記 23:34;	4. 預言的
	20時30分	イ月14			ゼカリヤ書 14:16	
	(金)	日、				
		5791				
		ヘブライ語の				
#	日付	日付	イベント	クロック	聖書	ティア
ミレニアルキングダム						
24	21	キスレブ	251335日目	戻る	ダニエル書 12:12	4. 預言的
	12月	日、	「彼は幸いである」			
	20時30分	5791	誰が待っているのか。ハヌカ：			
	(土)		寺			
			再奉献。			

付録 B — すべての計算は再現可能

年数は天文学的な年数（紀元前 701 年＝-700 年）で計算されるため、欠落した年ゼロを間違えることは構造的に不可能です。最後に元の年数に戻してください。正の値は西暦、0 以下の値は（1-n）紀元前となります。

#	それが確立するもの	始める手術	年	結果	読み方：ルール
1	イスラエル：当初-700の刑期が満了	紀元前 701 年 +390	390	-310	紀元前 311 年 エゼキエル書 4 章 5 節 — 390 日、1 日が 1 年（エゼキエル書 4 章 6 節）。
2	イスラエル：刑期-700が 7 倍に	紀元前 701 年 + (390×7)	2730	2030	西暦 2030 年 レビ記 26:18,21,24,28 — 「さらに七倍」。包囲戦から前進し、イスラエル

にとってその任期が始まる（エゼキエルの左側）。第7章を参照。

3	ユダ：元の刑期が30満了	西暦 30 年 +40	40	70	西暦 70 年	エゼキエル書 4 章 6 節 — 40 日、1 日が 1 年。十字架刑からエルサレム包囲戦まで。
4	ユダ：最初の乗算 70	西暦 70 年以降 (40×7)	280	350	西暦 350 年	レビ記 26 章 — 最初の拡大。40 × 7 = 280、西暦 70 年の包囲戦から前線に派遣された。
5	ユダ：2 回目の乗算	西暦 70 年以降 (40 x 7 x 7)	1960	2030	西暦 2030 年	レビ記 26 章 — 第二段階の拡大。40 × 7 ² = 1960。「280 × 7」ではない。7 の 2 乗がポイントです。前方にサーブします。包囲から、
それが確立する						読み方：
#	もの	始める手術	年	結果	ルール	
						ユダは任期を終える（エゼキエルの右側）。第7章を参照。
6	磔刑 + 2000 年 (40 周年記念)	西暦 30 年以降 2000	2000	2030	西暦 2030 年	暦ホセア書 6 章 2 節、ペテロ第二 3 章 8 節。50 年を 40 回繰り返すヨベルの年。
7	エルサレムの世代が復興した	1950 + 80	80	2030	西暦 2030 年	暦詩篇 90 篇 10 節 (80 年) マタイによる福音書 24:34。クネセト

					1950 年 1 月 23 日の投票、 60 2 まで。
8	ダニエル書 9:457 章：最初の 7 週間	紀元前 45849 年 + 49	-408	紀元前 409 年	ダニエル書 9 章 25 節 — 7 週間の年。
9	ダニエル書 9:457 章：メシアまでの 69 週	紀元前 458483 年 + 483	26	西暦 26 年	ダニエル書 9:25 — (7 + 62) x 7 = 483 年。
10	イスラエルの再生十一世代（反対意見）	1948 + 80 80	2028	西暦 2028 年	意図的に示されている。 1948 年は 2030 年を表さない。そのため、本書では 1950 年を使用している。 都市の復興。

付録 C — 一日一日が重要

すべてのカウントには両端の日付が含まれます。1 日目は開始日です。
timeanddate.com でこれらのカウントを再現するには、「計算に終了日を含める- すべてのカウント、毎回」にチェックを入れてください。

カウ ント	聖書	から	開始は	に	終わりは	ヘブライ語 (終了)
1290	ダニエル書 12:11	3月 28 日 2027	初穂 — 荒廃をもたらす 忌まわしいもの	10月 7 日 2030	ヨム・キプール — ティシュリ月 10 日	ティシュレ イ月 10 日、 5791
30	テサロニケ第二	3月 28 日	背教が始まる	4月 26 日	背教は終わる	日産 19、 5787

	2:3	2027		2027		
1260	黙示録 11 章 3 節 12:6	4 月 27 日 2027	後雨 — 種なしパンの第 二日目	10 月 7 日 2030	ヨム・キプール — ティシュリ月 10 日	ティシュレ イ月 10 日、 5791
1250	マタイによ る福音書 2 4:22	4 月 27 日 2027	後の雨 — 証人たちは力 を得た	9 月 27 日 2030	ヨム・テルア — 10 日短縮された日	エルル 29 日、 5790 ヘブライ語 (終了)
1335	ダニエル 12:12	4 月 27 日 2027	後期の雨 彼は幸いである 誰が待っているのか	12 月 21 日 2030	ハヌカー キスレブ月 25 日、神殿が再奉献 される	キスレブ 25 日、 5791
2558	マーカー	10 月 7 日 2023	ハマスによる攻撃 シェミニ・アツエレット	10 月 7 日 2030	ヨム・キプール 7 年 まさにその日	ティシュレ イ月 10 日、 5791
157	黙示録 9:5	4 月 24 日 2030	ニサン 21 日 (ラビ暦) — 刑罰の時効；5 ヶ月 始める	9 月 27 日 2030	ヨム・テルア ドアが閉まる	エルル 29 日、 5790

導出： $1290 - 1260 = 30$ 、つまり 2 つの基準日は 30 日離れている。 $1260 - 1250 = 10$ 、つまりヨム・テルアとヨム・キプールは 10 日離れている。どちらの関係も設計段階で考慮されたものではない。第 12 章を参照。

付録 D — 祝祭カレンダー 2025 年～2030 年（両暦年）

観測日付は、メシア 2030 プロジェクトが公表している暦（春分と月が合となる日、エルサレム時間）に基づいています。ラビの暦による日付はここで計算されています。すべての日付は**日中**の日付であり、各祝祭日は前日の日没から始まります。第 2 章と第 1

4 章を参照してください。

年	宴会	観察的	ラビ的	ギャップ
2025	過越祭（1月14日）	2025年4月12日	2025年4月12日	当日
2025	種なしパンの祭りが始まる（15日）	2025年4月13日	2025年4月13日	当日
2025	初穂	2025年4月20日	—	該当なし
2025	シャブオット／週	2025年6月9日	—	該当なし
2025	ヨム・テルア / トランペット (1 ティシュリ)	2025年9月22日	2025年9月23日	1日
2025	ヨム・キプール / 償い (10 ティシュリ)	2025年10月1日	2025年10月2日	1日
2025	仮庵祭（スコット）が始まる	2025年10月6日	2025年10月7日	1日
2026	過越祭（1月14日）	2026年4月2日	2026年4月1日	1日
2026	種なしパンの祭りが始まる（15日）	2026年4月3日	2026年4月2日	1日
2026	初穂	2026年4月5日	—	該当なし
2026	シャブオット／週	2026年5月25日	—	該当なし
2026	ヨム・テルア / トランペット (1 ティシュリ)	2026年9月13日	2026年9月12日	1日
2026	ヨム・キプール / 償い (10 ティシュリ)	2026年9月22日	2026年9月21日	1日
2026	仮庵祭（スコット）が始まる	2026年9月27日	2026年9月26日	1日
2027	過越祭（1月14日）	2027年3月22日	2027年4月21日	30日間
2027	種なしパンの祭りが始まる（15日）	2027年3月23日	2027年4月22日	30日間
年	宴会	観察的	ラビ的	ギャップ
2027	初穂	2027年3月28日	—	該当なし
2027	第二の過越祭（2月14日）	2027年4月20日	2027年5月21日	31日間
2027	第2回種なしパン祭り終了（21日）	2027年4月27日	2027年5月28日	31日間
2027	シャブオット／週	2027年5月17日	—	該当なし

2027	ヨム・テルア / トランペット (1 ティシュリ)	2027 年 9 月 1 日	2027 年 10 月 2 日	31 日間
2027	ヨム・キプール / 償い (10 ティシュリ)	2027 年 9 月 10 日	2027 年 10 月 11 日	31 日間
2027	仮庵祭 (スコット) が始まる	2027 年 9 月 15 日	2027 年 10 月 16 日	31 日間
2028	過越祭 (1 月 14 日)	2028 年 4 月 9 日	2028 年 4 月 10 日	1 日
2028	種なしパンの祭りが始まる (15 日)	2028 年 4 月 10 日	2028 年 4 月 11 日	1 日
2028	初穂	2028 年 4 月 15 日	—	該 当 な し
2028	シャブオット / 週	2028 年 6 月 4 日	—	該 当 な し
2028	ヨム・テルア / トランペット (1 ティシュリ)	2028 年 9 月 19 日	2028 年 9 月 21 日	2 日間
2028	ヨム・キプール / 償い (10 ティシュリ)	2028 年 9 月 28 日	2028 年 9 月 30 日	2 日間
2028	仮庵祭 (スコット) が始まる	2028 年 10 月 3 日	2028 年 10 月 5 日	2 日間
2029	過越祭 (1 月 14 日)	2029 年 3 月 28 日	2029 年 3 月 30 日	2 日間
2029	種なしパンの祭りが始まる (15 日)	2029 年 3 月 29 日	2029 年 3 月 31 日	2 日間
2029	初穂	2029 年 4 月 1 日	—	該 当 な し
2029	シャブオット / 週	2029 年 5 月 21 日	—	該 当 な し
2029	ヨム・テルア / トランペット (1 ティシュリ)	2029 年 9 月 9 日	2029 年 9 月 10 日	1 日
2029	ヨム・キプール / 償い (10 ティシュリ)	2029 年 9 月 18 日	2029 年 9 月 19 日	1 日
2029	仮庵祭 (スコット) が始まる	2029 年 9 月 23 日	2029 年 9 月 24 日	1 日
2030	過越祭 (1 月 14 日)	2030 年 4 月 16 日	2030 年 4 月 17 日	1 日
2030	種なしパンの祭りが始まる (15 日)	2030 年 4 月 17 日	2030 年 4 月 18 日	1 日
2030	種なしパンの祭り終了 (21 日)	2030 年 4 月 23 日	2030 年 4 月 24 日	1 日
2030	初穂	2030 年 4 月 21 日	—	該 当 な し
2030	シャブオット / 週	2030 年 6 月 10 日	—	該 当 な し
2030	ヨム・テルア / トランペット (1 ティシュリ)	2030 年 9 月 28 日	2030 年 9 月 28 日	当日
2030	ヨム・キプール / 償い (10 ティシュリ)	2030 年 10 月 7 日	2030 年 10 月 7 日	当日
2030	仮庵祭 (スコット) が始まる	2030 年 10 月 12 日	2030 年 10 月 12 日	当日

付録 E — 年表に関する注記

批評家が攻撃できるあらゆる論点について、その学術的な範囲と選択理由を明記する。

センナケリブの包囲戦の失敗— 本書では*紀元前 701 年*としている。代替案：異論なし。

確定された。エルサレムの包囲は失敗に終わった。アッシリア自身の年代記には、ヒゼキヤが「檻の中の鳥のように」閉じ込められたとあるが、都市が陥落したとは決して主張していない。

確固たる結論。少数派（シェイ）は紀元前 688～686 年頃に 2 度目の遠征を提案したが、多数派は紀元前 701 年に 1 度の遠征を行った。

サマリア陥落— 本書では *紀元前 722 年（文脈のみ）* を基準としている。代替案：紀元前 720 年（サルゴン 2 世）。

列王記下 17:5-6 およびバビロニアの資料によると、シャルマネセル 5 世の 3 年間の包囲が終わり、

紀元 722 年頃。サルゴン 2 世は自身の功績を主張しているが、学者たちは彼の征服または反乱鎮圧を 720 年の出来事としている。

計算には一切使用されていません。ひっそりと利用されていたと誤解されないように記載しています。第 6 章を参照してください。

アルタクセルクセスがエズラに発した勅令— この書では *紀元前 458 年* としている。別の説：紀元前 457 年。

紀元前 458 年は、紀元前 465/464 年の即位から始まる、即位年を基準としたペルシア暦（ニサン月を基準とする）に従う。紀元前 457 年は、即位年を基準とした暦に加えて、ユダヤ暦のティシュリ月と、約 7 ヶ月に及ぶアルタバヌスの王位継承期間に基づく。どちらの説も妥当である。

本書は紀元前 458 年を基準としている。紀元前 457 年を基準とする計算では、ダニエル書第 9 章の日付はすべて 1 年後となるが、第 8 章の論点はその変更後も変わらない。

ティベリウス帝治世 15 年目— 本書では *西暦 26 年* を使用しています。代替案：西暦 27 年、西暦 28/29 年。

多数派の計算では、アウグストゥスの死（西暦 14 年 8 月 19 日）から数え始め、西暦 28 年後半になる。
/ 29 年初頭。共同統治の計算は、ティベリウスの同等の属州権限から始まる。

c. 西暦 11-13 年、西暦 26-27 年。

本書は、この歴史叙述における最も弱い部分である。本書は少数派による共同統治という見方に基づいており、第 7 章と第 8 章では、西暦 26 年を異論のない事実として提示するのではなく、その旨を述べている。

磔刑— この本では西暦 30 年 4 月 5 日を使用しています。代替案：西暦 33 年、西暦 31 年。

過越祭、ニサン 14 日。西暦 26 年の洗礼と 3 年半の奉仕活動（4 回の過越祭：ヨハネ 2:13、5:1、6:4、11:55）が必要。

西暦 26 年という年を考えると妥当な数字だが、ティベリウス帝の暦とは独立して計算されたものではなく、上記のティベリウス帝の暦と同時期に成立する。

エルサレム包囲戦が始まる— 本書では西暦 70 年の過越祭を基準としている。代替案：—。

ヨセフスによれば、ティトゥスの軍隊は、西暦 70 年 4 月中旬頃、ニサンの月 14 日に過越祭の群衆を利用して城壁を包囲した。

これは確かな基準であり、過越祭から過越祭までの期間を数える際の正しい基準点となる。第 10 章を参照のこと。

神殿が破壊された— 本書では西暦 70 年アブ月 9 日～10 日としている。別の説としては、西暦 70 年 8 月 4 日頃が挙げられる。

ヨセフスは 10Av と言っています。ミシュナ・ターニット 4:6 には 9 Av とあります。包囲開始から約 3 か月半後。

間違いではない。この違いは重要だ。以前の著書では、神殿は過越祭の時に破壊されたと書いていたが、それは間違いだった。包囲戦は過越祭に始まり、神殿が焼失したのはそれから約3か月半後のことだった。この訂正された事実こそ、ユダの時計に実際に必要な情報なのだ。

紀元前 311 年— この本ではイスラエルの紀元前 390 年を使用しています。代替案: ー。

紀元前 311 年の春はセレウコス朝の紀元（ニサン 1 日＝紀元前 311 年 4 月 3 日）であり、後にユダヤ人によってミニヤン・シュタロット、すなわち「契約の時代」として採用され、マカバイ記第一やユダヤ法文書において千年以上にわたって用いられてきた。

紀元前 311 年にユダヤで征服、戦闘、あるいは統治者の交代は起こらなかった。その意義は暦上のものに過ぎず、第 6 章にもその旨が記されている。簡潔な記述でもなお印象的である。

西暦 350 年— この書はユダの最初の x7 が期限切れになるという記述を使用しています。代替案: 西暦 351-352 年。

コンスタンティウス・ガルスに対するユダヤ人の反乱は、350 年ではなく 351 年から 352 年にかけて起こった。ガルスは 351 年 3 月に皇帝となり、ウルシキヌスはディオカエサレア（セフォリス）を破壊し、ティベリアとリッダを荒廃させた。

隣接しているが、完全に一致するわけではない。西暦 350 年自体には具体的な記録はなく、計算もその年に何かが起こったかどうかには依存しない。第 7 章を参照のこと。

クネセト（イスラエル議会）がエルサレムを首都と宣言する——本書では 1950 年 1 月 23 日を基準としている。代替案：1949 年 12 月の移転。

確認済み：1950 年 1 月 23 日の投票結果は 60 対 2 だった。ベン＝グリオンは、1949 年 12 月 9 日の国連による同市の国際化決議を受けて、12 月 5 日と 13 日にクネセト（イスラエル議会）でこの移転を発表していた。

確かな内容です。1948 年の反論（ $1948 + 80 = 2028$ ）は第 9 章で提起され、回答されています。同章では、考えられる組み合わせの完全な表が掲載されています。

ハマスによる攻撃— 本書では 2023 年 10 月 7 日を使用しています。代替案：—。

2023 年 10 月 7 日（土）、シェミニ・アツエレット。2030 年 10 月 7 日のちょうど 7 年前。

固体。